

わたしの<sup>せいしよ</sup>聖書が<sup>いちばん</sup>一番！ <sup>かん</sup>2巻

イサクの<sup>けっこん</sup>結婚～<sup>じっかい</sup>十戒  
～<sup>そうせいき</sup>創世記 22章 - <sup>しょう しゅつ</sup>出エジプト記 <sup>き しょう</sup>20章～







## もくじ

だい しょう	第 1 章	イサクの花嫁 <sup>はなよめ</sup>	1
だい しょう	第 2 章	似ていない双子 <sup>ふたご</sup>	9
だい しょう	第 3 章	ヤコブの新しい名前 <sup>あたらしなまえ</sup>	17
だい しょう	第 4 章	家族の問題 <sup>かぞくもんだい</sup>	26
だい しょう	第 5 章	誠実さが報われる <sup>せいじつむく</sup>	35
だい しょう	第 6 章	神様によって備えられた救出者 <sup>かみさまそなきゅうしゅつしゃ</sup>	44
だい しょう	第 7 章	ご自分の力をあらわす神様 <sup>じぶんちからかみさま</sup>	53
だい しょう	第 8 章	ついに自由に！ <sup>じゆう</sup>	62
だい しょう	第 9 章	メラでの神様の約束 <sup>かみさまやくそく</sup>	70
だい しょう	第 10 章	天からの食べ物 <sup>てんたもの</sup>	78
だい しょう	第 11 章	岩から水が！ <sup>いわみず</sup>	86
だい しょう	第 12 章	律法をお語りになる神様 <sup>りっぽうかたかみさま</sup>	94
だい しょう	第 13 章	神様を愛する <sup>かみさまあい</sup>	102



だいしょう  
第1章  
はなよめ  
イサクの花嫁



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

あんしょうせいく  
暗唱聖句

「わたしはあなたを教え、あなたの行くべき道を示し、わたしの目をあなたにとめて、さとすであろう。」

— 詩篇 32 章 8 節 —



にちようび  
日曜日

もしアブラハムの広い野营地〔キャンプ〕を訪れることができたなら、アブラハムがテントの入口にすわって、遠くの美しい丘をながめているようすを目にしたかもしれません。

彼は、何を考えていたのでしょうか？ もしかしら、自分の古里を思い出し、神様のご命令に従って、ずいぶん遠いところまで来てしまったなど、考えていたのかもしれない。あれからもう、何十年もたってしまっただけです。

その彼の古里からやってきた旅人たちが、お兄さんのナホルと家族のようすを知らせてくれました。創世記 22:20。家族や親せきに会いたいと思いましたが、そこには二度と戻れないことも知っていました。もしかしたら、ノアの息子のセムがまだ生きていることも、旅人たちは教えてくれたかもしれません。だとしたら、セムは 800 歳を過ぎていることになります。

アブラハムは、彼が多くの子孫の父となるという、神様の約束を覚えていました。移り住んだこの国を、彼の子孫が治めるようになるという約束も、与えられていました。

ところがアブラハムには、息子がひとりしかいません。しかもまだ、テント暮らしをしています。持っている土地といえば、妻のサラが死んだときに、彼女を葬る〔墓に埋める〕ために買った、小さな土地だけです。

そうせいき しょうさんしょう  
(創世記 23 章参照)。

いとしいサラのことを思うと、涙がほおをつたって流れてきました。彼女が死んで3年がたちましたが、彼も息子のイサクも、まだ彼女のいない寂しさを強く感じていました。

イサクはりっぱな大人になり、年老いた父親に代わって、家畜の世話をよくやってくれましたが、母親がいなくて寂しがっているのを、アブラハムは知っていました。イサクのために、お嫁さんを探さなくては! アブラハムは、ため息をつきました。どこへ行けば、イサクのために、いいお嫁さんを見つけることができるのでしょうか?

**かんが 考えてみよう:** この時になっても、サタンはまだアブラハムを誘惑して、疑いの心を起こさせようとしていたと思いますか? もちろんです。サタンが、人間を誘惑するのをやめることはありません。しかしアブラハムは、神様にとって不可能なことは決してないことを学んでいました。私たちがまた、そのことをいつも覚えているように、神様は望んでおられると思いますか?

## げつようび 月曜日

せいしょ じだい かみさま うやま  
**聖**書の時代、神様をあがめ敬う  
おや おも  
親たちは、子供たちのために  
けっこんあいて さが てつだ  
結婚相手を探す手伝いをしたものでした。  
かれ むすこ むすめ おや しんらい  
彼らの息子、娘たちは、親を信頼して  
りょうしん じぶん あい  
いました。両親は自分たちを愛していて、  
じぶん かしこ こども  
しかも自分たちよりも賢いことを、子供たちはよく分かっていました。もちろん親たち

こども あいて むり  
も、子供たちのいやがる相手と無理やり  
けっこん けつ  
結婚させるようなことは、決してしません  
でした。

イサクは40歳になっていました。アブラハムは、息子のために、優しく愛情ぶかく、本当の神様を拜むお嫁さんを探してあげたいと、いつも考えていました。彼らが住んでいた国の人たちは、偶像を拜んでいました。偶像礼拝を家庭に持ち込んだら、みんなが不幸になることを、アブラハムはよく知っていました。

アブラハムは、ハガルやロトの妻、イシマエルの妻たち、また神様を心から愛することも、神様の律法を気にもとめない女たちのことを考えました。息子のイサクは、そのような女と絶対結婚させてはいけな  
おも こども かみさま  
いと思ひました。子供たちに、神様を  
あい かみさま したが おし つま  
愛し、神様に従うことを教える妻でなくては  
はいけません。

アブラハムとイサクは、私たちが先週学んだ、山での経験を決して忘れることはありませんでした。そのとき、神様が言われたみ言葉を読んでください。創世記 22: 15 - 18。

イサクにとってふさわしい花嫁を見つけることについて、アブラハムが考え祈っていると、自分の古里には、今でも神様を礼拝する親せきがたくさんいることを、思い出しました。そこなら、イサクにふさわしい人がいるかもしれない。彼は、長年いっしょに暮らしてきた、忠実なしもべのエリエゼルと相談することにしました。

**かんが 考えてみよう:** どうしてアブラハムは、

偶像ぐうぞうを拜おがむ人ひととはイサクを結婚けっこんさせたくないと考えたかんがのですか？なぜ私わたしたちの両親りょうしんは、子供こどもたちがだれと遊あそんでいるかを気にするのでしょうか？両親りょうしんは、私わたしたちを愛あいし、私わたしたちのことをよく知しっていますか？子供こどもたちが自分じぶんの結婚相手けっこんあいてを選えらぶときに、親おやがその手伝てつだいをするのが、神様かみさまのご計画けいかくです。今日こんにちも、神様かみさまを愛あいする人々ひとびとがそのご計画けいかくに従したがうとき、幸福こうふくな家庭かていがもっと増ふえるだろうと思おもいませんか？

## かようび 火曜日

エリエゼルは、長年ながねんの間アブラハムのお嫁よめさんにはどんな人ひとがふさわしいか、祈いのりながらあれこれ考かんがえていました。イサクのお嫁よめさんになる人ひとは、神様かみさまを愛あいし礼拝らいはいする女性じよせいでなくてははいけません。働き者はたらであることも大事だいじです。明るあかくて、人の役やくに立つ人ひとを探さがす必要があります。の役やくに立つ人ひとを探さがす必要があります。礼儀らいぎ正ただしく、親しみしたのある娘むすめさんでなくては・・・そのうえ器量きりょうよし〔顔かおだちが美うつくしいこと〕であれば言いうことない、と考かんがえたかもしれません。

まず初はじめに、アブラハムは、彼かれが願ねがいしたとおりに行こうどう動どうすることを、エリエゼルの約やくそく束そくしてもらいました。創世記そうせいき 24: 1-4。

もちろんエリエゼルは、アブラハムの指示しじに従したがうつもりでしたが、なんらかの問題もんだいが起おこることも考かんがえられました。たとえイサクにぴったりの花嫁はなよめが見つみついても、もし彼女かのじよが自分じぶんの生まれ育うった家いへから遠とほく離はなれたところに行いくことを望のぞまなかったら、どうすればよいのでしょうか？もし

そうになったら、エリエゼルはイサクを連れつて、彼女かのじよの国くにに行いくべきでしょうか？アブラハムは、何なんと言いいましたか？5-8節。エリエゼルは、最善さいぜんをつくすことを約やくそく束そくしました。

アブラハムの生うまれ故郷こきょうは何百なんびやくキロも離はなれたところにあつたので、エリエゼルの旅たびは何日なんにちもかかりました。昔むかしの人ひとの旅たびは、今いまとはだいふ違ちがっていました。歩あるくか、あるいはロバうまか馬のかラクダいに乗のりて行くかの、どちらかいしありませんでした。

旅たびをしながら、エリエゼルは、イサクのお嫁よめさんにはどんな人ひとがふさわしいか、祈いのりながらあれこれ考かんがえていました。イサクのお嫁よめさんになる人ひとは、神様かみさまを愛あいし礼拝らいはいする女性じよせいでなくてははいけません。働き者はたらであることも大事だいじです。明るあかくて、人の役やくに立つ人ひとを探さがす必要があります。の役やくに立つ人ひとを探さがす必要があります。礼儀らいぎ正ただしく、親しみしたのある娘むすめさんでなくては・・・そのうえ器量きりょうよし〔顔かおだちが美うつくしいこと〕であれば言いうことない、と考かんがえたかもしれません。

**考かんがえてみよう:**この長ながい旅たびでは、だれがエリエゼルの先さきに行いって彼かれを導みちびくだろうと、アブラハムは言いいましたか？7節の後半こうはんをよんでください。天使てんしは、私わたしたちの歩あゆみも導みちびいてくれますか？

## すいようび 水曜日

長ながい旅たびの終おわりに近ちかづいたとき、エリエゼルは、イサクの妻つまとなる人ひとを選えらぶために、ある計画けいかくを立てました。

そしてついに、ある日の午後、遠くのほうに目的地である町が見えてきました。そこに、アブラハムのお兄さんであるナホルが、住んでいるはずです。夕方までに、エリエゼルはそこに着いていました。彼はまず、何をしましたか？ お祈りでしたね。  
**創世記 24：11－14。**

神様は、なんとすぐに、彼の祈りに答えられたことでしょう。**15－20 節。**

考えてみてください。彼は、イサクのために探そうと思っていたその人と、まっ先に会ったのでした。その若い女性は、とても働き者でした。明るくて、役に立つ人でした。礼儀正しく、親しみがありました。そのうえ、器量よしでもありました。

しかしエリエゼルは、しんちょうに行動する必要がありました。家族の人たちは、遠いよその国に彼女がお嫁に行くのを、許してくれるでしょうか？ まずは、家族の人たちに会って、話をしなくてははいけません。  
**23－27 節。**

リベカは、急いで家にもどり、井戸で起こったことを家族の人たちに話しました。それを聞いたお兄さんのラバンは、あわててエリエゼルにあいさつしようとして行き、彼を家まで案内しました。ふだんは静かな家の中が、大さわぎです。エリエゼルが、主人アブラハムが自分を使わしたわけを、家族の人た

ちに話したからです。

まもなく彼らは、エリエゼルのために、ごちそうを用意してくれました。ところが彼は、自分のはるばるやって来た目的を彼らに話してしまうまでは、食べようとしませませんでした。

家族の人たちは、話に聞き入りました。リベカも、だまって聞いていました。とても信じられないような話でした。このエリエゼルという人は、奇跡的に生まれたアブラハムの息子の嫁として、自分を選んでくれたのだろうか？ 家族の人たちは、遠いよその国に彼女がお嫁に行くのを、許してくれるでしょうか？ 彼女の胸は、大いに高鳴っていたことでしょう。話を聞いたお兄さんとお父さんが、答えました。彼らは何と言いましたか？ **50、51 節。**

ふたたびエリエゼルは、ひざまずいて祈りました。彼は、どれほど感謝に満たされたことでしょうか？



**かんがえてみよう：**この物語は、神様のすばらしさについて、私たちに教えてくれます。神様は、私たち一人ひとりのために、特別な計画をもっておられます。神様は、あなたのためにも特別な計画をもっておられることを、あなたは知っていますか？



## もくようび 木曜日

みんなは、エリエゼルがしばらくそこにとどまることを望んでいました。しかし、次の日の朝起きてみると、すぐに帰ると彼が言い出したのです。彼はそこで起こったことを、早くアブラハムとイサクに知らせたいと思いました。彼らもその知らせがくるのを、待ちこがれているはずです。エリエゼルは、何と言いましたか？リベカは、どんな決心をしましたか？ **創世記 24:56 - 61。**

神様のご計画にただちに従う気持ちをあらわしたりベカは、とても勇敢だったと思いませんか？ 家族の人たちは、大好きな乳母のデボラが、カナンへいっしょに行くことも許してくれました。

ラクダに乗った一行は、カナンに向かって出発しました。旅の途中、エリエゼルは、リベカにいろんな話を聞かせて、退屈しのぎをさせてあげたかもしれません。その昔、生まれ故郷を離れてカナンに移り住んだアブラハムとサラの物語を、聞かせてあげたかもしれませんね。

アブラハムの甥であったロトが、道を誤ってソドムに移り住んだ話や、捕虜となった彼とその家族をアブラハムが助け出した話を、聞かせてあげたかもしれません。神様が、ソドムや他の町々を滅ぼ

されたときの悲しい物語も、聞かせてあげたことでしょう。

もちろんリベカは、何よりもイサクについて話を聞きたいと思っていました。彼は、アブラハムとサラの間に奇跡的に生まれた息子で、しかも彼女は、まもなくその人と結婚することになったのですから。



エリエゼルは、イサクがどんなにりっぱな、神を敬う若者に成長したかを、彼女に語って聞かせたことでしょう。彼女の心には、彼に会いたい気持ちがあります。

### かんが 考えてみよう:

今週の物語に出て

くる人たちは、自分たちが神様に信頼していることを、どうやって証明しましたか？ エリエゼル、リベカと家族の人たちについて考えてみましょう。

## きんようび 金曜日

ついに、旅人たちはアブラハムの野营地〔キャンプ〕にやってきました。イサクは、アブラハムの家畜の世話をしていましたが、エリエゼルがもどいたら、すぐにお父さんのテントへ行こうと思っていました。

ラクダに乗った一行が着いたとき、イサ

クは何なにをしていましたか？ 創そう世せい記き 24：63  
— 65。リベカは、乳母うばのデボラむに向かっ  
てこう言いったかもしれません。「私わたしのベール  
〔顔かおをおおう布ぬの〕はどこかしら？ どうしま  
しょう？ 急きゆうにこわくなってきたわ。」

エリエゼルが、これまでのいきさつを  
話はなすのに、どれだけかかったかは分わかり  
ませんが、ついにイサクは、美うつくしいリベ  
カあに会うことができました。彼かれは、すぐに  
かかのじよす彼女がが好すきになりました。もう、寂さびしくあ  
りません。私わたしたちが神かみ様に信しん頼らいして従したがうこ  
とを選えらぶとき、決けつして心しん配ぱいはいらないこと  
が、またもや明あきらかにされたのでした。

聖書せいしょには書かかれていませんが、きっと  
かれかれらは、すばらしい結けつ婚こん式しきをあげたことで  
しょう。そして、イサクとアブラハムを祝いわう  
ために、多おほくの人ひと々びとがかけつけたことでしょ  
う。

**かんが**  
**考えてみよう：** 当とう時じ、神かみ様さまを愛あいする親おや  
たちが裕ゆう福ふくでも貧まずしくても、子こ供どもたちは、  
仕し事ごとの仕しかたを親おやから教おしえられました。イ  
サクとリベカおやの親おやたちは、どゆちふくも裕ゆう福ふくで  
したが、子こ供どもたちはたらに働はたらくことをしおしっかり教  
え込みました。今こ日にちでも、親おやたちはその  
よおうにすべおもきだと思おもいませんか？ あなたは  
自じ分ぶんの家庭かていで、役やくに立たつ仕し事ごとをすること  
を学まなんでいますか？ 水みずを運はこぶのは、とて  
もしづいし仕事ごとです。リベカはその仕し事ごとを、こ  
ころよく、明あかるい気き持もちでやりましたか？  
あなたはどのよおやうに、親おやから言いいつけられ  
た仕し事ごとをしていますか？

まな  
**もっと学ぼう！**

★創そう世せい記き 24章

★人じん類るいのあけぼの上じょう巻

p. 181-188

★あがないの歴れき史 p. 102-105



## かんさつ ミジーの鑑札

エイミー・シェラード

ミジーの茶色い毛むくじゃらの頭に自分の顔をうずめて、カールは、けん命に泣くのをがまんしました。ミジーは、カールのような男の子にとって、最高の友だちでした。カールがほかの子供たちのように、走ったり遊んだりすることができなくても、ミジーはちっとも気にしませんでした。カールが松葉杖を使って、町の通りをぎこちなく歩くとき、ミジーはいつでもそばにぴったりついてくれました。

ところが、カールにはお金がなく、この忠実な犬の鑑札を買うことができなくて、ミジーを手放さなくてはいけなくなりました。どの犬も、鑑札をつけなくてはいけないという法律があるので

す。そこでカールは、あることを思いつきました。「イエス様は私たちの祈りに答えてくださるって、安息日学校の先生が言ってたな。だから僕は、このままミジーを飼うことができるようにしてくださいって、イエス様をお願いしよう。」そのことを犬に話すと、ミジーは、まるでカールの言葉が分かったかのように、しっぽをふっていました。

ちょうどそのとき、親友のエディーが、

くちぶえを吹きながら近づいてきました。彼は、ピカピカのスケート靴を買いに、町へ行くところでした。何か月もこつこつ貯金をして、ようやく欲しかったスケート靴を買えるだけのお金がたまっていたのでした。

ばったり出会ったふたりは、道ばたにすわって、しばらく話をしました。話をしながら、エディーはミジーとじゃれ合っていて遊んでいます。

カールは、自分がお祈りしていることについて、エディーに話しました。「イエス様はきっと、ぼくがミジーを飼いつづけることができるようにしてくださいと信じているんだ。」カールは明るく言いました。

まもなく、エディーは、ふたたび町に向かって歩き出しました。彼は

ずっと、カールとミジーのことを考えていました。

エディーは、「かわいそうな奴だ」とひとり言をいいました。「もしミジーをとりあげられたら、あいつはとっても悲しむだろうな。だれかが、鑑札のお金を払ってあげないと。」カールのお祈りが聞かれるた



めに、自分も手助けをしたいと思いました。でも、彼が持っているのは、スケート靴を買うためにためたお金だけです。

とうとうエディーは、「スケート靴はあとまわしにしよう」と言って、道を引き返しました。そしてふたたび、カールとミジーの前に現れたのでした。

エディーは、「ミジーを一晩だけ、ぼくに貸してくれないかな？」と尋ねました。

カールは、犬をぎゅっと抱きしめてから、「もちろん、貸してもいいよ」とエディーに言いました。「君なら、ミジーをかわいがってくれるだろうから。」

次の日の朝、カールは家のベランダにすわって、外で遊んでいる子供たちをながめていました。犬をころよく貸してあげたのはよかったのですが、ミジーがないのを、とても寂しく感じました。そのとき、何か小さい動物が、家の角からとつぜん現れました。その動物は、とびはねるように走ってきて、カールの腕に飛び込んだのです。

「ミジー！」とカールは叫びました。犬は、うれしそうに体をくねらせています。ミジーをなでまわしたカールは、首のまわりに何かがあるのに気づきました。カールの目が輝きました。それは、なんだったと思いますか？ ミジーは新品の首輪をはめていて、そこにはピカピカの鑑札がついていたのです。「イエス様が、ぼくのお祈りを聞いてくださった」とカールは叫びました。「イエス様、ミジーをずっと飼うことができるようにしてくれて、ありがとうございます！」

近所のある家では、エディーがにっこりしながら、残ったお金を数えています。「カールのお祈りが聞かれる手伝いができて、本当によかった」と彼は言いました。「ミジーの鑑札を買うのは、とてもゆかいだったな。スケート靴は、またいつでも買えるんだから。」



# だい しょう 第2章

## に 似ていない双子



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「たがいにうそをいってはいならない」。  
コロサイ人への手紙3章9節

#### にちようび 日曜日

アブラハムが140才くらいになったころ、自分はもう長くは生きられないだろうと思いました。死ぬ前に、神様を愛し拝む人と、イサクを結婚させたいと思いました。その願いはかないましたか？

そのころもまだ、アブラハムはテント暮らしをしていて、持っている土地もほとんどありませんでしたが、彼は幸せでした。いつの日か、イエス様がおいでになった後で、素晴らしい家に住めるようになることを、彼は知っていました。神様は約束どおり、イサクという息子を与えてくださいました。残りの約束も、かならず守ら



れることを知っていました。ヘブル11:8  
- 10。

ハガルの息子であったイシマエルは、どうなったと思いますか？彼は、裕福な砂漠の支配者となり、あちらこちらを転々としていました。彼の妻たちは、偶像を拝んでいました。彼女たちはしっと〔うらやみねたむこと〕深く、よくけんかをしま

した。イシマエルも、彼の家族も、幸せではありませんでした。家庭にイエス様を招き入れなかったためです。

アブラハムはイシマエルに、神様を愛し拝むことを教えていました。神様の律法に従うことも教えていました。ところがイシマエルは、神様にそむく道を選ん

だのでした。神様は、そんなイシマエルを見捨てられましたか？ いいえ、私たちがまちがった道を選ぶとき、神様は悲しまれます。そのような道は、かならず私たちが不幸へと導くからです。それでも神様は、私たちを愛し、助けようとなさるのです。

イシマエルは年をとってから、自分がまちがった道を選んできたことに気づき、そのことを悔やみました。もちろん、神様は彼をゆるしてくださいました。ゆるされた彼は、ふたたび神様を愛し拝む人になりました。イサクを憎む気持ちもなくなりました。アブラハムは、どんなに喜んだことでしょう。

アブラハムは、イサクがリベカと結婚した後、さらに35年も生きました。彼が死んだとき、イシマエルとイサクが彼を葬りました。

**考えてみよう：**聖書には、私たちが大して変わらない人々について書かれていることを、あなたはうれしく思いませんか？ そのような人々について学ぶと、神様がどれほどしんぼう強く、愛情ぶかいお方であるかが分かってきます。また、サタンのうそを信じて、決して幸せにはなれないことも分かるのです。

## げつようび 月曜日

時がたつにつれて、イサクと妻のリベカは、なかなか子供ができないので、心配になってきました。結婚してから、もう20年もたっていたのです。

ふたりとも、どうか赤ん坊を与えてくださいと、神様にお願いしました。ようやく、リベカのおなかに子供ができたのですが、それが双子であるとわかって、彼らはとても驚きました。創世記25章の23節で、神様はリベカに何と言われましたか？

双子というのは、顔も性格もそっくりなことが多いのですが、時には見かけも性格もまったく違う双子が生まれることもあります。神様はリベカに、彼らの子供たちは、お互いにまったく似ない双子になるだろうと言われました。

しかも、あとから生まれてくる子供のほうが、特別なたまものを受けることになると、神様は言われたのでした。いつもは、最初に生まれる子供のほうが、特別なたまものを受けていました。それは、どういう意味でしたか？

当時、神様をあがめる家族に生まれる最初の男の子は、特別な祝福を受けることになっていました。それは、長子の特権と呼ばれていました。

父親が死ぬと、長子の特権をもつ息子が、家族の長となりました。そして毎日、長となった人が、家族のためにいけにえをささげました。彼が、家族の者に神様の律法を教え、いつの日か、自分たちをサタンから救うために死んでくださる救い主がおいでになるという約束について、みんなに教えたのでした。つまり彼は、その家族の中で、祭司の役目をはたしていました。

また長子の特権をもつ息子には、他の子供たちよりも二倍も多く遺産〔親の残し

た財産] が与えられました。

いちばん上の息子が死ぬか、神様に従おうとしないときには、父親が、べつの息子に長子の特権を与えることがゆるされました。長子の特権をもつ息子は、その特権を望まなければ、それを売るか、だれかにゆずることもできました。神様はりべかに、二番目の息子のほうが、神様を愛し敬う人になるとお告げになりました。長子の特権は、その子に与えられるということでした。

**かんが 考えてみよう:** 長子の特権は、とても重要なものでした。どうしてそれほど重要であったか、言ってみてください。双子の兄弟のうち、どちらがその長子の特権を受けるべきであると、神様はおっしゃいましたか？最初に生まれたほうですか？それとも、二番目に生まれたほうですか？

## かようび 火曜日

いよいよ、双子の赤ん坊が生まれましたが、確かにこの子たちは、生まれたときからまったく似ていませんでした。創世記 25 : 24 - 26。

ヤコブという名前は、「押しのける者」という意味です。では、「押しのける」とはどういう意味でしょう？もしだれかが、あなたのもっている何かを自分のものにするために、あなたをだましたとしたら、その人を「押しのける者」と呼ぶことができます。あなたは、押しのける者と呼ばれたいですか？

エサウとヤコブは大きくなるにつれて、ほかにどんな違いが明らかになってきましたか？ 27 節を呼んでください。ふたりは、外見が似ていないだけでなく、あらゆる点で違っていました。

双子の兄弟は、たくましく健康な青年になりました。ふたりとも、神様を拝むことを教えられました。神様の律法についても学びました。ところが大きくなるにつれて、彼らはまったく違う道を選んでいくのでした。

エサウは生まれつき気がみじかく、わがままで軽はずみでした。人生は楽しければそれでいいと考える人で、いつでも勝手気ままにふるまっていました。神様を心から愛することはなく、神様の律法に従うのも、彼にとってはどうでもいいことでした。

ヤコブは、正反対の人物でした。彼は忍耐づよく、親切で思いやりがあり、役に立つ青年でした。羊の世話と畑仕事が好きでした。エサウが神様とその律法をなんとも思っていないことを、彼は知っていました。また、二番目の子供に特別な祝福が与えられるだろうと、神様がおっしゃったことも知っていました。

その二番目の子供とは、だれのことでしたか？もちろん、ヤコブのことでした。しかもヤコブは、神様を心から愛していました。

もちろんイサクもリベカも、ふたりの息子を愛していましたが、28 節には何とかかかれていますか？

エサウは、弓矢で狩りをするのが大好き

きでした。イサクは、わくわく、はらはらしながら狩りの話を聞くのが楽しみでした。イサクは特に、エサウが用意したシカの肉が大好きでした。しかしリベカは、思いやりがあり、すなおで、よく親の手伝いをするヤコブをかわいがりました。

**かんが** **考えてみよう**：人の生まれつきの外見や性格は、みなそれぞれ違っています。それは、当たり前のことですね。しかし、もし私たちが生まれつきわがままで気がみじかくても、イエス様は、そのような欠点をも変えることがおできになるでしょうか？もし私たちが、イエス様によって変えていたくことを選ぶなら、それは可能なのです。あなたも、イエス様に変えてもらいたい欠点がありますか？もしあるなら、今すぐ、イエス様にお願ひしましょう。

## すいようび 水曜日

ある日、エサウは遠くまで狩りに出かけ、くたくたになって帰ってきました。また、とてもおなかすいていました。ヤコブのテントの近くを通ると、食べ物ものりょうりを料理しているにおいがしました。ヤコブは、レンズ豆まめのシチューをつくっていました。おいしそうな食べ物もののおいにつられて、エサウはヤコブのテントにやってきました。

「おい、ヤコブ、おれは腹ペコで死にそうなんだ。お前のシチューをおれにも分けてくれないか？」とたのみました。

くたくたになった、腹ペコのお兄さんを見たヤコブは、とつぜん、よくない考えが頭あたまにうかびました。エサウと、ある取引とりひきをしようと考えたのです。

「このシチューをぜんぶ分けてあげたら、長子の特権とつけんをぼくにゆずってくれないか？」とヤコブは尋ねました。

エサウはヤコブに言いました。「おれは腹ペコで死にそうなんだ。もしここで飢え死じにしたら、長子の特権とつけんがなんになるだろうか？そんなもの、お前にくれてやるよ。」

「約束だよ？」とヤコブが念ねんをおしました。

「いいとも。約束だ」とエサウは言いました。このほんの短い間あいだに、彼は、長子の特権とつけんなんかどうでもいいと思おもっていることを明らかにしたわけです。創世記 25 章の 29 節から 34 節までを読よんでください。33 節によると、エサウの約束は、決して





か  
変えることのできな  
えいきゆうてき  
い、永久的なもの  
でした。

エサウは、多く  
のまちがった選<sup>えら</sup>び  
をしました。彼は、  
ぐうぞう おが いぎよう  
偶像を拝む異教の  
おんな けっこん  
女たちと結婚して、  
イサクとリベカを悲  
しませました。

ヤコブは、まだ  
けっこん  
結婚していません  
でした。彼は、天  
かみさま あい  
の神様を愛し、  
れいはい じよせい けっこん おも  
礼拝する女性と結婚したいと思っていまし  
た。

かんが  
**考えてみよう**: エサウのやったことは、ま  
ちがっていましたね。では、ヤコブのやっ  
たことは、正しかったですか？ 彼に長子の  
とっけん あた かみさま  
特権を与えてくださるのは神様であること  
をしん かみさま まか  
を信じ、神様にすべてを任せて、ちょうど  
いい時に、すべてがうまくいくように神様  
はたら ばたら  
が働いてくださるのを待つべきではなかつ  
たですか？

## もくようび 木曜日

イサクは、かなり年をとって、ほと  
んど目が見えなくなりました。そ  
して、もう長くは生きられないだろうから、  
そろそろ長子の祝福を息子に与えようと  
かんが かれ かみさま つ  
考えました。彼は、神様がリベカに告げ



られたことを知<sup>し</sup>って  
いたのに、祝福は、  
あに あた  
兄のエサウに与え  
たいと思<sup>おも</sup>っていまし  
た。

ある日、イサク  
はエサウを自分の  
テントに呼んで、  
かれ とく す  
彼が特に好きだっ  
た料理を準備して  
もってくるように  
たの 頼みました。それ  
を食<sup>た</sup>べたあとで、  
ちようし しゆくふく あた  
長子の祝福を与え

ると、エサウに言<sup>い</sup>ったのです。

その長子の特権は、すでに弟のヤコブ  
にゆずってしまったことを、エサウは父親  
はな  
に話していませんでした。今でも、神様を  
うやま 敬<sup>あやま</sup>ってはいませんでしたが、父親の財産  
ほ  
は欲しかったのです。

ところで、自分がエサウに話したこと  
を、だれかが聞<sup>き</sup>いていたのを、イサクは  
知りませんでした。立ち聞きしていたのは、  
だれでしたか？ そのあと、何が起<sup>お</sup>こりまし  
たか？ 創<sup>そうせい</sup>世<sup>き</sup>記 27: 5-17。

いろいろなことが、次<sup>つぎ</sup>から次<sup>つぎ</sup>へと起<sup>お</sup>こり  
ました。ヤコブは、リベカの計略〔相手  
をだまそうとするたくらみ〕に協力したくあ  
りませんでした。ははおや せつとく ま  
が、母親の説得に負<sup>ま</sup>けて、  
とうとう協力することにしたのです。18-  
24 節。

ヤコブが恐<sup>おそ</sup>れていたとおり、父親は何  
かがおかしいことに気<sup>き</sup>づきました。その  
場<sup>ば</sup>をごまかすためについた一つ<sup>ひと</sup>のうそは、

さらなるうそへと発展しました。25 - 29  
節。

**かんが** **考えてみよう**：<sup>ひと</sup>一つのうそをつくつと、<sup>と</sup>そのうそをつき通すために、<sup>ばあい</sup>ほとんどの場合、<sup>べつ</sup>別のうそをつかなくてははいけなくなります。その日、ヤコブは全部でいくつうそをつきましたか？ リベカとヤコブがよけいなことをしなくても、<sup>かみさま</sup>神様はすべてのことをうまく運んでくださったろうとは思いませんか？ たまには、<sup>わたし</sup>私たちが<sup>かみさま</sup>神様の<sup>りっぼう</sup>律法を破ることを、<sup>かみさま</sup>神様が望まれることがあるのでしょうか？ いいえ、<sup>けつ</sup>決してありません。

## きんようび 金曜日

**きよう** **今**日は、いくつかの大切な教訓について<sup>かんが</sup>考えてみましょう。ヤコブがイサクのテントを出たすぐあとで、何が<sup>お</sup>起こりましたか？ **創世記 27:30 - 38**。エサウがあれほど泣いた本当の理由は何でしたか？

エサウは以前からまったく変わっておらず、<sup>いま</sup>今でも<sup>かみさま</sup>神様を<sup>あい</sup>愛し<sup>うやま</sup>敬っていないことを、<sup>かみさま</sup>神様は<sup>ぞんじ</sup>ご存知でしたか？

とてもがっかりしたあとで、エサウはものすごく怒りました。長子の特権を失った今、<sup>いま</sup>父親の<sup>ちちおや</sup>財産の<sup>ざいさん</sup>多くを、<sup>お</sup>自分が<sup>お</sup>もらえなくなるかもしれないのですから。

イサクとリベカとヤコブについて、<sup>かんが</sup>考えてみてください。この出来事について、<sup>かれ</sup>彼らはそれぞれ、どのように<sup>かん</sup>感じていたと思えますか？

<sup>わたし</sup>私たちはいつでも、<sup>かみさま</sup>神様かサタンのどちらかを選ぶことしかできません。アダムとエバが罪を犯してからずっと、<sup>わたし</sup>私たち人間は、<sup>かみさま</sup>神様よりも、<sup>い</sup>サタンの言うことを聞いて、<sup>かれ</sup>彼に従うほうがたやすくなっています。ですから、<sup>じぶん</sup>自分がやりたいからという理由で、<sup>えら</sup>そちらのほうを選ぶのは、<sup>あんぜん</sup>安全ではないのです。<sup>わたし</sup>私たちはいつでも、「<sup>わたし</sup>私は<sup>かみさま</sup>神様の<sup>りっぼう</sup>律法に従っているだろうか？」と<sup>じぶん</sup>自分自身に<sup>と</sup>問いかける必要があります。

エサウは一生の間、<sup>いっしょう</sup>勝手気ままな<sup>あいだ</sup>道を選んできました。あなたは、「<sup>かた</sup>おもちゃを<sup>つか</sup>片づけるのはいやだなあ」とか、「<sup>ね</sup>まだ<sup>おも</sup>疲れていないから、<sup>ね</sup>寝るのはいやだ」と思ったことがありますか？

**かんが** **考えてみよう**：<sup>わたし</sup>私たちは、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>きぶん</sup>気分に<sup>けつだん</sup>よって<sup>けつだん</sup>決断をすべきでしょうか、それとも、<sup>かみさま</sup>神様に<sup>しんらい</sup>信頼して、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>きぶん</sup>気分はどうであれ、<sup>かみさま</sup>神様が望まれることを<sup>えら</sup>選んで<sup>おこな</sup>行うべきでしょうか？ イエス様は、<sup>わたし</sup>私たちが、<sup>ただ</sup>正しい<sup>えら</sup>選択をすることによってよい<sup>しゅうかん</sup>習慣を<sup>きず</sup>築く<sup>て</sup>手助けを<sup>のぞ</sup>したいと望んで<sup>さいご</sup>おられます。最後に<sup>しあわ</sup>幸せになるには、<sup>みち</sup>その<sup>みち</sup>道しかないことを、<sup>かれ</sup>彼は<sup>ぞんじ</sup>ご存知なのです。

## まな もっと学ぼう！

★創世記 25:7-11, 19-34; 27:1-40

★人類のあけぼの上巻 p. 189-197

★あがないの歴史 p. 106 - 108



かみさま  
神様が「ノー」と言われるとき

エイミー・シェラード

「クリスマスまであと何週間あるの？」とジョニーはたず尋ねました。

お母さんは、台所のカレンダーをちらりと見ながら、「たったの4週間よ」と答えました。それから、小さい息子を見た彼女の表情が曇りました。「ジョニー、プレゼントを買うお金があればいいんだけど、お父さんが亡くなってから、生活が苦しくなってしまったの」と、ため息をつきながら言いました。

ジョニーはうなずきながら、「分かっているよ、お母さん」と言いました。それからニコツとして、「でも、イエス様はかならず僕たちを助けてくださるよね？」とたずねました。こんどはお母さんがうなずいて、ジョニーに向かってにっこりしました。ジョニーは勇ましい顔になって、「ぼくは、プレゼントなんかなくても平気さ」と強がりしました。

お母さんは、「たとえば他の人たちがやっているように、プレゼントを買ったり、クリスマスを祝ったりできなくても、町のデパートへ行って、いろんなものを見て楽しむことができるわよ」と言いました。「一緒にデパートへ行かない？ ジョニー」

ジョニーの目が、輝いてきました。「それはいい！それで、いつ行けるの？」急に、待ちきれない気持ちになりました。



こうして数日後、ジョニーとお母さんは、町の大きなデパートに来ていました。

そこは、まるでおとぎの国のようでした。お店のすみずみまで、クリスマスの飾りがほどこされていました。中でも、おもちゃ売り場はとくに魅力的でした。飼い葉おけに寝ている赤ちゃんイエスの小さいフィギュア〔キャラクターの人形〕、その周りにはあるマリアとヨセフ、また羊飼いたちのフィギュアは、彼らの目を楽しませてくれました。ラクダに乗った博士たちは、贈り物をかかえていました。

お店のまん中には、ピカピカの玉や電球やいろいろな飾り物がかけられた、大きなクリスマスツリーがありました。ツリーの下には、きれいに包まれたたくさんのプレゼントの箱が置かれていました。ジョニーとお母さんは、箱の中身をあてっこして楽しみました。そのあとで、ジョニーがツリーのまわりをゆっくり歩いていたら、あるすごいものが目にとまりました。胸がどきどきしてきました。それを見ていた彼は、思わず声をあげました。男の子なら、だれもが欲しくてたまらなくなるようなものでした。それは、おもちゃ

の電気機関車でした。デパートに敷かれた線路の上を走っています。見ていると、橋の下をくぐったり、駅で停車したり、走りながら汽笛を鳴らしたりしています。

ジョニーはしばらくの間、ひざをついて、それをながめていました。それからようやくお母さんのほうを振り向いて、「ぼくは、これから毎晩、クリスマスにおもちゃの電車がもらえるようお祈りにすることに決めたよ」と言いました。

お母さんは、なんと言ってもよくわからなくて、ただニコッとしました。彼女には、おもちゃの電車を買ってあげるお金はありません。もちろん、そのことは、ジョニーだって知っています。

家にもどったジョニーは、さっそく、おもちゃの電車が与えられるように祈りました。やがて、クリスマスの日がやってきましたが、おもちゃの電車は与えられませんでした。

お母さんが、「ジョニー、イエス様がお祈りに答えてくださらないからといって、がっかりしないでね」と言いました。

「でもね、お母さん、イエス様はぼくのお祈りに答えてくださったんだよ。」ジョニーは明るく言いました。「つまり、イエス様の答えは『ノー』だったということさ。お母さんだって、よくないとお母さんが思うものをぼくがねだったら、『ノー』と答えることがあるでしょ？ ぼくを愛しているからそうすることぐらい、ぼくにだって分かっているよ。イエス様も、ぼくを愛して下さるから、時には『ノー』とおっしゃるんだよ。」

お母さんは、ジョニーを力いっぱい抱きしめました。イエス様に信頼している息子を見て、彼女はどんなにうれしかったことでしょう。

あなたもジョニーのように、イエス様に信頼していますか？



# だいしょう 第3章

## あたらしなまえ ヤコブの新しい名前



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰るであろう。」

創世記 28章 15節

#### にちようび 日曜日

長子の祝福を受けるために、ヤコブが父親にうそをついてからというもの、家族のみんなが悲しみと不幸を味わうことになりました。

リベカは、すべては自分のせいであると感じ、そのことをとてもとても悔やみました。

イサクは、長子の特権を何がなんでもエサウに与えようとしたことは、悪いことだったと悟り、彼も後悔しました。

ヤコブは、自分がうそをついたことを悔やみましたが、あまりにもたくさんのうそをついてしまったので、神様が自分をゆるし、祝福なさることは決してないのではないかと恐れました。とても悲しくて、頭がおかしくなりそうでした。

エサウも不幸になりました。けれども、それを自分のせいだとは思いませんでした。父親が死んだら、彼は何をしようと思決めていましたか？ 創世記 27:41。



神様も、悲しんでおられたと思いますか？ しかし、それでも彼らみんなを愛されましたね。もちろん、エサウをも愛しておられました。エサウも、自分がまちがった道を選んできたことを悔いる必要がありましたが、神様は、決して強制〔あることを無理にさせること〕はなさいません。

エサウは、ヤコブを殺す計画をだれかに話したはずですが、なぜなら、そのことが

リベカの耳に入ったわけですから。そこで、  
彼女の<sup>かみさま</sup>はどうしましたか？ **42 - 45 節**。

今度の<sup>こんど</sup>リベカの<sup>けいかく</sup>計画は、<sup>ただ</sup>正しいものでした。  
彼女とイサクは、ヤコブのためにい  
いお嫁さんを見つけることについても悩ん  
でいました。**46 節と創世記 28 : 1-5**。  
両親は、ヤコブに何をさせようと決めまし  
たか？

**かんが** **考えてみよう**：<sup>わたし</sup> <sup>こころ</sup> **私たちが心からあやまれ**  
<sup>かみさま</sup> **ば、神様はいつでも喜んでゆるしてくださ**  
<sup>わたし</sup> <sup>みち</sup> <sup>えら</sup> **います。私たちがまちがった道を選んで**  
<sup>ふこう</sup> <sup>かみさま</sup> <sup>かな</sup> **不幸になるたびに、神様は悲しまれます。**  
<sup>じぶん</sup> <sup>わる</sup> <sup>わ</sup> **自分のしたことが悪いと分かっている**  
<sup>こころ</sup> <sup>わる</sup> <sup>おも</sup> **でも、心から悪かったと思えないときは、イエス**  
<sup>さま</sup> <sup>ねが</sup> <sup>く</sup> <sup>あらた</sup> <sup>こころ</sup> **様をお願いして、悔い改めの心をいただ**  
<sup>かみさま</sup> <sup>わたし</sup> **きましょう。神様は、いつでも私たちがゆる**  
<sup>ようい</sup> **す用意ができておられるのですから。**

## げつようび 月曜日

**ヤ**コブは、ラバンおじさんをたずね  
て長い旅に出ますが、その旅に  
ついて学ぶ前に、**創世記 28 章の 6 節と**  
**7 節**で、エサウについて何と書かれてい  
るかを見ていきましょう。1. 彼は、イサク  
がふたたびヤコブを祝福したことを知っ  
た。2. ヤコブの行き先を知った。3. ヤコ  
ブが出て行ったわけを知った。4. ヤコブ  
が両親に従ったことを知った。

自分が異教〔偶像礼拝〕の女たちと  
結婚したことを、両親がどれほど悲しんで  
いるかを知ったエサウは、神様を礼拝す  
る女性と結婚して親たちを喜ばせようと

しました。しかしエサウは、自分がまちがっ  
た道を選んだことを、心から悔いてはい  
ませんでした。彼は今でも、ヤコブを殺し  
たいと思っていたのです。

そのころ、ヤコブは静かに、しかも急い  
で家出をしました。お別れ会はありません  
でした。持ち物といえば、歩いて運べる  
ものだけでした。身を守る武器は、羊の  
世話をするときに使う杖しかありませんで  
した。

ヤコブはひとりぼっちで、しかもびくび  
くしていました。自分のいる場所をお兄  
さんに知られるのがこわくて、なるべく人  
とは話をしませんでした。途中で、強盗  
や野生の獣に出くわすかもしれませんで  
した。そして何よりも彼を悩ませたのは、  
過去の自分のあやまちでした。うそをつい  
てお父さんをだましたことを、いつまでも  
悔やんでいたのです。

ヤコブのお父さんは彼をゆるしてくれま  
したが、神様は決してゆるしてくださらな  
いだろうと言って、サタンが彼を苦しめて  
いました。自分が愛するものを、すべて  
失ったように思われました。長子の特権  
も、大好きな両親も、住みなれた家も、  
何もかも失った気がしました。もっともつ  
らかったのは、神様が自分をゆるし、今  
でも愛してくださっていることを信じきれ  
ないことでした。

**かんが** **考えてみよう**：<sup>だいきら</sup> **「あなたなんか大嫌い！」**  
<sup>ことば</sup> <sup>かんが</sup> **という言葉について、考えてみてください**  
<sup>くち</sup> <sup>だ</sup> <sup>い</sup> **。たとえ口に出して言わなくても、その**  
<sup>きも</sup> <sup>ことば</sup> <sup>こころ</sup> <sup>いだ</sup> **ような気持ちや言葉を心に抱くことはあり**

ませんか？ イエス様は、私たちがそれを口に出したり、心に抱いたりするとき、そのことをすべてご存知です。どうしてこのことが、そんなに重大なのでしょう？ ヨハネ第一の手紙3章の15節を読んでください。憎しみは、天国で始まりましたね。その天国に、憎しみの精神が入ることは、もう二度とありません。ですから、憎しみを心に抱いている人は、決して天国に入れないのです。しかし、イエス様にお任せするなら、彼がいつでも私たちの心を愛で満たしてくださいます。

## かようび 火曜日

いえで家を出をしてから、二日目の夜がやってきました。ヤコブは、すでに疲れきっていました。寂しさと恐ろしさも、ますますつのるばかりです。そのために、すっかり元気がなくなっていました。地面にひざまずいて、彼は泣き叫びながら、神様のゆるしを祈り求めました。自分はひとりぼっちではないとの、神様からのなぐさめと励ましが欲しかったのです。

祈っても、神様からの答えはないように思われました。疲れはてたヤコブは、そのへんにあった石を枕にして、地面の上で眠りました。

眠っている間に、



ヤコブはすばらしい夢を見ました。彼のすぐそばに、光り輝くはしごがあって、それは天まで届いていました。そのはしごの上を、たくさんの美しい天使たちが、のぼりおりしていたのです。気がつくと、すぐそばに神様が立っておられ、ヤコブに向かって話しかけられました。神様は何とおっしゃいましたか？ 創世記 28:13 - 15。

そのときもまだ、ヤコブは寂しかったと思いますか？ いいえ、もう寂しくはありませんでした。神様は今でも自分を愛してくださり、共にいてくださることが分かったのです。いつでも彼を助け、祝福し、いつの日かこの場所に連れ帰ってくださるとの約束が与えられました。神様は、昔、アブラハムおじいさんに与えた約束を守ろうとしておられたのでした。

ふたたび歩き出す前に、ヤコブは枕に使った石を立てて、記念碑をつくりました。そして、その場所をベテル「神の家」と呼びました。

ヤコブは、ほかに何をしましたか？ 22節を読んでください。十分の一を神様にささげることを何と呼ぶか、覚えていますか？ それは、什一と言います。

### かんが 考えてみよう：ヤコブの夢に出てきた

はしごは、私たちをすくうために、天からこの世界におりて来られるイエス様を表していました。天使たちは、いつでも私たちを助けてくれますか？ あの晩、ヤコブのすぐそばに立っておられたように、神様は私たちのそばにもおられますか？

わたし  
私たちがまちがったことをすると、神様は  
もう自分を愛してくださらないだろうという  
思いが浮かんでできますが、このように私た  
ちをがっかりさせようとするのは、いつで  
もサタンしわざの仕業なのです。

## すいようび 水曜日

ベテルを出発したヤコブは、ラバ  
ンおじさんが住んでいるハラン  
を目指しました。何週間もたったある日、  
羊飼いが羊たちに飲ませる井戸にやってき  
ました。召使のエリエゼルが、お母さんの  
リベカと初めて出会った話を、そこで思い  
出したかもしれません。

その日の午後、何が起こりましたか？  
創世記 29：1-14。ヤコブはどんなに喜  
び、ほっとしたことでしょう。

まもなく、ヤコブが働き者であることを  
知ったラバンは、自分のところにとどまる  
よう、彼にすすめました。ヤコブは、喜  
んでとどまることにしました。彼は、ラバ  
ンの末の娘であるラケルを好きになり、  
彼女と結婚したいと思いました。

ラバンは、ヤコブが7年間彼のために  
働いたら、ラケルと結婚してもよいと言  
いました。このようにして、家族を養う能力  
があることを、示す機会が与えられたので  
した。しかしヤコブは、ラバンがずる賢く、  
欲張りいじわるで意地悪な人であることを、まだ知  
りませんでした。

待ちに待った7年が過ぎました。これ  
でやっと、ラケルと結婚することができま  
す。ところが結婚式の日に、ラバンはヤコ



ブをだまして、お姉さんのレアと結婚させ  
たのです。そのことを知ったヤコブは、ラ  
バンに何と言いましたか？ 25-28節。  
結局、ラケルと結婚するために、ヤコブ  
はあと何年働きましたか？

自分の家庭をもつことになったヤコブで  
したが、あまり幸福ではありませんでした。  
ヤコブがラケルを愛したので、レアはラケ  
ルをねたみました。レアには何人も子供  
が生まれ、ラケルには子供がいなかった  
ので、ラケルはレアをねたみました。ひ  
とつの家庭に、それぞれ父親がひとり、  
母親がひとりずついるというのが神様の  
計画であり、それが一番いいのです。

ラケルは、ずっと赤ん坊が与えられるよ  
うに祈っていましたが、その祈りが聞かれ  
たときのヤコブと彼女の喜びようは、大変  
なものでした。その赤ん坊は、ヨセフと



な  
名づけられました。

ヤコブは、いつか古里のカナンに帰りたいと考えていました。けれどもラバンに、もっと長く残って働いてほしいと頼みこまれたので、さらに6年間、彼のために働きました。

**考えてみよう:** ヤコブは、ずる賢いやり方でお父さんをだまし、お兄さんを押しつけました。ラバンにだまされたあとで、彼はそのことについて、さらに深く考えたことでしょうか。私たちがいつでも正直であることを、神様は望んでおられますか？ まちがった道を選んでしまうと、多くの不幸を招き入れることになりますね。

### もくようび 木曜日

**結局**、ヤコブはラバンのために、20年も働きました。その間、神様はヤコブを祝福してくださいました。息子が11人もいて、とても裕福になっていました。家畜をたくさんもっていました。財産がどんどん増えて、ラバンの息子たちから、ねたまれるほどでした。

神様は夢の中で、ハランを去ってカナンに帰る時が来たことを、ヤコブに告げられました。故郷に帰ると言ったら、ラバンが怒ることを知っていたので、彼と息子たちが羊の群れを連れて遠出をするのを待ちました。そしてそのすきに、ヤコブは、すべての持ち物をまとめ、家族のみんなを引き連れ、急いで出発したのです。そのことを知ったラバンは、どうしました



か？ **創世記 31:22, 23.**

夢の中で、神様はラバンに、ヤコブのじゃまをしないよう注意しました。そのために、ヤコブがラバンにいっぱい文句を言っても、ふたりは仲良く別れることができました。ラバンはハランに戻り、ヤコブはカナンへの旅をつづけました。

ヤコブは家出してしまったので、イサクが死んだら、父親の財産はすべて自分のものになるだろうとエサウは思っていました。ヤコブが戻ってくることをエサウが知ったら、彼はどうするでしょうか？ ヤコブは、そのことが心配でした。神様は、ご自分がいつも共におられることを、どうやって彼に思い出させましたか？ **創世記 32:1, 2.**

ヤコブは今でも、自分がうそをついてエサウを押しつけたことを悪かったと思

い、その罪を悲しんでいました。故郷に近づいたとき、ヤコブは、自分が心から申し訳ないと思っていることを、どうにかしてエサウに伝えようと思いました。そこで彼は何をしましたか？それから何が起りましたか？ 3-6 節。

ヤコブは召使に、エサウに言うべき言葉を伝えていました。父親の財産は知らないということ、エサウに知らせました。自分はエサウのしもべであるとも言いました。でも、エサウは今でも自分を憎んでいることを知ったヤコブは、次に何をしましたか？ 7-12 節。

**考えてみよう：** 私たちは、あやまらない人をも、ゆるしてあげるべきでしょうか？もし自分が何か悪いことをして、そのことをあやまったとしても、心から申し訳ないと思っていることを示すために、できるだけのことをすべきではないでしょうか？ ヤコブは、まさにそれをしていたのです。

## 金曜日

エサウは、400 人を引き連れて、ヤコブのところに向かってこようとしていました。これで、お兄さんが、今でも自分を殺そうとしていることが分かりました。ヤコブと彼の家族は、恐怖におそわれました。自分も家族の者も、エサウによって殺されてしまうのだろうか？ ヤコブは、けん命に祈りました。それから、エサウにたくさんの高価なプレゼントを送りました。そして暗くなってから、ヤコブは

何をしましたか？ 創世記 32:22、23。

その晩ヤコブは、川をわたりませんでした。ひとりになって祈る必要を、強く感じていました。昔の自分の失敗のために、今みんなが大変な危険にさらされています。ふたたび彼は、自分がどれほど悔やんでいるかを、神様にうたえました。神様の祝福を受ける価値がないことは分かっていたのですが、エサウの気持ちを变えてくださるよう、神様にお願いしました。

真夜中にとつぜん、何者かがつかみかかってきました。とても力の強い手です。これは強盗か、あるいは人殺しのどちらかにちがいないと、ヤコブは思いました。

ヤコブも力は強かったので、この見知らぬ相手と全力でたたかいました。まさに、命がけでたたかいました。

ふたりとも、何も言いませんでした。ヤコブは必死でたたかいていましたが、心の中では恐れていました。たたかっている間、これは神様が自分を罰しておられるのだらうと思っていました。神様からの罰ならば、自分はここで死ぬのだろうか？でも、まだ死ぬ準備はできていない。ここで死ぬわけにはいかない。そのとき彼は、神様の約束を思い出しました。そして、神様のあわれみにすがったのです。

夜が明けるほんの少し前に、見知らぬ相手は、とても変わったことをしました。それは何でしたか？ 24-29 節。自分がイエス様とたたかっていたことを知ったヤコブが、どのように感じたか、想像できますか？そして、イエス様が自分を祝福してくださるまでは、彼を絶対に放さない

い  
言ったのです。

もういちど、**28節**を読んでください。このときイエス様は、ヤコブに別の名前を与えられました。もはや、「押しのける者」ではなくなりました。これからは、たとえ何が起ころうとも、ヤコブは神様に信頼することにしました。

神様がヤコブをどうやって守ろうとしておられたのか、彼自身は知りませんでした。おじいさんのアブラハムとお父さんのイサクのときのように、神様にとって不可能〔できないこと〕はないことを知ったのでした。

このあと、ヤコブは死ぬまで足が不自由〔片方の足に故障があっとうまく歩けない状態〕でした。けれども彼は、神様が自分を愛し、ゆるしてくださったことを知りました。これからは、生きているかぎり、

かみさま しんらい  
神様に信頼するつもりでした。

**かんが**  
**考えてみよう：**神様は、ご自分が約束を  
かならず守られるお方であることを、ヤコ  
ブに学んでほしかったと思いますか？ 神様  
は私たちにも、何が起ころうと、ご自分の  
約束を信じてほしいと望んでおられます。

## まな もっと学ぼう！

★創世記 27:41-46;28-32

★人類のあけぼの上巻 p. 198-  
216

★あがないの歴史 p. 108-116





## アグネスとはんらんした川<sup>かわ</sup>

エイミー・シェラード

い きおいよく戸  
をあけて、ア  
グネスは、小屋にす  
ばやく入っていきまし  
た。今日こそ、ジュリ  
アおばさんが元気に  
なっていることを願っ  
ていました。

しかしすぐに、古  
ぼけたソファーに横  
たわっているおばさ  
んを見て、アグネスの  
心はずんでしまいました。ジュリアおば  
さんの顔は青ざめていて、苦しそうでした。

「まあ、よく来てくれたわね。あなたが  
来ることを、ずっと祈っていたのよ。」ジュ  
リアおばさんは、息苦しうに言いました。  
けん命に、笑顔をつくっています。それから、  
「アグネス、私のお薬をとってちょうだい」  
と頼みました。

注意ぶかく薬の量をはかりながら、アグ  
ネスは、窓ガラスに打ちつける雨の音を  
聞いていました。その音を聞いて、彼女  
はこわくなりました。小屋の近くの川の  
水が、雨であふれそうになっているので、  
おばさんを自分の家に避難させようと思っ  
て、ここにやってきたのでした。ところが、  
ジュリアおばさんは、具合が悪くて動けま  
せん。あまりに具合が悪そうなので、まも



なくここが洪水になって、小屋に残ってい  
るのは危険だということさえ、言えませ  
んでした。自分だけ家に逃げ帰ることも考  
えましたが、かわいそうなおばさんを置  
いていくことは、どうしてもできませんでした。

まもなく、ジュリアおばさんは眠ってし  
まいました。彼女のそばにすわって雨の  
音を聞いていたアグネスには、数分間  
が何時間にも思われました。吹き荒れる  
雨風の中、小屋がガタガタと震えていま  
す。

アグネスは、川の水があふれて、洪水  
の危険がせまっていることについて聞いて  
いました。ここからあまり遠くない川下の  
ほうでは、すでにいくつかの小屋が水に  
つかっていました。ほかの家も、夜の間  
にとても危険な状態になると、お父さんは

言っていました。アグネスは、自分の家のことを思いました。そこは高台にあるので、安全でした。アグネスは、どれほどジュリアおばさんを連れて、家に帰りたいかたことでしょう。

そのころ、電話はなかったので、こちらの様子を両親に知らせる方法はありませんでした。

しばらくして、アグネスは、ジュリアおばさんの聖書が、近くのテーブルに置いてあるのに気づきました。それを手にとったら、前におぼえた聖書の約束が、次から次へと頭の中に浮かんできました。「わたしは決してあなたを離れず、あなたを捨てない」とのイエス様の約束を、思い出しました。時間だけが、どんどん過ぎていきます。そんな中、彼女は祈りました。「イエス様、どうかお父さんをここに連れてきてください。」

外は、どんどん暗くなっていきます。ジュリアおばさんの小さなランプは、もうすぐ油がなくなりそうでした。そうなったら、小屋の中は真っ暗になってしまいます。「でももし明かりが消えても、イエス様は私たちといっしょにいてくださるはずだわ」と、アグネスは心の中でつぶやきました。

とつぜん、自分の名前を呼ぶ叫び声が、聞こえてきました。そしてまもなく、お父さんとボブおじさんが、部屋に駆け込んできました。

お父さんが、「ああ、見つかってよかった」と叫んで、アグネスを抱き上げました。ボブおじさんは、すばやくジュリアお

ばさんをかかえあげました。それから走って家に向かい、ようやく危険を逃れることができました。

アグネスを抱きしめながら、お母さんは、「こわくてたまらなかったでしょ？」と尋ねました。

アグネスはお母さんに、「でもね、おかげでたくさんの聖書の約束を学べたのよ」と言いました。「神様の約束が、どうしてそんなに大切か、分かったような気がするわ。」

あなたは、聖書のみことばのすばらしい約束を、いくつ学びましたか？



# だい しょう 第4章

## かぞく もんだい 家族の問題



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「見よ、わたしは世の終わりまで、  
いつもあなたがたと共にいるのである」。  
マタイによる福音書 28章 20節

#### にちようび 日曜日

「お父さん、いったい何があったの？」これが翌朝、家族のいるところに足〔片方の足に故障があってうまく歩けない状態〕を引きずりながら戻ったヤコブが聞いた、最初の言葉だったかもしれません。彼の足はとても痛そうでしたが、どういうわけか、にこにこしていました。家族のみんなに、夜の間、敵だと思っただれかと取っ組み合いをしていた話をしました。ところが、それは敵ではなくイエス様であったこと、祝福を受けるまでは、イエス様にしがみついていたことも話しました。

すると、だれかが言いました。「あっ、あの人たちがやってきたぞ！」指さしたほうを見ると、遠くに何が見えましたか？ ヤコブは、すぐに何をしましたか？ 創世記 33:1、2。

ふたりの兄弟は、今にも顔と顔とをあわ

せるところまで近づいています。いよいよ兄のエサウが見えたとき、ヤコブは何をしましたか？ 3節。

神様が共におられることを知ってはいましたが、それでもヤコブは、自分がエサウに対してすまないと思っていることを、できるかぎり示そうとしました。

前の晩、神様がある夢をエサウに見せておられたことを、ヤコブは知りませんでした。夢の中で、エサウは、天使たちがヤコブを守っているのを見ました。自分の



へいし 兵士たちにその夢の話をしてから、ヤコブに危害を加えてはいけないました。神様が、エサウの心を変えてくださったのでした。

出会ったときに、エサウが思いもよらぬことをしたので、ヤコブはどんなに驚いたことでしょう。4節を読んでください。双子の兄弟はともに抱き合い、よろこびの涙を流しました。

エサウは、ヤコブといっしょにいた人たちについて、またヤコブが前もって彼に送っていたたくさんの動物たちについて尋ねました。動物の贈り物はいらないとエサウは言いましたが、ヤコブは、贈り物を受けとってくれるよう強くもとめました。8-11節。

それからエサウは、彼が連れてきた兵士たちが、ヤコブたちといっしょに旅をつづけることで、いろいろな危険から守ってあげるといいました。ヤコブはお礼を言いましたが、自分たちは大丈夫だからといって、ていねいに断りました。ヤコブたちは子供と家畜を連れて旅をしていたので、進むのがとても遅かったのです。

**考えてみよう：**神様は、ヤコブをふたたびカナンに連れ帰るとの約束を、守ってくださいましたか？ もちろん、守られましたね。ヤコブが家出をしたとき、彼はほとんど何も持っていませんでした。しかし故郷に帰るころには、たいそう裕福になっていて、おおぜいの家族を引き連れていました。そして何よりも、神様とエサウのゆるしをもらえたことが、彼をよろこばせ、大

いにほっとさせたのでした。

## げつようび 月曜日

ヤコブと彼の家族は、ついにカナンの地にたどりつきました。神様はヤコブに、ある特別な場所へ行きなさいと言われましたが、そこは何と呼ばれているところでしたか？ 創世記 35：1-4。

ヤコブは、20年前にベテルで見せられた美しいはしごの夢を、忘れていませんでした。神様は、まわりの異教徒〔偶像を拝む人〕たちとはまったく違う生き方をしなくてはいけないことを、ヤコブと彼の家族に注意なさいました。そしてふたたび、ヤコブの新しい名前は「イスラエル」であると言われました。「イスラエル」とは、「勝利者」という意味です。ヤコブはようやく、神様にまったく信頼することができるようになりました。

ハランにいるヤコブの親せきは、天の神様を拜んでいながら、偶像も拜んでいました。そこで神様は、ヤコブと彼の家族は、天の神だけを拜むようにと念をおされました。また彼らは、まわりの異教徒たちのように、宝石などを身につけるべきではありませんでした。ほかに、異教徒たちがしていたことで、すべきでないことがいくつもありました。

故郷のわがやにヤコブがたどりつく前に、とても悲しいことが起こりました。妻のラケルは、赤ん坊をもうひとり産む予定でした。ヤコブもラケルも、その子が生まれるのを、とても楽しみにしていました。

ところが、赤ん坊を産んだすぐあとで、ラケルが死んでしまったのです。

ヤコブは、ひじょうに悲しみました。かつて、ラケルと結婚するために、14年も働いたことがありました。彼女を、とても愛していたのです。彼にとっては、右手と同じくらい大事な妻でした。そのとき生まれた赤ん坊は、ベニヤミンと名づけられました。「ベニヤミン」とは、「わが右手の〔かけがえのない〕息子」という意味です。

**考えてみよう：**ベテルへ行く前に、ヤコブは、家族の人たちに向かって何と言いましたか？ 神様を愛し、神様に信頼し、その律法にしたがうことを選ぶとき、私たちは、ほかの人とはちがった者となっていくます。私たちが十戒にしたがうとき、どのような違いがあらわれてくるだろうと思えますか？

## かようび 火曜日

ヤコブが故郷をはなれているあいだに、彼のお母さんは死んでしまいました。ヤコブがおおぜいの家族を連れてもどってきて、自分の近くに住んでくれたので、イサクの心は大いに慰められました。亡くなる〔死ぬ〕まで、ヤコブはお父さんをとても大事にしました。

長年のあいだ、エサウはヤコブを殺したいと思っていました。でも今は、すべてが変わりました。いよいよイサクが死ぬとき、双子の兄弟は、ずっとつきそっていました。そして死んだあと、ふたりで父親を



墓に入れたのでした。

ヤコブはよろこんで、父親の財産をすべてエサウにゆずりました。彼が望んでいたのは、神様の祝福だけでしたが、神様は、彼が望んでいる以上の祝福を与えられたのでした。

ヤコブの12人の息子たちは、どんどん成長していきました。けれども、ヨセフと弟のベニヤミンをのぞいた10人は、たびたび悪い道を選んでいました。そのことについて書いてあるところを読んでください。創世記 37: 1-4。ヨセフのお兄さんたちが彼を憎むようになったきっかけが、ふたつありました。それらは何であったと思えますか？

ヨセフは、お兄さんたちが大好きでした。彼らがサタンの誘惑に耳をかたむけるのを、ヨセフはとても悲しく思っていました。お兄さんたちにやさしく注意したこともありましたが、いうことを聞いてはくれませんでした。そして、お父さんのいうことなら聞いてくれるだろうと思って、お父さんに



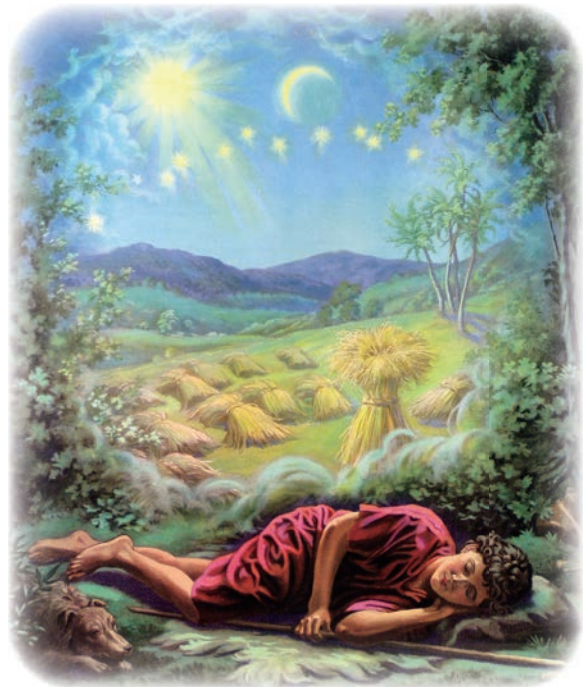
はな話したのです。ところがお兄さんたちは、  
こころをいれかえてくれるどころか、父親に告  
ぐちげ口したといて、ヨセフをますます憎む  
ようになったのです。

またお兄さんたちは、ヤコブがヨセフに  
だけ特別な着物を与えたので、ヨセフを  
ねたんでいました。いちばん上のお兄さん  
のルベンは、とても悪いことをしてしまっ  
たために、お父さんから長子の特権をもら  
うことができませんでした。まさかお父さん  
は、弟のヨセフに特権を与えはしない  
だろうかと、お兄さんたちは考えるま  
でになっていました。

**かんが** **考えてみよう**：親が、ほかの兄弟よりも、  
ひとりの子供だけをかかわいがるのは、か  
しこいことだと思いませんか？ 子供たちの間  
では、ひとりだけが親からひいきにされて  
いると感じて、兄弟の仲が悪くなること  
があります。しかし、たいていの親は、どの  
子供も同じように愛しています。兄弟でも  
ひとりひとりがちがうので、親たちは、それ  
ぞれの子供にとって最善〔いちばんよいこ  
と、ふさわしいこと〕のしつけを心がけて  
いるということをおぼえておきましょう。

## すいようび 水曜日

**ヨ**セフのお兄さんたちは彼を憎んで  
いましたが、心のどこかでは、彼  
にひかれていました。ヨセフは人の役に立  
つ子供で、頼りになり、やさしくて、しか  
もハンサムでした。神様を愛し、よろこん  
でいたがう少年でもありました。けれども



お兄さんたちは、神様の律法に反する道  
をえらび、心の中で憎しみを育てていっ  
たのです。

ある晩、ヨセフはふしぎな夢を見ました。  
どんな夢でしたか？ **創世記 37：5－8**。  
その夢の話聞いたお兄さんたちは、こ  
れまで以上に彼を憎むようになりました。  
それから、ヨセフは別の夢を見ました。ど  
んな夢でしたか？ **9－11 節**。それは何か  
意味のある夢にちがいないと、ヤコブは  
思いました。

**12 節**から **14 節**まで読んでください。ヤ  
コブは、息子たちを愛していました。上  
の 10 人が家畜をつれて遠いところまで  
行き、なかなか戻らなかったため、彼は  
息子たちのことが心配になりました。そこ  
で、彼らが無事かどうかを確かめるため、  
ヨセフを送ったのです。ヨセフは、くる  
日もくる日も、お兄さんたちをさがし歩  
きました。

何日もたってから、やっとお兄さんたち

を見つけることができました。彼らが無事であることがわかって、ヨセフはどんなにうれしかったことでしょう。ところがお兄さんたちは、ちっともうれしくありませんでした。それから彼らは、信じられないようなことをしたのです。19－24節。長男のルベンだけが、ヨセフを殺すことに反対でした。

ヨセフはけん命に叫んで、穴から出してくれるように頼みましたが、お兄さんたちは、平気な顔ですわって食事をしていました。

しばらくして、エジプトに向かって旅をしている商人の一群が、向こうに見えてきました。するとユダが、ヨセフを彼らに売り飛ばしてしまおうと言いました。みんなが賛成しました。そんな恐ろしいことはしたくないと思った人がいたとしても、だれもそれを言い出す勇氣はありませんでした。

ヨセフは、恐れおののきました。奴隷になることは、死ぬよりも恐ろしいことだったからです。いくらお願いしても、むだでした。とうとう彼は、奴隷として売られてしまったのです。ヨセフを連れた商人たちは、ふたたびエジプトへの道を進んでいきました。

**考えてみよう：**神様に従おうとしない人たちは、神様にしがう人たちを憎み、からかうことがあります。なぜでしょう？たとえばかにされようとも、私たちはいつも正しいことをすべきではないでしょうか？ヨハネ第一の手紙3章の15節を読んでくだ

さい。ヨセフのお兄さんたちは、ヨセフをじっさいに殺しはしませんでした。でも彼らは人殺しであったと言えるでしょうか？

## もくようび 木曜日

ちばん上のお兄さんのルベンは、商人たちがヨセフを買ったとき、そこにはいませんでした。彼はあとで、こっそりヨセフを助け出すつもりでした。穴のところにもどってみると、ヨセフはすでに売られてしまっていました。どんなに嘆い



ても、もう手遅れです。それから、お兄さんたちはどうしましたか？創世記 37：29－35。

お兄さんたちは、ヨセフさえいなくなれば、自分たちはもっと幸福になれると思っていました。彼らは、ヨセフを失ったことを知ったときの、ヤコブの悲しみを見ま

した。父親の悲しんでいるようすを見て、自分たちのしたことの恐ろしさがわかり、とてもみじめな気持ちになりました。罪をごまかすために、たくさんのうそをつかなくてははいけませんでした。こわくて、いまさら本当のことは言えませんでした。もし彼らがしたことをお父さんが知ったら、彼はもっとショックを受けることでしょう。お兄さんたちは、はじめて罪の恐ろしさを思い知ることになりました。そして、はげしい後悔〔自分のしたことを、あとになって悔やむこと〕におそわれたのでした。

そのころ、奴隷の身となったヨセフは、エジプトに向かっていました。彼は、失望のどん底にいました。やがて商人の一団は、ヨセフの家族が住んでいた天幕から、丘をひとつ越えたところにさしかかりました。あの丘をこえたところに、大好きなお父さんがいるはずです。もしお父さんに今のようすを知らせることができたら、彼はなんとしても助けてくれるはずです。でも、知らせるすべはありません。ヨセフは、自分がいなくなったことを知ったら、お父さんはどんなに悲しむだろうと考えました。

サタンは、神様の愛をうたがうように、ヨセフを誘惑していたと思いますか？ もちろん、誘惑していたはずですが。しかしヨセフは、すでに進むべき道をえらんでいました。自分に何が起ころうと、いつも神様を愛し、信頼し、したがうことを決めていたのです。その決心を、変えるつもりはありませんでした。

イシマエル人というのは、ヨセフの大おじ〔祖父母の兄弟〕にあたる、イシマエ

ルの子孫でした。つまり、あの商人たちは、ヨセフの遠い親せきだったのです。旅をしながら、彼らは、ヨセフを注意して見ていました。ヨセフは奴隷になったことを悲しんでいましたが、いつも礼儀正しくて気がきくので、商人たちはとても感心していました。

**かんが 考えてみよう：**どんなことがあっても神様に信頼してしたがうのは、簡単なことですか？ こんなに恐ろしいことが自分に起こるのを、神様はなぜゆるされたのか、ヨセフはその理由を知っていましたか？ ヨセフは、とてもおりこうな少年でした。しかしこの世界では、いい人たちに悪いことが起こることがあります。あなたは、たとえ何があっても、神様に信頼する決心をしていますか？

## きんようび 金曜日

**工** エジプトに着いてから、奴隷のヨセフは、だれのもとに売られていきましたか？ **創世記 39:1-6**。ポテパルは、ヨセフをととても信頼していましたね。そしてヨセフは、神様に信頼していました。ポテパルも、ヨセフが拜んでいた神様について、いろいろ学ぶことができたはずですが。

ところが、ある日とつぜん、すべてが変わってしまいました。ポテパルの妻が、ヨセフについて、夫にひどいことを言ったのです。ポテパルは、かんかんに怒りました。彼は、ヨセフに何をしましたか？ **20 節**。

ヨセフががっかりして、やる気をなくし

たとしても、無理もありません。ふたたび、何も悪いことをしていないのに、ひどいことをされたのですから。けれどもヨセフは、神様に信頼しつづけることにしていました。牢屋にいる間、神様はどのように彼を祝福なさいましたか？ 21 - 23 節。

じきにヨセフは、すべての囚人たちと知り合いになりました。創世記 40 章の 1 - 8 節にでてくる、ふたりの囚人について読んでください。ヨセフは、自分なら、彼らが見た夢の解き明かしができるとは言っていない。それができるのは、神様だけであると言っているのです。そして神様は、ヨセフに夢の意味を示してくださいました。

ヨセフは、給仕役の長に、三日のうちに釈放されて〔牢から出されること〕、もとの仕事にもどされると言いました。ところが料理役の長には、三日のうちに死刑になると言わなくてははいけません。給仕役の長に解き明かしを語ったあと、



ヨセフは彼に、何をお願いしましたか？ 14、15 節。

すべて、夢の解き明かしのとおりになりました。給仕役の長は、パロの宮殿にもどされ、もとの仕事につきました。そして料理役の長は、木にかけられ、殺されてしまったのです。ヨセフは、1 日でも早く牢屋から出られるようになることを期待していました。しかし、早く自由になりたいというヨセフの夢は、なかなかかないませんでした。23 節。

ヨセフは、がっかりしましたが、それから 2 年間、牢屋での仕事を、明るく忠実にこなしたのでした。

**考えてみよう:** ヨセフが牢屋にいる間、神様は彼とともにおられましたか？ 楽しみにしていたことがかなわなくて、がっかりしたことはありませんか？ そういうとき、あなたはどうしましたか？ すっかり機嫌が悪くなり、いつまでもめそめそしていましたか？ それとも、笑顔をうかべて明るくふるまいましたか？ ヨセフは、どうしたでしょう？

## まな もっと学ぼう！

★創世記 33 章、35 章、  
37 章、39 章、

★人類のあけぼの上巻 p. 216-240

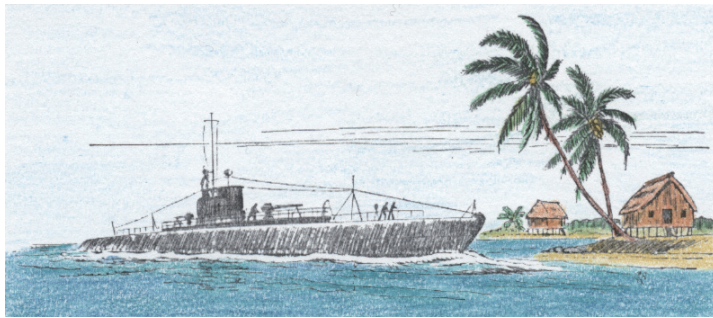
★あがないの歴史 p. 117-126



## せんすいかん の 潜水艦を祈りもとめるアラステア

エイミー・シェラード

7 才のアラステアは、家族といっしょにフィリピンに住んでいました。彼の両親は、宣教師でした。敵の軍隊がせめてきたとき、彼らの命もあぶなくなりました。



親切なフィリピン人と中国人は、宣教師が山に逃げるのを手伝ってくれました。山にのがれた彼らは、ヤシの葉で小屋を建てました。床は土間〔地面をそのまま使った床〕で、ブリキの箱でできたかまどがあるだけでした。食べ物は、少しばかりの米と、牛乳のかんづめ2個だけでした。服もわずかしかありません。しかたがないので、バナナとサツマイモばかりを食べて生活していました。それでも彼らは、家族そろって安全な場所にいられることを感謝しました。

けれども火を使うときは、とても用心しました。木のあいだから煙がたちのぼるのを敵に見られたら、そこに隠れ家があることがわかってしまいます。もしそうなったら、かならずさがしにやってくることでしょう。

ときどき、親切な現地の人たちがやってきて、敵が近づいていることを知らせてく

れました。「いそいで、もっと奥のジャングルに隠れなさい」と言いに来てくれるのです。そんなときは、少しばかりの持ち物を手にとって、引越しをします。

村をたずねても安全なときは、

友人たちが教えてくれました。村に行けば、食べ物を買うことができました。

飛行機だったら、彼らを救い出すことができたかもしれませんが、飛行機が着陸するための場所は、どこにもありませんでした。危険なので、軍艦〔軍隊の船〕は島に近づこうともしません。幼いアラステアは、潜水艦〔海の中をもぐって移動する船〕だったら、自分たちを救い出すことができるはずだと考えました。だれにも見られずに、島に近づくことができるからです。そこでアラステアは毎日、神様が潜水艦を島に送ってくださるようにと祈りました。

アメリカ人のパイロットの中には、戦闘機を撃ち落とされても生きのびて、島に隠れている人たちもいました。

ついに、アメリカ海軍の偉い人たちが、島に助けを待っている人たちがいることを知るようになりました。彼らは、何月何日

の何時に、潜水艦で助けにいくというメッセージを送りました。そのために、いそいで準備をしなくてははいけません。アラステアは、わくわくしてきました。自分の祈りがきかれることを知ったからです。

いよいよ、その日がやってきました。潜水艦が水面にあらわれて、合図をおくりました。合図があったら、小さいボートの乗りこむことになっていました。ところが、潜水艦が、とつぜん水の中にもぐってしまいました。

救出を待っていた人たちが小さいボートに乗りこもうとしたちょうどその時、敵の軍艦が姿をあらわしたのです。そのまま通り過ぎてくれることを期待していましたが、錨をおろしはじめました。救出を待っていた人たちは、これで島を逃げ出すチャンスはなくなってしまったと思いました。

まもなく、あたりが暗くなりました。潜水艦は、これ以上長く待つことはできないはずで、いったい、どうすればよいのでしょうか？ 彼らは祈りました。それから小さいボートに乗って、静かに敵艦のまわりをまわってみることにしました。敵に見られたり、物音を聞かれたりすれば、攻撃されて、いっかんの終わりです。ふたたび、潜水艦が水面にあらわれました。すばやくボートの上にいる人たちを潜水艦に移し、ふたたび水の中に沈んでいきました。ようやく、逃げる事ができたのです。その5日後、彼らは無事、別の国にたどり着いたのでした。

アラステアと彼の両親は、イエス様が、彼らの祈りに答えて潜水艦を送ってくだ

さったことを知っていました。

# だいしょう 第5章

## せいじつ むく 誠実さが報われる



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

かれはわたしのあゆみちをしっておられる。かれがわたしを試みら  
れるとき、わたしは金のように出てくるであろう。

ヨブ記 23章 10節

#### にちようび 日曜日

7 本のやせほそった麦の穂が、7本のまるまると太った麦の穂を食べてしまうのを、見たことがありますか？ または、7頭のやせこけた牛が、7頭のこ肥えた〔よく肉がついて太っている〕牛を食べてしまい、それでもまだやせこけているのを、見たことがありますか？ これこそ、エジプトの王様が夢で見た光景でした。その夢の意味を教えてください。人がだれもいなかったもので、王様は大いに悩み、心配しました。

エジプトの人たちは、自分たちの王様を、パロと呼んでいました。パロの給仕役の長をおぼえていますか？ パロの夢について聞いた彼は、ようやく何かを思い出しましたか？ そうです、自分が牢屋でみた夢と、ヨセフのことを思い出したので、ヨセフのことをパロに話したら、王様はすぐに、ヨセフを呼びにいかせました。

ヨセフはまだ、牢屋の中にいました。パロが自分に会いたがっているとき、ヨセフの驚きを、想像することができますか？

王様がなぜ自分に会いたがっているのだろうと、ヨセフはふしぎに思ったはずで、それから、どうなりましたか？ 創世記 41:14、15。

ここでもふたたび、ヨセフは、自分に夢の解き明かしができるとは、思ってもいません。彼は、パロになんと言いましたか？ 16節。

王様から夢の話聞いたヨセフに、神様が夢の意味を教えてくださいました。まるまると太った7本の麦の穂と、こ肥えた7頭の牛は、これから7年間、作物がゆたかに実る豊作の年がつづくことをあらわしていました。そして7本のやせほそった麦の穂と、やせこけた7頭の牛は、そのあとで、7年間のききん〔作物の収穫がすくなく、食べ物足りなくなる〕がやっ

てくることをあらわしていました。何か手を打たなければ、そのうち食べるものがなくなって、人々は飢えに苦しむことになります。

ヨセフはパロに、だれか王様を助けて、国中をききんに備えさせる人をさがすように言いました。豊作〔作物がよく実って収穫が多いこと〕の7年のあいだに、たくさんの食べ物をたくわえることができたなら、7年のききんのあいだも、人々がおなかをすかせて苦しむことはなくなるでしょう。

**かんが** **考えてみよう**：あなたは、**自慢**〔自分をほめ、とくになること〕したことがありますか？ヨセフは、**夢の解き明かし**ができることを、**パロに自慢**しましたか？いいえ。彼は、**何度もなんども**、**神様が人々のことを思って**、**あのような夢を与えてくださった**と、**パロに言いました**。**神様がおられなければ何もできないことを**、**私たちはしばしば忘れてしまわない**でしょうか？

### げつようび 月曜日

**ヨ**セフはパロに、**夢の意味**と、**王としてやるべきこと**を語りました。パロは、**ヨセフの意見**にしたがうことにしましたか？**創世記 41:37 - 44**。

ヨセフの人生は、あつというまに、**かんぜん**に変わってしまいました。囚人として牢屋で暮らしていたのに、**とつぜん**、エジプトというすごい国の**総理大臣**になったわけですから。



おまけにパロは、ヨセフに妻も与えました。彼女の名前は、**アセナテ**といました。そして、7年の豊作の期間がおわるまでには、ふたりの**息子が与えられて**いました。ヨセフはふたりの息子に、**なんという名前をつけましたか？**また、**どうしてそのような名がつけられた**のでしょうか？**51、52 節**。

**夢**の中でパロに**告げられた**とおり、7年のあいだは**十分すぎるほどの食べ物**がありました。その間、ヨセフは、**あまった食べ物をためておくための倉庫**を、**たくさん建てさせました**。

そのあとで、7年間の**飢きん**がやってきたわけです。しかし、**準備**はできていました。人々が**食べ物**を必要としたとき、パロは彼らに**むかって**、**何を**するように言いましたか？**54、55 節**。



食べ物たものがなくなこまって困こまったのは、エジプトひとびとの人々ばかりではありませんでした。56節と57節せつを読んでください。

遠とおくはなれたカナンちの地では、ある家族かぞくが、このひどい飢ききをどうやって乗りのきろうかと、頭あたまをかかかえていました。創世記そうせいき 42：1-5。

ヨセフのお兄さんにいたちが、彼かれを売うり飛ばとしてから、20年ねんくらいたたっていました。年月ねんげつがたたてばたたつほど、彼らかれの後悔こうかい〔あとあになって悔くやむこと〕はますます大おおきくなっていいきました。しかし、お父とうさんに本ほん当とうのことを話はなす勇ゆう気きはありませんでした。ヨセフはもう死しんでしまったにちがいない、と彼らかれは思おもいました。けれども、エジプトへ食たもの物ものをかいいに行いったときには、ヨセフのこあたまと頭はなから離はなれなくななっていたのでした。

**かんが**  
**考えてみよう**：ヨセフのおかげかみさまで神様かみさまのことを知しるようになった人ひとたちが、エジプトわにいましたか？ だれだか分わかりますか？ 私わたしたちも、自じ分の行いいによよって、人々ひとびとに神様かみさまのことを教おしえることができるでしょうか？

## かようび 火曜日

**エ**ジプトが飢ききのあいだは、ヨセフが、人々ひとびとに食たもの物ものを売うる仕事しごとをまかまかされていいました。ある日ひ、10人にんのおとこおとこたちが、食たもの物ものをかいいにややってききました。彼らかれはヨセフを見みても、だれだか分わかりまませせんんでしたが、ヨセフは彼らかれを見みて、すぐ

にだれだか分わかりまました。彼らかれを見みたとき、ヨセフは驚おどろいたにちががいありません。なぜなら、彼らかれはヨセフのお兄さんにいたちだだったのですから。ヨセフに会あったとき、お兄さんにいたちはどうどうしまましたか？ ヨセフは、どうどうしまましたか？ 創世記そうせいき 42：6-8。

ヨセフの頭あたまは、めまぐるしく動うごいていいました。お兄さんにいたちのとこころに走はしっていいって、みんなと抱だき合あいたかかったのですが、その気持きもちをけん命めいにおささえました。彼らかれは今いまでも、自じ分ぶんを憎にくんでいいるだだろうか？ それとも、心こころを入いれかかえてくくれたたららうか？ ベニヤミンは、どこどこにいるんだだららう？ ベニヤミンも、お兄さんにいたちに憎にくまれていいるだだららうか？ 大だい好すきなお父とうさんは、今いまでも生いきていいるだだららうか？

むかし見みた、お兄さんにいたちの麦むぎの束たばが、自じ分の麦むぎの束たばをおがきゆめを、ヨセフは思おもい出だしました。彼らかれが心こころを入いれかかえたかどどうかかを、確たしかかめることことにしまました。彼らかれにわわざとスうたがパイパイの疑ぎいいをかけて、いろいろろ



質問してみることにしました。9-17節。

牢屋に入れられたお兄さんたちは、むかしのことを思い出しながら、いろいろなことを考えていました。お父さんのヤコブは、弟のベニヤミンを、けってエジプトには行かせないだろうと思いましたが、このまま飢きんがつづけば、食べ物を買いにエジプトにもどってこなくてははいけません。自分たちは、どうになってしまうのだろう？ ヨセフを奴隷に売ってしまった自分たちも、奴隷にされてしまうのらうか？

3日めに、ヨセフはふたたび、彼らと話をしました。ヨセフはエジプトの言葉を使っていたので、あいだに通訳を入れて話します。彼らはおたがいに相談しながら、エジプトの総理大臣と話しましたが、彼らの言葉をヨセフがぜんぶ分かっていることを、お兄さんたちは知りませんでした。ヨセフは、そこから出て行きました。これ以上、涙をこらえきれなくなったからでした。18-24節。

恐れおののいた9人の男たちは、故郷にむかって旅立ちました。ただひとり、シメオンだけが、牢屋に残ることになりました。彼がいちばんヨセフを殺したがっていたことを、お兄さんたちは思い出しました。

その日の晩、ロバにえさをあげようと、穀物の袋をあけてみると、中には何が入っていましたか？ 25-28節。何からなにまで、おかしなことばかりです。

考えてみよう：神様は、ヨセフのお兄さ

んたちを怒っておられたのでしょうか？ それとも、本当は彼らを助けておられたのでしょうか？ どうやって、助けておられたのでしょうか？ ヨセフは、怒っていたと思いますか？

## すいようび 水曜日

家にもどったヨセフのお兄さんたちは、エジプトで起こったことを、ぜんぶお父さんに話しました。今度エジプトへ行くときには、ベニヤミンもいっしょに連れて行かなくてはならないことも話しました。かならずベニヤミンを無事つれて帰ってくるからと言っても、ヤコブは、「だめだ」と言うだけでした。創世記 42:29-38。

とうとう、食べ物が残り少なくなりました。ヤコブは息子たちに、食べ物を買いに、またエジプトへ行くように頼みました。しかしユダは、エジプトの総理大臣に言われたことをくりかえして、ベニヤミンをいっしょに行かせてくれるよう、お父さんを説得したのです。ついに、ヤコブはなんと仰言いましたか？ 創世記 43:11-14。

ふたたびエジプトにやってきたお兄さんたちは、おどろき恐れしました。何が起こったのでしょうか？ 15-18節。彼らは、どうしましたか？ 19-23節。

家づかさが親切だったので、お兄さんたちはほっとしました。ヨセフの家には、シメオンも連れてこられました。総理大臣に贈り物をさし上げる前に、あれこれ説明しなくてははいけませんでした。

ヨセフが入ってくると、お兄さんたちは、うやうやしく彼にあいさつをしました。ヨセフは、お兄さんたちといっしょにいるベニヤミンが気になって、仕方ありませんでした。29 - 31 節。ヨセフは、どんな気持ちでしたか？

食事の席で、お兄さんたちはあることに気がついて、びっくりしました。きっちり、年の順にすわらされたのです。しかも、ベニヤミンのお皿だけ、お兄さんたちのお皿よりも、食べ物の方が5倍も多く入れられていました。

ヨセフはこっそり、様子をうかがっていました。お兄さんたちはだれも、気にしていないようでした。しかし、もうひとつだけ、きびしいテストを用意していました。それは何でしたか？

**かんが** **考えてみよう：** つぎの日の朝、旅立ったお兄さんたちは、どんな気持ちだったと思いますか？

## もくようび 木曜日

**エ** ジプトではすべてがうまくいったので、わがやに向かって旅立ったヨセフのお兄さんたちは、とてもほっとしていました。ベニヤミンは無事でした。シメオンも、いっしょに帰ることになりました。食べ物も手に入りました。あとは、うちに戻るだけです。ところが、町の外までくると、ヨセフの家づかさが追いかけてくるではありませんか。今日は、きげんがわる悪そうです。

彼はきびしい態度で、「どうして、私の主人が大切にしている、銀のコップをぬすんだのですか？」と質問しました。

お兄さんたちは、びっくりしました。だれも、コップを盗んではいません。それだけは確かだと思ったので、もしコップがだれかの袋の中で見つかったら、その袋のもちぬしは殺され、残りの者たちは奴隷になってもいいと言ったのでした。

家づかさは言いました。「いや、コップの見つかった袋のもちぬしだけが、どれいになればいい」と。家づかさは、いちばん上のお兄さんのものから始めて、ひとつひとつ袋を調べました。そしてなんと、さいごの袋、つまりベニヤミンの袋をあけると、中から銀のコップが出てきたのです。お兄さんたちは、どうしましたか？ 創世記 44 : 13。

そのあいだヨセフは、自分の家で待つ



ていました。ベニヤミンを奴隷にすると  
言ったら、お兄さんたちはどうするだろ  
うか？ 彼をエジプトにおいて、帰ってしま  
うだろうか？ しばらくたって、お兄さん  
たちが戻ってきました。ヨセフに話をした  
のは、ユダでした。もしベニヤミンを連  
れてもどらなかつたら、お父さんは死  
んでしまうだろうと言いました。それ  
から彼は、ベニヤミンの代わりに、自  
分を奴隷にするようヨセフに頼んだ  
のでした。

お兄さんたちが確かに変わったことを、  
ヨセフははっきりと知りました。彼は召  
使たちみんなに、部屋から出るよう命  
じました。もう、通訳も必要ありません。  
**創世記 45：1-4。**

エジプトの総理大臣がヨセフだ  
って？ お兄さんたちは、信じられ  
ない気持ちでした。何も言うことが  
できません。ヨセフは、どうする  
だろうか？ ベニヤミン以外は、  
奴隷にされてもおかしくありません。  
ヨセフはすぐに、こわがらなくても  
いいと、彼



らに告げました。5-8節。

**考えてみよう：**ヨセフは、神様を愛し、  
神様に信頼し、神様の律法にしたがうこと  
を選んでいました。神様は、彼の身に起こ  
ったすべての悪いことを、祝福に変えること  
がおできになったのでしょうか？ 私たちがヨ  
セフと同じ道を選んだら、神様は私たちの  
ためにも、そうしてくださるのでしょうか？  
**ローマ8：28。**

## きんようび 金曜日

**ヨ**セフがお兄さんたちに、本当のこ  
とを話してから、実にいろいろな  
ことが起こりました。彼はお兄さん  
たちに、お父さんのヤコブと家族の  
みんなを、エジプトへ連れてくる  
ように頼みました。あと5年は、  
飢きんがつづくことになってい  
たからです。エジプトに来れば、  
食べ物に困ることはありません。

ヨセフのお兄さんたちがエジ  
プトにやってきたという知らせは、  
すぐにパロの耳にもとどきました。  
王様は、ヨセフの家族がエジ  
プトに移ってくることを喜び、  
彼らの手伝いをするようにとの  
命令を下しました。パロは、  
ヨセフになんと言いましたか？  
**創世記 45：17-20。**

お兄さんたちはうちに戻って、  
エジプトの総理大臣がヨセフ  
であることをお父さんに話  
しました。しかしヤコブは、  
その話を、すぐに信じる  
ことができませんでした。  
**25-28節。**

ついに何年もたってから、ヤコブの息子たちは、むかしのあやまちを告白しました。ヨセフは、彼らをゆるしてくれました。お父さんは、彼らをゆるしてくれるでしょうか？ 息子たちが恐ろしい罪を犯したことのショックよりも、ヨセフが活着ているという喜びのほうがまさっていました。

ヤコブは早くヨセフに会いたいと思いましたが、それでも彼は、エジプトに行くことが神様のご計画かどうかを確かめるほうが先だと考えました。彼はどうやって、神様のみこころを知りましたか？ **創世記 46：1-6。**

ユダは、みんなよりも先に行って、家族がまもなく着くことをヨセフに知らせました。ヨセフは、すぐにどうしましたか？ **28-30節。**

ゴセンは、エジプトでいちばんいいところでした。そこに住むことができたなら、家族にとっても、いっしょに連れてきた家畜にとっても、申し分ありません。パロ



は喜んで、その地を彼らに与えました。

ヤコブは、その後17年も生きました。彼は、とても幸せでした。長い人生のあいだに起こったいろいろな出来事をふりかえって、彼は神様に感謝をささげました。神様がいつも彼と共にいてくださり、最後には、すべてを祝福に変えてくださったからでした。

**かんがえてみよう：**私たちの人生は、選ぶ道によって、大きく変わってきますね。ヤコブは、そのことを学びました。息子たちもそうでした。サタンに耳をかたむけるように誘惑されるときも、正しい道を選ぶよう、神様はやさしく気づかせてくださいます。何が起ころうとも、私たちに對する神様の愛がとだえることは、決してありません。

## まな もっと学ぼう！

★創世記 40-50章

★人類のあけぼの上巻 p. 239-272

★あがないの歴史 p. 127-128



# しる かべ 白い壁のかくれが

エイミー・シェラード

だ<sup>むかし はなし</sup>いふ昔の話ですが、ジョンという少年<sup>しょうねん</sup>が、お母さん<sup>かあ</sup>とおばあちゃん<sup>おばあちゃん</sup>と暮ら<sup>く</sup>していました。三人<sup>さんにん</sup>は、丘<sup>おか</sup>のそば<sup>そば</sup>の小さな丸太<sup>まるた</sup>小屋<sup>こや</sup>に住<sup>す</sup>んでいました。ジョンには、兄弟<sup>きょうだい</sup>がい<sup>あ</sup>ませんでした。遊び<sup>あそ</sup>相手<sup>あいて</sup>といえば、家<sup>いえ</sup>の番犬<sup>ばんけん</sup>としてか<sup>お</sup>っていた、大きなコリー<sup>けん</sup>犬<sup>いぬ</sup>だけ<sup>うし</sup>でした。この犬<sup>いぬ</sup>は、牛<sup>うし</sup>をじょうず<sup>じょうず</sup>に牧場<sup>ぼくじょう</sup>から連<sup>つ</sup>れてくることができ<sup>でき</sup>ました。また、ジョンとかくれんぼ<sup>かくれんぼ</sup>をして遊ぶ<sup>あそ</sup>のがだいす<sup>だいす</sup>きでした。

ジョンは、かたいなか<sup>せいかつ</sup>の生活<sup>せいかつ</sup>が、たいそう気<sup>き</sup>に入<sup>い</sup>っていました。こわいと思<sup>おも</sup>ったことは、いちどもありませ<sup>あ</sup>りませんでした。ところがある日<sup>ひ</sup>、家<sup>いえ</sup>から家<sup>いえ</sup>へと強盗<sup>ごうとう</sup>に押し入<sup>お</sup>っては、家<sup>いえ</sup>や納屋<sup>なや</sup>を燃<sup>も</sup>やしてしま<sup>しま</sup>う悪い人<sup>わるい</sup>たち<sup>ひと</sup>の話<sup>はなし</sup>を、お母さん<sup>かあ</sup>がどこか<sup>どこか</sup>からか聞<sup>き</sup>いてきた<sup>きた</sup>のです。丘<sup>おか</sup>の上<sup>うえ</sup>からは、その強盗<sup>ごうとう</sup>たち

がキャンプ<sup>ぼしよ</sup>をはっている場所<sup>み</sup>を見<sup>み</sup>ることができ<sup>でき</sup>ました。今<sup>いま</sup>とな<sup>あ</sup>っては、安全<sup>あんぜん</sup>で平和<sup>へいわ</sup>な暮ら<sup>く</sup>しどころではありませ<sup>あ</sup>りません。

ある冬<sup>ふゆ</sup>の日<sup>ひ</sup>、親切<sup>しんせつ</sup>な近所<sup>きんじよ</sup>の人<sup>ひと</sup>がや<sup>や</sup>ってき<sup>き</sup>て、お母さん<sup>かあ</sup>とおばあちゃん<sup>おばあちゃん</sup>に教<sup>おし</sup>えてく<sup>く</sup>れました。「強盗<sup>ごうとう</sup>たちが、明日<sup>あした</sup>このあたり<sup>あたり</sup>にや<sup>や</sup>ってくるそうよ。」

近所<sup>きんじよ</sup>の人<sup>ひと</sup>が帰<sup>かえ</sup>ってから、お母さん<sup>かあ</sup>は、台所<sup>だいどころ</sup>にいるおばあちゃん<sup>おばあちゃん</sup>のそば<sup>そば</sup>にすわり<sup>すわり</sup>ました。「どうしたらいいかしら？」と、心配<sup>しんぱい</sup>そうな顔<sup>かお</sup>で言<sup>い</sup>いました。「強盗<sup>ごうとう</sup>がや<sup>や</sup>ってき<sup>き</sup>ても、私<sup>わたし</sup>たちは、ほかに安全<sup>あんぜん</sup>な逃げ<sup>に</sup>場所<sup>ぼしよ</sup>がないですから。」

ジョンは、だま<sup>だま</sup>ってお母さん<sup>かあ</sup>を見<sup>み</sup>ていま<sup>いま</sup>したが、彼女<sup>かのじよ</sup>の首<sup>くび</sup>にうで<sup>うで</sup>を回<sup>まわ</sup>して、キス<sup>キス</sup>を<sup>を</sup>しま<sup>しま</sup>した。

彼<sup>かれ</sup>は言<sup>い</sup>いました。「お母さん<sup>かあ</sup>、神様<sup>かみさま</sup>にお願<sup>ねが</sup>いすれば、かならず守<sup>まも</sup>ってくだ<sup>くだ</sup>さるはずだよ。」

お母さん<sup>かあ</sup>は、にっこりしま<sup>しま</sup>した。「そうねジョン、神様<sup>かみさま</sup>はき<sup>き</sup>つと守<sup>まも</sup>ってくだ<sup>くだ</sup>さるわ。私<sup>わたし</sup>たちが、ここからよそにい<sup>い</sup>けないこ<sup>こ</sup>とを、神様<sup>かみさま</sup>はごぞんじな<sup>な</sup>の<sup>の</sup>だ<sup>だ</sup>から、き<sup>き</sup>つと私<sup>わたし</sup>たち<sup>たち</sup>を助<sup>たす</sup>けて、ま<sup>ま</sup>守<sup>まも</sup>ってくだ<sup>くだ</sup>さるはずだわ。」

しよくじ<sup>しよくじ</sup>食<sup>しょく</sup>事<sup>じ</sup>をしてから、三人<sup>さんにん</sup>でひ<sup>ひ</sup>ざまず<sup>ざまず</sup>いて祈<sup>いの</sup>りました。お母さん<sup>かあ</sup>は、お祈<sup>いの</sup>りの中<sup>なか</sup>で次<sup>つぎ</sup>のよ



うに言いました。「ああ神様、この家のまわりを壁をきずき、私たちをお守りください。」お祈りを終えてたちあがったとき、三人とも、神様が祈りに答えてくださることを確信し、心は平安でみたされました。その日の晩、ジョンはベッドの中で、神様はどのような壁をきずいてくださるんだろうと考えていました。

つぎの日の朝、ジョンは、家のまわりから外を見てびっくりしました。「お母さん、おばあちゃん」と大声で叫びました。「外を見てごらん。こんなにたくさん雪、ぼくは今まで見たことがないよ。家のまわりは、雪だらけだよ。」

神様はひとばんじゅう、おおつぶの雪を降らせてくださり、強い風を吹かせてくださったのでした。じめんに落ちた雪は、風に吹かれてまいあがり、とくに、強盗たちが通るはずの道にむかって、大きな壁のようになっていました。ジョンたちの丸太小屋は、外からまったく見えなくなっていたのです。

強盗たちがいつ通ったかは、だれにもわかりませんでした。けれども、しばらくたってから、小屋のすぐそばを通過していたことがわかりました。丸太小屋は、強盗たちの目から完全にかくされたのでした。

ジョンはお母さんに、「神様は人間の力をかりなくても、いともかんたんに、あんなにすごい壁をきずいてくださったんだね」と言いました。

お母さんはにっこり笑って、「そのとおりよ、ジョン」と答えました。「いつでも神様は、ご自分を愛し信頼する人たちを

守るために、どんな壁でもきずくことがお  
できになるのよ。」

# だいしょう 第6章



## かみさま 神様によって備えられた救出者

子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「わたしはあなたの口と共にあって、  
あなたの言うべきことを教えるであろう」。  
出エジプト記4章12節



にちようび  
日曜日

ヤコブやヨセフが死んでから、かなりの年月がたちました。ヤコブの息子たちの一族は、まだエジプトに住んでいましたが、最初エジプトにやってきたときよりも、人数がかなりふえていました。

聖書の中で、彼らは「ヘブル人」とか「イスラエルの子ら」と呼ばれています。イスラエルというのは、神様がヤコブに与えた新しい名前でした。

神様は、ヤコブの一族を、ひとつの国にまで大きくすると約束しておられました。けれども、その国は、エジプトにではなく、カナンの地につくられることになっていたのです。彼らはいつ、カナンに戻ればよいのでしょうか？

エジプトの王様は、パロと呼ばれていました。ヨセフの家族にとっても親切だったパロは、やがて死にました。そして、その次に王様になった新しいパロは、ヨセフがエジプトの人々を飢きんから救ったことを、気にもとめませんでした。かえって、エジプトに住んでいるイスラエル人たちがどんどん増えるのを見て、彼は心配になってきました。もしも戦争がおこったら、どうなるのだろうか？ イスラエル人たちは、敵の味方になってしまわないだろうか？

しかし、イスラエル人はいい仕事をしていたので、彼らにエジプトから出てい



てほしいとは思いませんでした。では、どうすればよいのでしょうか？ 部下の人たちから、彼らを奴隷にしたらいいでしようと言われ、パロはそうすることにしました。彼はまた、女の人までも、奴隷にしてみました。パロはたくさんの大きな建物をたてていて、イスラエル人に、建物の材料となるレンガをむりやり作らせました。奴隷にされた彼らは、たいそう苦しいめにあっていました。

奴隷にして苦しめたら、少しはへるだろうと思われたのに、ヘブル人たちは、あいかかわらず増えつづけました。そこでついに、パロは恐ろしい命令を出しました。ヘブル人に男の赤ちゃんが生まれたら、その場で殺してしまえと、助産婦さんたちに命じたのでした。ところが助産婦さんたちは、王様よりも神様にしがうことを選びました。もちろん、パロはカンカンにおこりました。そこで彼は、どんな命令を出しましたか？ **出エジプト1：22。**

**かんが** **考えてみよう：17節と20節を読んでください。** パロよりも神様にしがうことを選んだ助産婦さんたちを、神様は祝福なさいましたか？

## げつようび 月曜日

**ア**ムラムとヨケベデは、神様を愛するイスラエル人の夫婦でした。彼らには、アロンという息子と、ミリアムという娘がいました。そしてさらに、もうひとり赤ちゃんが生まれました。健康な、と

てもかわいらしい男の赤ちゃんでした。彼らは、パロの恐ろしい命令のことを知っていましたが、それにしがうとは思いませんでした。しかし、もしだれかがそのことをばらしたら、どうになってしまうのでしょうか？

3か月のあいだは、なんとか赤ちゃんを隠すことができました。けれども、赤ちゃんが大きくなるにつれて、なきごえもどんどん大きくなってきますね。いったい、どうすればよいのでしょうか？ この問題について、家族みんなで祈りました。 **出エジプト2：3、4。**

その結果、とても思い切ったアイデアがうかびました。赤ちゃんを入れた小さなかごを、お姉さんのミリアムが見守っているあいだ、家族の人たちは熱心に祈っていました。

ここで、**5節と6節**を読んでください。ミリアムの心臓の鼓動がどんどん高まっていくようすを、想像することができますか？ 王女様が、赤ちゃんを見つけたのです。赤ちゃんのいったかごを水から出して、赤ちゃんを抱き上げました。王女様は、赤ちゃんが気に入ったようでした。そのようすを見たミリアムは、王女様に近づいていきました。彼女はていねいに、何を尋ねましたか？ **7節。**

王女様はミリアムを見て、にっこりしました。彼女の答えは、どのようなものでしたか？ それから、どうなりましたか？ **8節と9節。** ミリアムはあまりにうれしくて、その気持ちを外に出さないようにするのが大変だったはずですよ。

もう赤ん坊がさわいでも、だれも心配する必要はありません。しかもヨケベデは、自分の赤ちゃんの世話をすることで、王女様からお金をもらえることになったのです。その日の朝、神様が赤ちゃんを守ってくださるようと、彼らはけん命に祈りました。そしてその日のうちに、彼らの願いはかなえられ、心配は感謝と賛美にかわっていたのでした。

**かんが** **考えてみよう:** その日、王女様の行き先を、天使たちが導いていましたか？ 王女様に向かって、ミリアムが言うべきことをきちんと語れるように、天使たちが助けてくれていましたか？ あなたのそばには、いつも、どんなときでも天使がいることを、あなたは知っていますか？ 天使に助けられた経験を、思い出すことができますか？

## かようび 火曜日

い つの日か、神様が、イスラエル人々たちをカナンへとつれかえる特別な人をお送りになることを、ミリアムのお父さんとお母さんは知っていました。その特別な働きのために、神様は、自分たちの赤ちゃんを助けてくださったにちがいないと、彼らは考えました。

お母さんのヨケベデは、この赤ちゃんがあるていど大きくなったら、王女様が彼を宮殿に住まわせるようになることを知っていました。彼とっしょにいられる短いあいだに、一生のあいだ、神様を愛し、



信頼し、従う人になることを教えこまなくてははいけません。神様の助けを、彼女はどれほど熱心に祈りもとめたことでしょう。そして、彼女の祈りはかなえられたのでした。

男の子が12才になると、王女様は彼を息子としてむかえいれ、モーセと名づけました。出エジプト2:10。

モーセの家族が住んでいた、そまつな小屋での生活と、宮殿での生活は、どれほど違っていたことでしょう。王女様のはからいによって、モーセの教育には、もっともすぐれた教師がやとわれました。モーセの覚えが早いのは、パロも驚きました。やがて、みんなが彼を気に入り、ほめるようになっていました。

モーセは、お母さんが熱心に教えてくれたことを、いつしか忘れてしまったでしょうか？ いいえ、かたときも忘れることはありませんでした。エジプト人の教師たちは、

エジプト人が拝んでいた神々について教  
えました。けれども、彼は決して、これら  
の神々を拝むことはありませんでした。

いつしかモーセは、パロの軍隊の、勇  
かんで賢い司令官になるまでに成長して  
いました。モーセがパロの軍隊をひき  
いて戦いに出ていったときは、いつでも  
勝利をおさめて帰ってきました。モーセは  
エジプト人たちから大いに喜ばれ、彼が  
次の王様にふさわしいと考える者までいま  
した。

しかしモーセ自身も、イスラエルの  
指導者たちも、いつの日か、奴隷である  
イスラエル人を自由にするために、神様  
が彼を用いられるだろうと考えていまし  
た。彼はひじょうにすぐれた軍隊の指揮官  
になっていたの、いつか神様が自分を  
イスラエルの指導者にして、エジプト人と  
戦わせ、イスラエルに勝利をもたらされる



のだろうと考えていました。しかし、それ  
が本当に神様のご計画でしたか？

**考えてみよう：両親といっしょにすごした  
12年間は、モーセにとってどれほど重要  
でしたか？両親といっしょにすごしている  
今の時期は、あなたにとっても重要だと思  
いますか？あなたのお父さんとお母さん  
が、あなたが神様を愛し、信頼し、従うよ  
うになることを望み、そのようにあなたを  
教えているなら、これ以上に喜ぶべきこと  
はありません。**

## すいようび 水曜日

**40**才のとき、モーセは大変なま  
ちがいをしてしまいました。出  
エジプト記2章の11節から14節までを  
読んでください。自分は神様を助けて、イ  
スラエル人を自由にする働きをしていると  
思っていました。ただ、イスラエル人た  
ちは、自由にしてもらう準備ができていな  
かったのです。

モーセのしたことを耳にしたパロは、彼  
を殺すことにしました。モーセがイスラ  
エル人をひきいて、エジプトに敵対して戦う  
かもしれないと思ったからです。そのこと  
を知ったモーセは、命からがらエジプトを  
逃げ出し、ミデアンというところにやって  
きました。

ミデアンまでは、長いながい道のり  
でした。エジプトからミデアンに逃げていく  
途中、モーセはなんども泣いたことでしょ  
う。自分は、神様の期待にこたえられな

かった。自分<sup>じぶん</sup>はまったくだめな人間<sup>にんげん</sup>だ、と  
感じ<sup>かん</sup>ました。神様<sup>かみさま</sup>は、もう決<sup>けつ</sup>して、自分<sup>じぶん</sup>  
を用<sup>もち</sup>いてイスラエル人<sup>びと</sup>を自由<sup>じゆう</sup>にしようとはな  
さらないだろう、と思<sup>おも</sup>いました。

モーセは、王女<sup>おうじよさま</sup>様の<sup>かんが</sup>ことを考え<sup>かんが</sup>ました。  
彼女<sup>かのじよ</sup>もパロも、モーセの<sup>かんが</sup>ことをかわい<sup>わ</sup>がっ  
てくれ<sup>くれ</sup>ました。でも彼<sup>かれ</sup>にとっては、王女<sup>おうじよさま</sup>  
様<sup>かんが</sup>よりも、ほんとうのお母<sup>かあ</sup>さんであるヨケベ  
デと、その教<sup>おし</sup>えのほう<sup>だいじ</sup>がもっと大事<sup>だいじ</sup>でした。  
母親<sup>ははおや</sup>から教<sup>おし</sup>えられた<sup>かれ</sup>ことを、彼<sup>かれ</sup>はいつまで  
も忘<sup>わす</sup>れませんでした。どんな<sup>かんが</sup>ことがあつて  
も、神様<sup>かみさま</sup>を愛<sup>あい</sup>し、信<sup>しん</sup>頼<sup>らい</sup>し、したがおうと思<sup>おも</sup>  
いました。

これからどうしようかと思<sup>かんが</sup>えながら、ミデ  
アンの井戸<sup>いど</sup>のそば<sup>た</sup>に立<sup>た</sup>っていたら、若い<sup>わか</sup>  
女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>たちが、羊<sup>ひつじ</sup>の群<sup>む</sup>れをつれてやっ  
てきました。モーセは<sup>かんが</sup>どうして、彼女<sup>かのじよ</sup>たちを  
助<sup>たす</sup>けたのですか？ 16 節<sup>せつ</sup>と 17 節<sup>せつ</sup>をよんで



ください。

7 人の若い女性<sup>にん わか じよせい</sup>たちは、ほんとうの  
神様<sup>かみさま</sup>をおが<sup>おが</sup>む人の娘<sup>むすめ</sup>たちでした。やがて、  
女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>たちは羊<sup>ひつじ</sup>たちをつれて家<sup>いえ</sup>に帰<sup>かえ</sup>って  
しまいましたが、それからどうなるのか、  
モーセにはまったく分<sup>わ</sup>かりませんでした。  
その日<sup>ひ</sup>の夕方<sup>ゆうがた</sup>までに、神様<sup>かみさま</sup>はどうやっ  
て、すべてを解決<sup>かいけつ</sup>してくださ<sup>せつ</sup>いましたか？ 18  
節<sup>せつ</sup>から 21 節<sup>せつ</sup>までをよんでください。

**かんが** **考えてみよう**：**かみさま** 神様<sup>かみさま</sup>はなおも、モーセを  
見守<sup>みまも</sup>っておられましたか？ たとえあやまち  
を犯<sup>おか</sup>しても、神様<sup>かみさま</sup>は私<sup>わたし</sup>たちを愛<sup>あい</sup>してくださ  
いますか？

## もくようび 木曜日

モーセは、そまつな小屋<sup>こや</sup>から宮殿<sup>きゆうでん</sup>  
に移<sup>うつ</sup>り、パロの軍隊<sup>ぐんたい</sup>の司令官<sup>しらいかん</sup>か  
ら羊飼<sup>ひつじか</sup>いになりました。

羊<sup>ひつじ</sup>という生き物<sup>いもの</sup>を、よく知<sup>し</sup>っていますか？  
あまり賢<sup>かしこ</sup>い動物<sup>どうぶつ</sup>ではありません。羊<sup>ひつじ</sup>を飼<sup>か</sup>う  
には、注意<sup>ちゆうい</sup>ぶかく世話<sup>せわ</sup>をしてあげなくては  
いけません。そうしないと、羊<sup>ひつじ</sup>は自分<sup>じぶん</sup>で、  
多く<sup>おお</sup>のやっかいな問題<sup>もんだい</sup>をまねくことがある  
からです。40 年<sup>ねん</sup>という年月<sup>ねんげつ</sup>のあいだに、  
モーセは、とてもがまんづよく、親切<sup>しんせつ</sup>で、  
用心<sup>ようじんぶか</sup>深い<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>になっていました。

そのあいだずっと、彼<sup>かれ</sup>は、エジプトにい  
るかわいそうなイスラエル人<sup>びと</sup>たちのことを  
考<sup>かんが</sup>えていました。出エジプト<sup>しゅつ</sup> 2 : 23。とき  
どき山<sup>やま</sup>を見<sup>み</sup>ながら、人間<sup>にんげん</sup>は神<sup>かみ</sup>と比<sup>くら</sup>べると、  
なんて小<sup>ちい</sup>さくて弱<sup>よわ</sup>いのだろうと思<sup>おも</sup>ったこと  
でしょう。羊<sup>ひつじ</sup>たちの番<sup>ばん</sup>をしながら、彼<sup>かれ</sup>はた

くさんの詩や歌を作りました。また、聖霊に導かれて、創世記を書きました。

ある日、羊たちの世話をしていたとき、モーセは、あるとても変わったものを目にしました。それは何でしたか？モーセは、どうしましたか？**出エジプト3：1-10**。

モーセは、たいへん驚きました。エジプトを逃れてミデアンにやってきてから、もう二度と、神様に用いられてイスラエルの人々を助け出す働きをすることはないだろうと思っていたからです。

モーセはなんと、神様は大きなまがいをしていると、神様をときふせようとしたのです。ご自分のやることにまがいはないことを、神様は、しんぼうづよくお語りになりました。自分は何をどう言っているかわからないと、モーセは言い張りました。神様はご自分がいっしょにいて、彼を助けるから、何も心配はいらないと、言われました。エジプトに行つて



やるべきことと、パロに向かって言うべきことを、神様はそのとき教えてくださいましたが、それでもモーセは、自分にはできるとはどうしても思えませんでした。

神様は、あきらめませんでした。こんどは奇跡をおこなって、モーセに信じさせようとなさいました。**出エジプト4：1-9**。モーセが神様に信頼することができるようにと、神様は、あらゆる手をつくされました。

それでもモーセは、自分はふさわしくないとはいってこんでいました。こんどは、どんな言い訳をしましたか？**10節**。エジプト軍の勇敢な司令官であったところと比べると、どれほど変わっていたことでしょうか。

とうとう、パロへの話は、モーセのお兄さんであるアロンにさせることを、神様は承知なさいました。しかしそうであっても、指導者はモーセで、アロンは彼の代わりに話をするだけです。モーセの謙遜な〔へりくだった〕態度は神様を喜ばせましたが、彼はもっと神様に信頼すべきでしたね。

**考えてみよう：**したがいたくないとき、私達も、お父さんやお母さんと言いつつたり、あれこれ言い訳したりすることがありますか？そうするのは簡単ですが、それは正しいことでしょうか？

## きんようび 金曜日

モーセは、エジプトに向かっていました。途中、アロンが彼を待って

いました。イスラエルの人たちは、彼らを信じてくれるでしょうか？ パロはどうでしょうか？ **出エジプト4：27－5：2。**

パロがとてもがんこになって、彼らの要求をことわることを、神様は前もってモーセに知らせてありました。 **出エジプト3：19、20。**

奴隷たちをどこかに行かせるなんて、パロは考えようともしませんでした。じっさいに、彼はたいそう怒って、これまでよりももっと意地悪になりました。 **出エジプト5：6－14。**

イスラエルの人たちは、これまでもないへんな仕事を無理やりさせられてきましたが、さらにひどい目にあわされてしまいました。自分でわらをさがして、レンガを作らねばならないとしたら、これまでと同じ数のレンガを作るのは、ぜったいに無理です。じきに彼らは、パロに向かって苦情〔不平や不満〕を言うようになりました。けれども王様は、考えを変えようとしませんでした。



次に彼らは、モーセとアロンに向かって文句を言いました。しかし、モーセとアロンは、神様から言われたことをやっていただけです。こんどは、モーセが不平を言う番です。彼は、自分を助けることのできるただひとりのお方に、苦しい思いをぶつけたのでした。彼は、神様に向かってなんと仰言いましたか？ **22節と23節。**

神様はモーセに、ご自分がどれだけすごい力をもっているか、念をおして言われました。これまで神様は、アブラハム、イサク、ヤコブとの約束を守ってこられました。とうぜん、イスラエルの人たちを自由にするという約束も、守るつもりでした。最後には、パロをふくむすべての人が、神はただひとりであることと、神様にできないことは何もないことを知るようになるのでした。

**考えてみよう：**何もかもうまくいかないときでも、神様に信頼しつづけるというのは、かんたんなことでしょうか？ しかし、そうすることだけが、安全な道なのではないでしょうか？ アブラハムもイサクもヤコブも、そのことを悟りました。彼らの物語を忘れることなく、いつでも神様に信頼することを選びましょう。

## もっと学ぼう！

★**出エジプト記1－6章**

★**人類のあけぼの上巻 p. 273-299**

★**あがないの歴史 p. 128-142**



## フロイドと目の見えないポニー

エイミー・シェラード

フロイドは、もうずっと前からポニーがほしいと思っていました。そしてある日、お母さんにこう言いました。「お母さん、ぼくはイエス様になんどもお願いしたんだけど、ポニーは手に入らなかったよ。どうしてイエス様は、ぼくにポニーをくださらないんだろう？」

お母さんは、次のように言いました。「イエス様は、いろんな方法で、私たちの祈りにこたえてくださるということを忘れたの？ ときには、私たちが忍耐づよく待つことを望まれるのよ。もちろん、すぐに答えてくださることだってあるわ。またあるときには、私たちの望むものが、あまりいい結果をもたらさないことをご存じで、私たちの期待どおりに答えてくださらないときだってあるのよ。だから、忍耐づよく祈りながら、ポニーを買うお金をためつづけなさい。」

フロイドは、自分のもっているお金のことを考えました。什一献金はいつも欠かさずささげ、イエス様は自分を祝福してくださっていると思っていました。こんどはお母さんのアドバイスどおりにやってみ

ることにしました。貯金をやりつづけて、忍耐することに決めたのでした。

それからある日、たった15ドルで売りに出されている、ポニーの話を目にしたのです。フロイドは貯金したお金をもって、お父さんとお母さん、そして三人の妹たちといっしょに、ポニーを見に行きました。

ポニーがいるところにやってくると、飼い主が言いました。「子供のためにこのポニーを買うなら、やめといたほうがいいですよ。こいつは目に腫れ物があって、もうほとんど目が見えなくなっているんです。だから、こんなに安い値段で売りに出しているんですよ。」

フロイドは、ポニーに乗ってみました。これよりも高いポニーを買うお金はありませんし、しかも彼は、この馬が気に入ってしまったのです。お父さんとお母さんが、目の腫れ物について、飼い主にいろいろ尋ねてくれました。目の腫れ物を切り落としたり、もしかしたら、もっとよく見えるようになるかもしれないと考えた彼らは、この馬を買うことにしました。家につれ帰ってから、目を治せるかどうか、いろいろ調べてみることにしまし



た。

家に戻った彼らは、まず、イエス様の助けを祈り求めました。それから、ポニーの目の手術をする前に、目にヒマシ油をぬりました。するとなんと、一週間後には、ポニーの目が見えるようになっていたのです。家族のみんなは、どんなに喜んだことでしょう。

もとの飼い主は、ポニーの目が見えるようになったと聞いて、たいそう驚きました。

フロイドのポニーを買いたいという人たちも、現れました。もちろん、売るつもりはありません。フロイドと妹たちは、ポニーをとてまかかわいがりました。馬も、彼らのことが大好きでした。ひとりずつ代わりばんこで馬に乗るのが、彼らにとって、いちばん楽しい時間になりました。

何よりもフロイドにとって良かったのは、イエス様はかならず祈りにこたえてくださるというお母さんの言葉にしたがい、それが本当であることを学んだことでした。

イエス様が私たちの祈りにこたえてくださると信じ、そのことを忘れないかぎり、決して失望することはありません。イエス様に信頼することを選び、忍耐して祈りつづけるならば、彼は、いつでも最善の〔いちばんよい〕方法でこたえてくださることを、私たちは知るようになるでしょう。イエス様は、私たち一人ひとりを愛してくださっているのですから。



# だいしょう 第7章

## じぶん ちから かみさま ご自分の力をあらわす神様



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

わざわ のそ  
「災いはあなたに臨まず、  
なや てんまく ちか  
悩みはあなたの天幕に近づくことはない。」

しへん へん せつ  
詩篇 91 編 10 節

#### にちようび 日曜日

イスラエルの人は、もう何年もエジプトに住んでいました。エジプト人のまがった行いを見るのに慣れてしまった彼らは、神様を礼拝し、その律法を守ることに、だんだん不注意になっていきました。イスラエルの神は、その民が奴隷になるのを防ぐ力がないうと、エジプト人たちは彼らをばかにしました。それはすなわち、神様ご自身をばかにすることでした。

モーセとアロンがパロに向かって、イスラエルの民を去らせ



るよう求めたとき、王様がなんと行ったか覚えていませんか？ **出エジプト5：2**。その後、彼はイスラエル人たちに、もっときつい仕事をさせたのでした。その仕打ちがあまりにもひどかったため、彼らの多くは、モーセが戻ってこなければよかったのと思ったほどでした。モーセがエジプトに戻ってからというもの、彼らの生活は、

これまでよりももっと苦しくなっていたのでした。

たしかに、それは戦争のようなものでした。サタンは、神様の約束が果たされるのをじゃまするためなら、どんなことでもしていました。それは、神様が、ご自分の民を自由にするという約束でした。がんこなパロは、サタンに協力していました。反対に、モー

セとアロン、そしてイスラエルの年長者たちは、神様に協力していました。彼らは、がっかりしているイスラエル人たちに向かって、神様はかならず約束を守ってくださるといって、みんなを励ましたのでした。

**出エジプト記7章の1節から6節まで**を読んでください。それから、**3節と4節**をもういちど読んでください。神様はここで、何を言おうとしておられるのでしょうか？神様は、すべての人を愛しておられますね。み子である神〔イエス〕様は、すべての人のために死のうとしておられました。そのようなお方が、どうして、だれかの心をかたくな〔がんこ〕にするのでしょうか？そのことについて、しばらく考えてみましょう。

夏の暑い日に、ろうのかたまりを、お皿の上においたとします。そのそばに、泥をこねてつくったお皿をおきます。日ざしがどんどんあつくなくなっていくと、ろうはどうなりますか？やわらかくなりますね。やわらかいろうで、暗やみを照らすろうそくを作ることできます。泥のお皿はどうなりますか？どんどんかたくなりますね。

ろうは、神様を愛し、信頼し、したがうことを選んだ人の心のようなものです。泥は、サタンのうそを信じることを選んだ人の心のようなものです。神様は、日光のように、すべての人に愛をそそいでくださいます。そして一人ひとは、どちらの心をもつかを、自分で選ぶのです。パロは、どちらの心を選びましたか？

**考えてみよう：**あなたは今日、どちらの

心をもつことを選びますか？

## げつようび 月曜日

**サ**タンは魔術〔マジック〕ができることを、あなたは知っていましたか？ときには、ほんとうに奇跡をおこなうことだってできるのです。イエス様がふたびおいでになる前には、彼はたびたび不思議なわざをおこなうようになるでしょう。**黙示録13：13**。モーセとアロンは、神様に言われて、パロの前で奇跡をおこないませんでした。そのとき、何が起こりましたか？**出エジプト7：8-12**。



サタンは、魔術師たちの杖を、ほんもののへびのように見せかけました。しかし、アロンのへびが、これらのへびを飲みこんでしまいました。神様は、ご自分の力について考えるチャンスを与えようとしておられたのでした。ところが、パロは何をしましたか？**13節**。

エジプト人たちが拝んでいた神々のひとつに、ナイル川がありました。パロは、毎朝ナイル川へ行き、その川にむかって祈りをささげていました。祈りのなかで、その川をほめたたえました。また、その川のおかげで作物が育ち、食べ物を与えられることを感謝しました。その川がどうなってしまうと、モーセはパロに告げましたか？**17節と18節**。

神様が告げられたとおりのことが、起こりましたか？家のなかの水にいたるまで、水は一滴のこらず血になってしまいま

した。川の魚は死んでしまい、くさいにお  
いが一面にただよいました。水を得るた  
めに、人々は何をしなければなりません  
でしたか？ **24 節**。

しかしまたもや、サタンは魔術師たちを  
使って、同じ奇跡をおこなえるように見せ  
かけたのでした。パロの心は和らげられま  
したか？ それとも、ますますかたくな〔が  
んこ〕になりましたか？ その災いは、ど  
のくらいつづきましたか？ **22 節と 23 節、  
25 節**。

つぎに神様は、べつの災いをおくと、  
パロに警告なさいました。こんどは、どの  
ような災いでしたか？ **出エジプト8:1、2**。  
カエルは、どこに現れましたか？ **3 節と  
6 節**。寝るところも、食べる場所も、水  
の中も、どこもかしこもカエルだらけでし  
た。

こんども魔術師たちは、同じ奇跡をおこ  
なえるように見せかけましたか？ **7 節**。し  
かし、カエルがあまりにも多いの  
で、パロは困りはててしまいました。  
彼は、モーセに何を願いま  
したか？ **8 節**。



王様が望んだ時間にカエ  
ルの災いはやむことを、モー  
セは約束しました。そのとおりになりまし  
たか？ **9-15 節**。

**かんが**  
**考えてみよう:** パロは、どのような心を選  
んでいましたか？

ブヨとは、どのようなものか知って  
いますか？ そもそも、とても小さ  
くて見えにくい虫です。けれども、その虫  
にかまれたら、かゆくたまらなくなります。  
**出エジプト記 8 章の 16 節と 17 節**を  
読んでください。

こんどはエジプトの魔術師たちも、神様  
のまねをして、ブヨを出すことはできませ  
んでした。エジプトの神々よりも、ヘブル  
人の神様のほうがまさっていることが、彼  
らにも分りはじめていました。

朝早く、パロが川を畔に出ていった  
ら、そこにモーセがやってきました。イス  
ラエルを去らせることをパロが拒みつづ  
けたら、次に何が起るとモーセは言いま  
したか？ **20-23 節**。

こんどは、いたるところにアブが現れま  
した。スズメバチのように大きくて、ブ  
ンブンと羽を鳴らし、チクツと針を刺し  
て血を吸うアブの大群です。イスラエル  
人が住んでいたゴセンの地だけは、アブ  
がやってきました。



パロは、モーセとアロンを呼びました。  
こんどこそ、あまり遠くでな  
ければ行ってもよろしいと、  
彼は言いました。モーセは、どうしまし  
たか？ アブは、どうなりましたか？ そしてパ  
ロは、どうしましたか？ **30-32 節**。

**かんが**  
**考えてみよう:** 神様はパ  
ロに、なんどもチャンスを



お与えになりましたね。この時も、パロはだれの言うことを聞いていましたか？ 神様は、まだまだチャンスを与えつづけられるのでしょうか？ 神様は、忍耐づよいお方ですか？

### すいようび 水曜日

天の神様だけが本当の神様であることを、パロとエジプト人たちに分からせるために、いろんな方法が用いられました。アブの災いのあと、エジプト人の動物たちが、病気におそわれました。たくさんのおバヤラクダや羊、馬や牛たちが死にました。パロは、イスラエル人の動物たちがどうなっているのか気になって、ゴセンに家来をつかわしました。なんと、イスラエル人の動物たちは無事でした。そのことを知った王様は、これまでよりもカンカンに怒り、ますますがんこになってしまいました。出エジプト9：7。

体に、腫れ物〔おでき〕ができたことはありますか？ 痛いですよ！とつぜん、エジプト人と、生き残った彼らの動物たちは、ひどい腫れ物に悩まされました。しかしそれでも、パロは神様に降参して、イスラ



エル人を去らせようとはしませんでした。11節と12節。

災いは、ますますひどいものになっていきました。つぎに神様は、すべての動物たちを屋根の下に避難させるよう、パロに警告しました。さもないと、雷と雹の嵐にやられてしまうことでしょう。多くのエジプト人は、動物たちを避難させました。彼らが拜んでいた神々よりも、天の神様のほうがまさっていることを、エジプト人たちはすでに思い知っていたのでした。

雹の嵐は、どれほどひどいものでしたか？ 23－26節。この時、パロは何をし、なんと仰言いましたか？ 彼は、本気だだと思ひますか？ 27、28、34節。

考へてみよう：神様は、パロを愛しておられましたか？ 神様にしたかう道を選ぶよう、このいばった王様に、何度もなんどもチャンスが与えられてましたか？

### もくようび 木曜日

パロの召使いたちは、彼がなぜ、がんこに意地をはりつづけるのかりか理解できませんでした。ヘブル人の神様のほうが、エジプトのどの神々よりもはるかに強いことは、もうはっきりしてました。残ったすべての緑を食いつくす、イナゴ〔バッタ〕の災いがやってくるとモーセが言ったとき、召使たちはパロになんと仰言いましたか？ 出エジプト10：7。その災いは、どれほどひどいものでしたか？ 14節と15節。



このときパロは、いそいでモーセとアロンを呼びました。がんこな彼も、召使たちが正しいことがはっきり分かったのです。神様は、じわじわとエジプトに罰を与えておられました。それはすべて、パロがまちがった道を選んだせいでした。16節から20節までを読んでください。しかしまたも、パロはイスラエルを去らせようとはしませんでした。

次の災いは、とつぜんやってきました。しかも、たいへん恐ろしいものでした。神様は、モーセに何をするように言われましたか？ 21節と22節。それは、ただ暗いだけではなく、完全なやみ、つまり真っ暗闇でした。三日間、まったく何も見えない状態がつづきました。明るいランプも、役に立ちませんでした。空気そのものが、とても重苦しく感じられて、息をするのも骨がおれました。人々は、手さぐりで家の中を歩きました。いったん



外に出たら、二度ともどれない感じがしました。どれほど恐ろしいものであったか、想像できますか？

イスラエル人たちの住んでいるところは、どうでしたか？ 23節。

パロはもういちどモーセを呼び、イスラエルを行かせることについて話し合おうとしました。しかしモーセは、パロが神様の言われることにまったくしたがうと約束しなければ、災いは終わらないと言いました。このときパロは、前よりももっと怒っていました。彼はなんといいましたか？ 28節。

パロはモーセに向かって、二度と会いにくるなと言いました。しかし神様は、もうひとつだけ、警告を与えようとしておられました。もしパロが、イスラエルを自由にすることをあくまでも断るなら、神様は、彼とエジプト人たちの上に、もっとも恐ろしい罰をもたらそうとしておられました。それは、どのようなものでしたか？ 出エジプト11：4、5。

**考えてみよう：** 多くの人が、サタンのおおひとを信じることを選ぶのは、なんと悲しいことでしょう！ 神様は、ご自分がイスラエルの人たちを愛し、彼らを気にかけておられることを、どのような方法で示されましたか？ それらの方法を、いくつか思い出すことができますか？ あなたを愛していることを示すために、神様が用いられた方法も、いくつかあげてみてください。

きんようび  
金曜日

かみさま びと ほろ てんし  
**神**様はイスラエル人に、滅びの天使  
がエジプト中をまわる夜にどう  
やっそなて備えるべきかを、きくわちりと詳しく  
おしおし教えてくださいました。彼らは、何なをしな  
くてはいけませんでしたか？ **出エジプト**

12:3-13。

かぞく かみさま い  
どの家族も、神様から言われたとおりに、  
ちゆういちゆうい注意ぶかく用意よういをしました。そのようすを、  
そうぞうそうぞう想像することが出来ますか？ 子供たちは、  
ぶつぶつ文句を言いながらしたがったと  
おもおもいますか？ 神様から言われた場所に、  
きちんちと血がぬられているかどうかは、大  
きこどもい子供たちが調べたかもしれません。

まよなか なに お  
真夜中に、何が起こりましたか？ **29 -**  
**33 節。**



じぶん こども ほか  
自分の子供と、他のすべてのういご  
さいしよさいしようう生まれた子供こどもの命いのちを助けるに  
は、もう手遅れになってから、パロはよう  
やくこうざん降参しました。ただし、自分がどれほ  
おろおろわるわる愚かで悪かったかを、後悔こうかいした〔あと  
になって悔やんだ〕わけではありませんで  
した。しかしついに、神様の約束かみさま やくそくがその  
とおりになるのを、どんなにじやましようしゅつと  
しても無理だということが、彼にも分わかっ  
たのでした。

ひ よる きねん まいとし  
その日の夜を記念するために、毎年イ  
スラエル人たちは、過ぎ越しす こ まつの祭りをする  
ようになりました。その祭りは、エジプト  
からの救出きゆうしゅつ以外に、何を思おもい出ださせてく  
れるものでしたか？

こひつじ わたし かみさま あい しんらい  
子羊は、私たちが神様を愛し、信しん頼らいし、  
したがうことを選えらぶならば、いつの日かイ  
エス様が、いじわるで残酷ざんこくなサタンから、  
わたしを永久えいきゆうに自由じゆうにしてくださることを、  
おもおもだだ思いい出いさせてくれるものでした。家の入口  
ほしらほしらにぬられた血ちが、イスラエルの人ひとた  
ちを守まもってくれたように、イエス様は私わたした  
ちを助たすけ、守まもってくださるのです。

こひつじ た かみ こひつじ  
子羊を食べるといのは、神の小羊で  
あられるイエス様の言葉ことば、つまり聖書せいしよの  
みことばから学まなぶということです。みこと  
ばは、私わたしたちの心こころを強つよくして、サタンのう  
そに負まけないようにする霊れいの食たべ物ものである  
と、イエス様は言いわれました。ヨハネ6:  
63。

さま し  
イエス様が死しんでくださったあとは、  
こひつじ ころ ひつよう  
子羊を殺ころしてささげる必要ひつようはなくなりま  
した。ほんものの神の小羊が、ささげら  
れたからです。今日こんにち、教会きょうかいでは、過ぎ越す こ



## まな もっと学ぼう！

★出エジプト記 7 : 1 - 12 : 33

★人類のあけぼの上巻 p. 299-322

★あがないの歴史 p. 142-146

しの祭りではなく、聖さん式というのを  
行っています。聖さん式のブドウジュ  
ースは、イエス様が死ぬときに流された血  
を思い出させてくれます。また聖さん式の  
パンは、イエス様が命のパンであられる  
ことを思い出させてくれます。33節、35  
節。命のパンを食べるといのは、みこと  
ば〔聖書〕を心にたくわえるということです。

**かんが**  
**考えてみよう：**人は、罰を受けたからと  
いって、心から従うようになるでしょうか？  
そうしなければならぬからという理由で、  
私たちが従うようになることを、神様は望  
んでおられるでしょうか？それとも、私た  
ちが心から喜んで従うようになることを、  
望んでおられるでしょうか？



## なくしたメガネ

エイミー・シェラード

フレッドはまだ5才にしかないのに、ずっとメガネをかけていなくてはいけないと言われました。最初はおもしろくなるぞと思いましたが、まもなく、その考えはまちがっていることが分かりました。

「お母さん、ぼくの鼻と耳がとっても痛い」と、不平を言いました。



お母さんが、痛いところに薬をぬってくれました。それからフレッドに、メガネをケースにしまうとき以外は、決してはずしてはいけませんと念をおしました。メガネをこわしたり、なくしたりするかもしれないからです。ところが、フレッドはすぐに忘れてしまうので、お母さんはなんども、メガネをきちんとしまうように注意しなければなりませんでした。

ある朝、お父さんが、「フレッド、お父さんは馬たちにエサをあげるから、お前は牛たちを牧場〔まきば一家畜を放し飼いにする場所〕に連れていってくれないかな」とお願いしました。それは、フレッドがメガネをかけるようになってから、一週間くらいたったころのことでした。

フレッドは、お父さんのお手伝いをするのが何よりも好きでした。小さい杖を手にもって、牛の群れの後ろをゆっくり歩い

ていたフレッドは、なんだか大人になったような気分でした。「やあ、ブロッサム!やあ、デイジー!やあ、みんな!」と、牛たちにむかって大声で呼びかけました。

お母さんが、そんな彼のようすを見ていました。ときどきフレッドは、何度かこしをおろして、サンダルから土ととげをふるい落としていました。

1時間くらいたってから、フレッドは走って家に入ってきて、うれしそうに言いました。「お母さん、もう最高だったよ。鳥の巣を見つけたんだけど、卵が4個も入っていたんだ。とつぜん母鳥がぼくに近づいてきて、けがをしたふりをしながら、ぼくを誘い出そうとしたんだよ。でも、それはぼくを巣から遠ざけるための作戦だろうと分かったので、そのまましばらく探したら、思ったとおり、近くに巣を見つけたの。」

お母さんが尋ねました。「卵はさわらなかったでしょうね?」

フレッドは、「もちろん、さわってないよ」と答えました。「しばらく観察して、ヒナが卵からかえるのを見たいんだ。」

それから、お母さんが心配そうな声で尋ねました。「フレッド、メガネはどこにあるの?」

「ああ、忘れてきてしまった。鼻が痛くなったので、サンダルの土を落とそうとし



ですわったときに、はずしてそばにおいたの。巢のすぐそばにあるはずだから、今すぐとりに行ってくるよ」と言って、かけだ出していきました。

ところが、捜してもさがしても、メガネは見つかりませんでした。お父さんがやってきて、さがすのを手伝ってくれました。しかし、それでもメガネは見つかりませんでした。

午後になって、フレッドが、疲れきったようすで家に入ってきました。「お母さん、牛たちが牧場からもどってくるときに、ぼ



くのメガネを踏んづけてしまうんじゃないかな？」と、心配そうに言いました。

お母さんは、「恐らくそうなるでしょうね」と答えました。

フレッドは、「お母さん、ぼくといっしょに行つて、もういちどさがすのを手伝つて

くれないかな？」と尋ねました。

お母さんとフレッドは、草や木のあいだを、けん命にさがしました。それから、ふたりでひざまずいて祈りました。「イエス様、ぼくにはメガネが必要です。うちは貧しいので、ほかに新しいメガネを買うお金はありません」と、フレッドが祈りました。「どうか、見つけられるように、助けてください。」

お祈りのあと、彼らが祈っていた場所から、ほんの1メートルほど離れたところに、夕日をうけて、キラキラと光っている何かがフレッドの目にとまりました。なんとそれは、ずっとさがしていたメガネではありませんか。すぐに、お母さんに声をかけると、彼女は急いでやってきました。フレッドは、「お祈りしたから、きっとイエス様が助けてくださると思っていたよ」と、目をかがやかせて言いました。それから、ふたりはもう一度ひざまずいて、イエス様に感謝の祈りをささげたのでした。

# だい しょう 第 8 章 じゅう ついに自由に！



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

## あんしょうせいく 暗唱聖句

かれ やす みちび かれ おそ  
「彼らを安らかに導かれたので彼らは恐れることがな  
うみ かれ てき  
かった。しかし海は彼らの敵をのみつくした。」

しへん へん せつ  
詩篇 78 編 53 節

### にちようび 日曜日

ついに、イスラエルの人たちは自由  
の身となりました。もう奴隷では  
ないのです。彼らは、カナンちむの地に向かっ



ていました。ものすごい数かずの人たちでした。  
おそらく、二百万人にひやくまんにんはいたでしょう。

出エジプト記 12 章の 33 節せつを読んでく  
ださい。エジプト人たちは、彼らに、国くにか  
ら出て行ってもらいたいと思おもうほどになっ  
ていました。

イスラエル人たちは奴隷  
であったために、どんなに  
一生懸命いっしょうけんめい働いても、仕事しごとの  
報酬ほうしゅう〔賃金〕をもらったこと  
はありませんでした。そんな  
彼らにモーセは、エジプトを  
出る前に、エジプト人たちか  
ら金や銀や衣服いふくをもらいな  
さいと言いました。35, 36  
節。このようにして長年ながねんの働  
きの報酬ほうしゅうを得たイスラエル人  
たちは、貧乏びんぼうのままではなく、  
あるていどの財産ざいさんをもってエ  
ジプトを出て行きました。

彼らと一緒に、大勢おおぜいのエ  
ジプト人もエジプトを出ること  
にしました。中には、天

の神様を礼拝するようになった人もいました。ただほとんどの人は、災害から逃げたかったか、旅に出るほうがおもしろいと思ったのです。モーセは彼らを、「入り混じった群衆」(出エジプト 12:38) または「寄り集まりびと」(民数記 11:4) と呼びましたが、しばしば彼らが、いろんな騒ぎや問題を引き起こすことになりました。

エジプトを出たイスラエル人たちは、規律も規則もない、ばらばらの集団だったと思いますか? いいえ、違います。覚えていますか? モーセはかつてエジプト軍の指揮官〔偉い人〕でしたので、みんなをきちんとまとめることができました。

**考えてみよう:** 何百年も前、神様はアブラハムに、彼の子孫は外国で苦しい目にあうけれども、多くの財産をもってカナンに戻ってくるであろうと言われました。その通りになったのでしょうか? 神様はまた、彼らが大きな国になるとも言われました。そのようになろうとしていたのでしょうか?

## げつようび 月曜日

いにイスラエル人は、カナンへの旅に出ました。前を見ると、空に何が見えましたか? **出エジプト記 13**



しょう せつ よ  
章 21、22 節 を 読 み  
ま しょう。 神 様 が、  
う つ く く も つ か  
美 しい 雲 を 使 っ て、  
か れ た び み ち び  
彼 ら の 旅 を 導 い て お  
ら れ ま し た。

ひ る ま く も か げ  
昼 間 は、 雲 が 影  
つ く あ つ  
を 作 っ て、 暑 さ か ら  
ま も  
守 っ て く れ ま し た。  
よ る く も  
夜 に な る と、 雲 は  
う つ く ひ ほ し ら か  
美 しい 火 の 柱 に 変  
あ た た ね つ ひ か り  
わ り、 暖 か い 熱 と 光  
あ た  
を 与 え て く れ ま し た。  
ひ る  
す ご い で す ね! 昼 も

よ る か み さ ま  
夜 も、 神 様 が と も に お ら れ た の で す。

じ つ  
実 は、 エジプト で イスラエル 人 た ち が  
す  
住 ん で い た と こ ろ か ら、 カ ナ ン は そ れ ほ ど  
と お  
遠 く な い と こ ろ に あ り ま し た。 し か し、 も し  
い ち ば ン ち か み ち と お  
一 番 近 い 道 を 通 っ て カ ナ ン に 向 か っ た と し  
び と す  
た ら、 ペ リ シ テ 人 が 住 ん で い る と こ ろ を 通  
ら な く て は な り ま せ ン で し た。 ペ リ シ テ 人  
て ん か み さ ま て き  
は 天 の 神 様 の 敵 で あ り、 イ ス ラ エ ル 人 は  
び と お そ  
ペ リ シ テ 人 を 恐 れ て い ま し た。 ま た、 イ ス  
び と か み さ ま し ん ら い  
ラ エ ル 人 は 神 様 に 信 頼 す る と い う こ と を、  
ま な ひ つ よ う  
も っ と も っ と 学 ぶ 必 要 が あ り ま し た。 17 節  
せ つ よ  
と 18 節 を 読 ん で く だ さ い。 雲 が 紅 海 に 向  
か れ み ち び ひ と び と  
か っ て 彼 ら を 導 い て い く と、 人 々 は そ わ そ  
わ し て き ま し た。 モーセ は な ぜ、 私 た ち を  
べ つ み ち つ  
別 の 道 に 連 れ て い く の だ ろ う? モーセ で  
か み さ ま じ ぶ ン み ち び  
は な く、 神 様 が 自 分 た ち を 導 い て お ら れ る  
か れ  
こ と が、 彼 ら に は 分 か り ま せ ン で し た。

じ き に、 紅 海 が 見 え て き ま し た。 南 の ほ  
た か や ま み  
う に は 高 い 山 が 見 え ます。 も し パ ロ の 気  
か か れ お  
が 変 わ っ て、 彼 ら を 追 い か け て き た ら、 ど  
う な っ て し ま う の で し ゃ う? き っ と、 追 い つ

められてしまうことでしょう。

**かんが**  
**考えてみよう:** 天の神様はエジプトの  
かみがみ  
神々よりもはるかに強いことを、すでにイス  
びと  
ラエル人たちは見てきたのではありません  
せんでしたか? 彼らを怖がらせようとしてい  
たのは、誰だっと思えますか?

## かようび 火曜日

**イ** スラエル人たちがエジプトを出た  
あとで、災害はやみました。けれど  
もパロと彼の家族たち、またエジプトの  
さいし  
祭司たちは、相変わらず神様を憎んでい  
ました。さらに彼らは、イスラエル人を去  
らせなければよかったと思うようになった  
のです。

さいし  
祭司や国の偉い人たちが、パロと相談  
を始めました。あの災害は、本当は神様  
からのものではなかったということになり、  
やっぱりイスラエルの神よりは自分たち  
かみがみ  
の神々のほうが強いのだと考えるようにな  
りました。さらに、エジプトで起こったこ  
とを他の国々の人たちが聞いたら、自分  
たちはどう思われるだろうか? そこで彼ら  
は、自分たちの奴隷や金や銀を取り戻す  
ことにしたのです。

イスラエル人の中には戦いに慣れた  
へいたい  
兵隊がいないことを、パロは知っていま  
した。自分の強い軍隊なら、きっと簡単に  
彼らをエジプトに連れ戻すことができる、  
とエジプトの王は考えました。彼はまた  
せんしゃ  
戦車や兵隊、祭司や偶像の神々を引き連  
れて、イスラエル人を連れ戻しに行こうと

おも  
思いました。

そこでパロは、600 台の戦車とたくさん  
の兵隊を集合させ、じきに出発しました。  
パロも一緒に行きました。

パロの軍隊は、イスラエル人たちよりも、  
早く進むことができるでしょうか? 大勢の  
人や動物たちが通った道を追って進むの  
は、簡単だったと思えますか?

イスラエル人たちをあの場所に導かれ  
たのは、神様でした。イスラエル人がエ  
ジプトを出た後でパロが追いかけてくるこ  
とは、すでにモーセに伝えてありました。  
最後にどうなるかということまでも、すべ  
てモーセに伝えてありました。

**かんが**  
**考えてみよう:** サタンがついにあきらめ  
て、神様のご計画のじゃまをするのをやめ  
ることは、決してありません。サタンよりも  
神様が強いことを、あなたは喜んでいま  
すか?

## すいようび 水曜日

**こ** のとき、イスラエルの人たちが  
キャンプをしていた場所は、横の  
ほうに高い山がそびえ、すぐ前のほうに  
は紅海が広がっていました。神様から送  
られた美しい雲は、なおもそこにとどまっ  
ていたのに、彼らはびくびくしていました。  
パロが後ろから追いかけてきたらどうし  
ょう?

とつぜん  
突然、だれかが叫びました。「大変  
だー!」その知らせは、すぐにキャンプ  
中に広まりました。「エジプト人たちが追

いかけてくるぞ。」確かに、遠くのほうから、エジプトの軍隊がこちらに向かってきます。太陽の光にあたって、彼らのよろいかぶとがきらきら光っています。

恐ろしさのあまり、人々はたちまちパニックにおちいりました。神様に祈っている人たちもいます。しかしほとんどの人は、モーセを責め始めたのです。出エジプト記 14 章の 11 節、12 節を読んでください。モーセはどのように答えましたか？ 13 節、14 節。

すぐに、二つのふしぎなことが起こりました。最初に何が起こりましたか？ 19 節、20 節を読んでください。エジプト人たちは、イスラエル人たちを見ることができなくなりました。ところが、雲の反対側では、光がイスラエルの人たちを一晩中、明るく照らしていました。

神様が行われた二つ目の奇跡は何でしたか？ 21 節、22 節。

それは、実に驚くべき奇跡でした。ものすごい風が吹いて、海が二つに分かれたのです。両側には水の高い壁ができて、壁と壁の間には、広い、かわいた道ができあがりました。

人々はすぐに、紅海の向こう岸に向かって歩き始めました。

神様はふたたび、神様にできないことは何もないことを明らかにされたのでした。詩篇 77 : 19、20。

**かんが** 考えてみよう：神様はこれまでも、ご自分におできにならないことは何もないこ



とを、何度も示してこられたのではなかったですか？神様が行われたいくつもの驚くべき奇跡を、人々はどれほどすぐに忘れてしまったことでしょう。

## もくようび 木曜日

パロは心配していませんでした。前のほうには海があり、横には山がそびえ、後ろには彼の軍隊が待ちかまえているので、イスラエル人は追いつめられていることが、彼には分かっていました。

朝になって、エジプト軍のじゃまをしていた雲が引き上げられました。すると、前のほうにいるはずのイスラエル人が、一人もいなくなっているではありませんか。海を見ると、広い、かわいた道が、向こう岸までつながっていました。パロはカンカンに怒りました。

「あとを追え」と命令しました。出エジプト記 14 : 23。愚かな悪い王は、何が

何でもイスラエル人を捕まえてやる、と心に決めました。しかし、イスラエルの人々を自由にすると、神様が約束しておられたのでした。次に、何が起こったのでしょうか？  
**24 節、25 節。**

今度は、だれがパニックにおちいっていますか？ 戦車の車輪が動かなくなったり、はずれたりしています。驚いた馬たちが、後ろ足で立ちあがっています。何もかもうまくいきません。雲は、火の柱に変わりました。雷の音がひびきわたり、稲妻がひらめきわたります。**詩篇 77:17、18。**

今となっては、パロの軍隊の中で、奴隷を捕まえてやろうと考えている人は誰もいません。みんな必死になって、もと来た道に戻ろうとしています。しかし、もう手遅れです。神様は、モーセに何をしなさいと言われましたか？ **出エジプト記 14:26 – 30。**

ついに、敵はいなくなりました。彼らを追いかけてきたパロの軍隊は、いなくなっていました。

イスラエルの人たちをエジプトから出でいかせないために、サタンと悪天使たちは、できるかぎりのことをしました。しかし、彼らの負けです。

**考えてみよう：**パロのがんこな選びのせいで、どれだけの苦しみや問題が引き起こされたのでしょうか？ 彼の国を、10の恐ろしい災害がおそいました。全部の災害を言うことができますか？ サタンに仕えるのは、何と悲しくみじめなことでしょう。

イスラエルの人たちは、無事、紅海の向こう岸にたどり着きました。

あとを追いかけてきたパロの軍隊は、みんなおぼれてしまいました。イスラエルの人たちはとても喜び、感謝しました。彼らは旅を続ける前に、神様に感謝を表すお祝いをしました。

モーセは美しい歌を作りました。彼は人々に、パロと奴隷の身分から自分たちを救い出された神様をたたえる、特別な歌を教えました。**出エジプト記 15章の1節から5節**を読んでください。

イスラエル人は、長い年月の間エジプトにいました。その間に、彼らはエジプトのいろいろな悪いものを見慣れてしまい、それほど悪いと思わなくなっていました。そしていつの間にか、彼らもそういった悪いことをやるようになっていました。彼らの多くが、本当の神様を信じていながら、エジプトの偶像も拝んでいました。

神様のご計画というのは、彼らが他の国々の模範〔見習うべき手本〕となるような、特別の幸福〔しあわせ〕な民となることでした。彼らが神様を愛し、信頼するようになってほしいと、神様は望んでおられました。また神様の律法にしたがうことを、望んでおられました。そうすれば、彼らを祝福することができるからです。そうすれば、他の国々の人たちも、本当の神様を知りたいと思うようになったことでしょう。

<sup>かんが</sup> **考えてみよう**：<sup>わる</sup> 悪いものを見るのは、<sup>み</sup>  
<sup>あんぜん</sup> 安全なことでしょうか？ どうして<sup>あんぜん</sup> 安全ではな  
<sup>かみさま</sup> <sup>し</sup> 神様を知らない人たち、ま  
<sup>かみさま</sup> <sup>あい</sup> <sup>したが</sup> <sup>ひと</sup> たは神様を愛さず従おうともしない人たち  
<sup>した</sup> <sup>まじ</sup> と親しく交わるのは、<sup>あんぜん</sup> 安全なことでしょう  
か？

## <sup>まな</sup> もっと学ぼう！

★<sup>しゅつ</sup> 出エジプト 12 : 34-42, 50,

51 ; 13 : 17 - 15 : 21

★<sup>じんるい</sup> 人類のあけぼの<sup>じょうかん</sup> 上巻 p. 323-334

★あがないの<sup>れきし</sup> 歴史 p. 147-155



## きのなかの 木の中で祈るジョー

エイミー・シェラード

「おじいちゃん、お話をもう一つ聞かせて」と孫たちがせがみます。おじいちゃんは、次のようなお話をしてくれました：

おじいちゃんが8歳のころ、母親が死んでしまっただけで、一人ぼっちになってしまった。でも、ファーマー・ブラウンという親切な人がいて、奥さんもいい人で、その夫婦が子供だったおじいちゃんを引き取り、育ててくれたんだ。

ある朝、食事中に、ファーマー・ブラウンがこう言ったんだ。「ジョー、私たちは今日、市場に行くんだけど、留守の間に、森へ行って、木の上にタカが作った巣をこわしてくれないだろうか。木に登ってから、巣が使えないようめちゃくちゃにするんだ。タカはうちのニワトリを盗んで食べる、危険な鳥だから。」

ブラウン夫婦が大きな自動車で出かけた後、森に行ったんだ。それからいくつかの木に登って、言われたとおり、タカの巣を次から次へとこわしていった。一本だけ、ほかの木よりも大きな古い木があって、てっぺん近くまで登ってみると、大きな枝が折れていた。下を見ると、枝が折れたところに穴があいていたんだ。思ったとおり、その穴の中にタカの巣があった。おじいちゃんは、そこをおりていって、タカ

の巣を足でけてこわしてやろうと思った。ところが思いがけないことに、巣の下は、深いほら穴になっていたんだ。巣をこわしたら、足を置くところがなくなって、おじいちゃんはいきなり、深い穴の中に落っこちてしまった。



とても恐ろしかった。真っ暗な木のほら穴に閉じ込められてしまったのだから。懸命にその穴を登って外へ出ようとしたんだけど、木の内側はつるつるしていて、全然うまくいかなかった。その穴の中で、死んでしまうんじゃないかと思ったよ。外からは、ただの古い木にしか見えぬ、中に人がいることは、誰にも分からないはずだから。

「イエス様、どうか僕を助けてください」と懸命に祈ったよ。

それから、木の横のほうに、小さなすき間があることに気づいたんだ。そのすき間から古い道路が見えたんだけど、あの道を通る人はほとんどいないので、やっぱり誰にも見つけてもらえないのではないかと心配だった。

ところが、しばらくして、一台の荷馬車



がその道<sup>みち</sup>をやってくるのが見えたんだ。  
おじいちゃんがどんなにうれしかったか、  
想像<sup>そうぞう</sup>できるかい？ 馬車<sup>ばしや</sup>が木の近く<sup>きちか</sup>をと  
おったときに、木<sup>き</sup>の中から力<sup>ちから</sup>いっぱい叫<sup>さけ</sup>  
んでみた。

すると、馬車<sup>ばしや</sup>に乗<sup>の</sup>っていた男<sup>おとこ</sup>の人が、  
あたりをきよろきよろ見回<sup>みまわ</sup>し始<sup>はじ</sup>めた。声<sup>こえ</sup>の  
主<sup>ぬし</sup>がどこにいるかは、想像<sup>そうぞう</sup>もつかなか  
ったと思うよ。もちろん、おじいちゃんは叫<sup>さけ</sup>  
び続<sup>つづ</sup>けた。そしたら、男<sup>おとこ</sup>の人は馬車<sup>ばしや</sup>を降<sup>お</sup>  
りて、ゆっくり木<sup>き</sup>のほう<sup>ある</sup>に歩いてきたんだ。

「そこで何<sup>なに</sup>をしているんだ？」と男<sup>おとこ</sup>の人  
が尋<sup>たず</sup>ねたので、おじいちゃんは、どうや  
つて木<sup>き</sup>の中に閉<sup>な</sup>じ込<sup>こ</sup>められたか<sup>はな</sup>を話<sup>はな</sup>した。  
それから、「木<sup>き</sup>に穴<sup>あな</sup>をあけて、僕<sup>ぼく</sup>をここ  
ら出<sup>だ</sup>してください」と頼<sup>たの</sup>んだ。

すぐにその人<sup>ひと</sup>はおの<sup>も</sup>を持ってきて、木<sup>き</sup>

に穴<sup>あな</sup>をあけ、おじいちゃん<sup>たす</sup>を助<sup>たす</sup>け出<sup>だ</sup>してく  
れた。とてもありがたかったよ。

男<sup>おとこ</sup>の人は、ふしぎがっている様子<sup>ようす</sup>で、  
「馬<sup>うま</sup>たちが、どうして向<sup>む</sup>きを変<sup>か</sup>えてこの古<sup>ふる</sup>  
い道<sup>みち</sup>に入<sup>はい</sup>って行<sup>い</sup>ったのか、私<sup>わたし</sup>には分<sup>わ</sup>から  
ないんだ」と言った。「もう何<sup>なんねん</sup>年もこの道<sup>みち</sup>  
を通<sup>とお</sup>ったことはなかつたんだから」とね。

だから、おじいちゃんは、「どうしてだか、  
僕<sup>ぼく</sup>は分<sup>わ</sup>かりますよ」と言<sup>い</sup>ったんだ。「僕<sup>ぼく</sup>が  
イエス様<sup>さま</sup>に、誰<sup>だれ</sup>かをここ<sup>こ</sup>に來<sup>こ</sup>させて、僕<sup>ぼく</sup>  
をここから助<sup>たす</sup>け出<sup>だ</sup>してください、と祈<sup>いの</sup>った  
ので、イエス様<sup>さま</sup>がおじさん<sup>おじ</sup>をここ<sup>こ</sup>に送<sup>おく</sup>っ  
てくださったんですよ。」



# だい しょう 第9章 かみさま やくそく メラでの神様の約束



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

## あんしょうせいく 暗唱聖句

「あなたがたのうち主を恐れ、そのしもべの声に聞き従い、  
暗い中を歩いて光を得なくても、なお主の名を頼み、おの  
れの神にたよる者はだれか」。イザヤ 50 章 10 節

### にちようび 日曜日

ついにイスラエルの人たちは、彼ら  
を奴隷として残酷にあつかった  
パロとエジプトの主人たちから自由  
になったのです。紅海の向こう岸にたどり  
着いたので、もう安心です。まるで夢の  
ようでした。

イスラエルの民をカナンへと導いてい  
た人は誰でしたか？ モーセでしたね。で  
も、彼らを導いていたのは、本当にモー  
セでしたか？ どこを通るかを決めていた  
のはモーセでしたか？ いいえ。彼らを  
導いていたのは、美しい雲でした。そし  
て、雲の中にいたのは？ そう、神様でした。

神様はいつも、ご自分の民を見守って  
おられました。彼らが神様を愛し、神様  
に頼るなら、いつでも彼らとともにいて助  
けると、神様は約束しておられました。

でも、神様のほかに、イスラエルの人  
たちを別のところに誘い出そうとしていた  
者がいましたか？ それは誰でしたか？ そ



う、サタンですね。彼は初めは、イスラ  
エル人たちをエジプトから去らせまいよ  
うにがんばっていましたが、その戦いに敗  
れたのでした。戦いに負けたので、もうサ  
タンはイスラエルの人たちを誘惑するの  
をやめたと思いますか？ いいえ、そんな  
ことはありませんでした。

選べるのは、二つに一つしかありま  
せん。神様かサタンの、どちらかです。

かみさま わたし すく のぞ  
神様は私たちが救いたいと望んでおられます。サタンは私たちが滅ぼしたいと望んでいます。

ヨハネによる福音書 14 章の 6 節を読んでもください。

**考えてみよう:** エデンの園で、サタンがエバに最初のうそをついた時から、彼のうそがやむことはありませんでした。イエス様がもう一度おいでになるまで、サタンは自分のうそを人々に信じ込ませようと、がんばり続けることでしょう。私たちは毎日、また一日のうちに何度も、誰のいうことを聞くかを自分で選ぶのです。神様を選び続けましょう。私たちが本当に愛し、私たちの幸福を望んでおられるのは、神様なのですから。

## げつようび 月曜日

イスラエルの人たちは、神様が与えると約束してくださった地に向かって旅を始めました。約束の地と呼ばれている場所のことです。しかし、そこをかみさまからいただく前に、学ばなくてはならない大切な大切な事がありました。神様は必ず約束を守られる力強いお方であることを、信じる必要がありました。彼らは、信仰によって神様に頼ることを学ぶ必要があったのです。

信仰があれば、心から信頼する〔信じて頼りにする〕ことができます。親しい友だちがいて、その友だちがいつでも約束を守るなら、私たちはその人を信頼する

ようになりますよね。しかし、人は信頼を裏切ることがあります。約束を守らないことがあります。裏切られると、その人を信用しなくなります。その人を信頼できなくなります。

イスラエルの人たちにとって、神様に全く頼ることは、簡単ではありませんでした。なぜですか？ 神様はいつでも約束を守ってこられましたか？ その通りです。神様が信頼や期待を裏切られたことは、一度もありませんでした。神様にとってむしろ過ぎる事は一つもないということを、これまで何度も示してこられました。

人間が罪を犯して以来、サタンはすべての人を誘惑して、神様についてのうそを信じ込ませようとしてきました。けれども神様は、選ぶ力がサタンに奪われないように、私たちを守ってこられました。だからサタンは、私たちに彼のうそを無理やり信じ込ませることはできません。すべては、私たちの選びにかかっているのです。

**考えてみよう:** 神様はイスラエルの人たちを助け、祝福したかったのですが、神様に頼るようになることを望んでおられました。私たちに対しても、同じように望んでおられるでしょうか？

## かようび 火曜日

神様は、いつでも約束を守ってくださいます。しかしサタンは、私たちに神様の力と愛を疑わせようと望み、そのために働いているのです。

イスラエルの人たちにとって、神様に  
全く頼ることを学ぶのは、むずかしいこと  
でしたか？ その通りです。神様が何度も  
愛と力を示してくださったのに、おまけに  
神様の雲がいつでも彼らを導いていたの  
に、彼らは心配ばかりしていて、まだ神様  
を疑っていました。

紅海にたどり着いたとき、彼らは怖くな  
りました。自分たちを導いている雲の中  
には神様がおられ、彼らを奴隷の身から  
自由にすると約束してくださったことを、  
忘れてしまったのです。パロの軍隊が追  
いかけてくるのを見たとき、彼らは恐怖に  
満たされました。

その時、神様があの驚くべき奇跡をお  
こなしてくださり、彼らはパロとその軍隊  
から救われたのでした。その後、彼らは  
どのように感じましたか？ **出エジプト 14:  
31。**

旅を続けて前進する時でした。もちろ  
ん、あの美しい雲は、今でも彼らを導い  
ていました。ようやく彼らは、神様とモー  
セを信じるようになっていました。

三日間、歩き続けました。まわりの  
土地は荒れはて、かわいていました。水  
のたくわえが、だんだん底をついてしまし  
た。みんなのどが渴いてきて、水をさが  
していました。 **出エジプト記 15:22。**

またも彼らは、どちらかを選ぶ分かれ目  
にきていました。神様を信じて頼るでしょ  
うか？ それとも不平を言うのでしょうか？

突然、だれかが叫びました。「水だ！水  
があるぞ！」みんな、いっせいに水のほう  
へ走っていきます。



ところが、その喜びは、長くは続きませ  
んでした。何が問題だったのでしょうか？ **23  
節。** 彼らは、がっかりしてしまいました。  
ようやく水を見つけたと思ったのに！彼ら  
はどうしたのでしょうか？ **24 節。**

**かんがえてみよう：**この時も、美しい雲の中  
にはだれがおられましたか？ 私たちのそば  
にも、いつも誰かがおられますか？ そのお  
方は、いつでも私たちを見ておられ、私  
たちの言うことを聞いておられるのを、私  
たちは忘れることがありますか？ それこそ、  
サタンが望んでいることではないでしょ  
うか？

## すいようび 水曜日

どの渴きは、まだおさまっていま  
せん。ようやく見つけた水は、ひ

どい味でした。神様に信頼するよりも、イスラエルの人たちは、すぐにどういう行動をとりましたか？ **出エジプト 15:24**。モーセはどうしましたか？ **25 節**。

モーセは、助けが必要なときに、誰もがやるべきことをしました。そして再び、神様にとって、むずかし過ぎておできにならないことは何もないことが示されました。

人間も動物も飲みたいだけ水を飲んだ後で、神様はイスラエルの人たちに、もう一つのすばらしい約束を与えてくださいました。どんな約束でしたか？ **26 節**。

神様は私たちに、健康になるための簡単な規則〔決まり〕を与えてくださいました。エジプト人たちの病気は、これらの規則に従っていないことが原因でした。彼らは体に良くないものを食べたり飲んだりしていたから、ひどい病気にかかっていた



たのです。

たばこを吸う人を知っていますか？ お酒やコーヒーやコーラを飲む人を知っていますか？ おかしばかり食べる人、運動しない人、夜更かしをする〔夜おそくまで起きている〕人、また体に悪いことばかりしている人を知っていますか？ たとえ自分の体をいいかげんにあつかっても、神様は私たちを病気から守ってくださるでしょうか？

**かんがえてみよう：健康の法則**〔守らなければならぬ決まり〕をいくつか知っていますか？ いくつかあげてみてください。それらの決まりに従おうと努力していますか？

## もくようび 木曜日

**きょう**日は、神様が与えてくださった健康の法則〔守らなければならぬ決まり〕について、もう少し考えてみましょう。それらの決まりに従うのは簡単ですか？ それともむずかしいですか？ 従うのは大変ですか？

病気になって病院へ行くと、お金がかかります。しかし、健康の法則に従うのに、お金はかかりません。

神様はすでに、イスラエルの人たちが多くの健康の法則に従えるように、手助けをしておられました。彼らは、たくさん日光に当たっていました。いい水が飲めるように、神様は奇跡をおこなってくださいました。

きれいな空気もいっぱいありました。歩

だれにも否定できないくらい素晴らしい、  
 8つのお医者さんがいます。太陽に水、新鮮  
 な空気、運動、そして食事、睡眠、節制、  
 神様に信頼する—これらはみな、あなたに健康を与えてくれます。  
 それは、あなたが知っている、すべての名声や富よりも、  
 はるかに優れているのです。



くのは一番いい運動ですが、彼らはそれ  
 も実行していました。一日中歩いた後は、  
 きっとよく眠れたことでしょう。エジプトに  
 いたころの食事は、あまり健康によくあり  
 ませんでした。なぜなら、エジプト人の  
 悪い習慣をまねていたからです。

節制とはどういう意味でしょうか？ 体に  
 よくないものをとらず、体にいいものをほ  
 どほど [ちょうどよい加減] にとることです。  
 一番大切なのが、神様に信頼する [信  
 じて頼りにする] ことです。イスラエルの  
 人たちには、それが最も必要でしたね。  
 神様はけん命に、彼らに信頼を学ばせよ  
 うとしておられました。

**考えてみよう：** 八つの健康の法則を  
 復習してみましょう。八つとも憶えたか、  
 確かめてみましょう。そして、自分はいく  
 つ従っているか数えてみましょう。

## きんようび 金曜日

イスラエルの人たちが奴隷として  
 残酷に扱われていたころから、ほ  
 んの数日しかたっていませんでした。しか  
 し、その短い間に、どれだけのことが起こっ  
 たでしょう。

エジプトを去るときの彼らは、とてもわ  
 くわくしていました。出発するとすぐに美  
 しい雲が現れて、昼間は影となり、夜は  
 光を放って旅を導いてくれました。

ところが、雲に導かれて紅海までやって  
 くと、彼らはそわそわしてきました。パ  
 口の気が変わって自分たちを追いかけて  
 きたら、どうなってしまおうのだろう？ 両側  
 には山々がそびえ、前方に海が広がって  
 いるところで、後ろからパロの軍隊が追っ  
 てきたら。もう逃げられません。彼らは、  
 エジプトに追いもどされてしまうでしょう。  
 そのようになりましたか？ 神様は、どのよ

うにして彼らをお救いになったでしょう？  
再び、彼らはわくわくしていました。なぜなら、もう二度と、エジプトで奴隷になる心配がなくなったからです。ところが、それからほんの数日後に、彼らは他のことを心配していました。それが何だったか憶えていますか？そして何が起こりましたか？

神様が自分たちを導いておられることと、神様にとっておできにならないことはないことを、彼らは何とすぐに忘れてしまったことでしょう。

メラというところでキャンプしている間に、神様は素晴らしい約束を与えてくださいました。出エジプト15章の26節をもう一度読んでください。

何という素晴らしい、愛の神様でしょう！私たちが、敵であるサタンの魔の手を逃れて、安全で幸福になることを、神様は何よりも望んでおられるのです。そのために、十戒というものを与えてくださいました。また、これらの戒めに従うことができるように助けてくださると、約束なさいました。十戒に従うことを選ぶとき、心配したり恐れたりする必要はなくなるのです。

**考えてみよう：**神様は、ご自分を愛し、信頼し、従うすべての人に、約束なされた地で、早く私たちと一しょに過ごしたいと望んでおられます。神様が約束を必ず守るお方であることを、決して忘れないようにしましょう。そ



の事が分かったら、幸せな気持ちになりま  
すね。

## もっと学ぼう！

- ★出エジプト記 15 ; 22-27
- ★人類のあけぼの上巻 p. 335-339
- ★あがないの歴史 p. 156-157



かみさま はな  
神様にお話しするジェニー

エイミー・シェラード

ジェニーは八歳の女の子で、もっと小さいころから、ずっと安息日学校に行っていました。聖書の詩篇23篇や、他にもたくさん聖句を知っていました。また、他の子供たちと一しょに主の祈りをするのが大好きで



た。けれども、自分で神様に祈る方法は知りませんでした。自由にイエス様にお話ができることを知りませんでした。家族で礼拝をするということも知りませんでした。食事のときに祈ることさえ知りませんでした。

ジェニーのお父さんとお母さんも教会へ行っていました。家庭で朝と夕の礼拝をするのではなく、食事の前に感謝の祈りをささげることもなかったのです。

ジェニーには、アナベルというお友だちがいました。ある日、アナベルのお母さんがジェニーのお母さんに、「ジェニーを一日うちであずかってもいいですか」と尋ねました。娘のジェニーとアナベルがとても仲が良いことを知っていたお母さんは、こころよく承知しました。

ジェニーはお気に入りの人形を持って、アナベルのうちへ遊びに行きました。二人

は時間のたつのも忘れて、とても楽しく過ごしました。あっという間にお昼の時間になり、アナベルのお母さんに「お昼ごはんですよ」と言われたときは、驚いたほどでした。

食事の前に、アナベルのお父さんが、おい

しい食べ物をイエス様に感謝し、祝福を願う祈りをささげました。夕食の時も同じでした。夕食の後で、アナベルのお父さんが、「ジェニーをおうちへ連れていく前に、礼拝をしよう」と言いました。みんなで賛美歌を歌ってから聖書を読み、それからひざまずいて祈りました。アナベルも祈りました。アナベルは、一日中楽しく過ごせたことをイエス様に感謝し、ジェニーとジェニーの家族を祝福してくださいと祈りました。

礼拝の後、アナベルがジェニーに、あとおくにせんきょうしでんどうしゃはたらいた人たちについての本を見せてくれました。「毎日、寝る前に、お母さんが、この本の中から、物語を一つずつ読んでくれるの」とアナベルが言いました。「毎日、寝る時間が待ち遠しいわ」。

その日の夜、自分のへやにもどったジェ



ニーは、なかなか寝つけませんでした。  
「私のお父さんとお母さんも教会へ行き、  
アナベルのお父さんやお母さんと同じくら  
いい人たちなのに、どうしてうちは、ア  
ナベルの家族のようにお祈りをしないのか  
しら？」と考えていました。そして、明日  
になったら、お父さんとお母さんに聞いて  
みることにしました。

次の日の朝、朝ごはんのときに、ジェ  
ニーはお父さんとお母さんに、アナベルと  
いっしょにやった、いろんな楽しいこと  
について話しました。それから、次のように  
言いました。「アナベルのお父さんとお母  
さんは、食事の前にならずお祈りをし、  
毎日、朝と夕方には家族で礼拝をし、夜  
ねる前にはまたお祈りをするのに、どうし  
てうちではやらないの？」

ジェニーのお父さんとお母さんは、たが  
いに顔を見合わせました。それから、お父  
さんが言いました。「ジェニー、お祈りとか  
礼拝とかはとても大切なことなのに、うちで  
はずっとやらなくてごめんよ。お父さんたち  
もイエス様が大好きだけど、私たちの両親  
は、家庭礼拝も、食事のお祈りもやったこ  
とがなかったんだ。あまりよく考えないで、  
ただ自分の親のまねをしていたんだね。で  
も、今日すぐにでも、それを改めて変えて  
いこう」。

アナベルと彼女の家族が、ジェニーに祈  
り方を教えてくれました。ジェニーは、自分  
が教わったことを、お父さんとお母さんに  
話しました。イエス様はあなたにも、イエ  
ス様と交わるすばらしい方法を、他の人々  
に伝えてほしいと望んでおられます。

# だい しょう 第10章

## てん た もの 天からの食べ物



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたが  
たのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満た  
して下さるであろう」。ピリピ人への手紙4章19節

#### にちようび 日曜日

イスラエルの人たちは、紅海を離  
れ、美しい雲に導かれて、カナン  
への旅を続けていました。その雲の中  
には、だれがおられましたか？雲は、彼ら  
を導く以外に、昼間は何をしましたか？  
夜は何をしましたか？神様が、常にいっ  
しよにおられたということですね。

紅海のそばのキャンプ地を離れてから、  
三日進んだころ、イスラエルの人たちは、  
人間にとっても動物にとってもぜひ必要な  
ある物がなくなりました。それは何でした  
か？水でしたね。

彼らが旅していた場所は、モーセが  
何年も羊を飼っていたところでした。彼は、  
雲が彼らをどこへ導くのか、そのことが気  
がかりでした。雲がメラへ向かったのを見  
て、モーセはがっかりしました。なぜでしょ  
うか？

メラに水があることは知っていましたが、  
まずくて飲めないことも分かっていました。

人々が神に信頼し〔信じて頼りにするこ  
と〕、これまでに成された奇跡を思い出す  
ようにと、モーセは強く望みました。

彼らは、そうしたでしょうか？いいえ。  
神様に助けを求めることはしないで、すべ  
てをモーセのせいになりました。まったく愚  
かなことですね。けれどもモーセは、い  
つでもそうしてきたように、助けることの  
できる、ただひとりのお方に助けを求めま  
した。神様は彼に、何をするように言わ  
れましたか？

神様はもう一度、イスラエルの人たちに、  
ご自分を信頼して従うようにと言われまし  
た。そうすれば、彼らを祝福することがで  
きるのです。

**かんが** **考えてみよう：** 神様は今でも、私たちと  
一緒にいて、私たちを助けたいと望んでお  
られますか？ 次の聖句に書かれていること  
を、いつも覚えましょう。ヘブル13:6、8。

## げつようび 月曜日

メ ラの次に、雲はイスラエルの人  
たちをどこへ導きましたか？ 出  
エジプト記 15 章の 27 節を読んでくださ  
い。しばらく休むには、実にふさわしい  
場所でした。ところが数日たつと、また  
雲が動きだしました。彼らは雲について  
行かなければなりませんでした。

間もなく、イスラエル人たちは、自分  
たちが旅している場所には、あまり食べ  
物がないことに気づきました。さらに、  
持っていた食べ物は、どんどん少なくなっ  
ていきました。

まだ食べ物がなくなっていたわけではな  
く、おなかがすいていたわけでもないの  
に、またすぐに心配し、文句を言う悪いく  
せが出てきたのです。どこで食べ物を手  
に入ればいいのか？ 食べる物が見  
つからなかったら、どうしよう？ みんな、  
飢え死にしてしまうのだろうか？ ああ、ど  
うしよう…どうしよう…！

それから彼らは、長年エジプトで楽しん  
でいたあることを思い出し、それをなつか  
しく思っていました。出エジプト 16:2、3。

もう一度、神様に信頼するチャンスが  
与えられました。そしてまたもや、彼らは  
失敗しました。神様は、モーセとアロンに  
何と言われましたか？ 4-8 節。

人々は自分たちにはではなく、神様に向  
かってつぶやいていたのだということ、  
モーセとアロンは彼らに悟らせようとしま  
した。神様は、彼らの心を、すべてお  
見通しでした。



突然、まぶしい光が現れました。人々は、  
その光を見ようとしていました。雲が、太陽の  
ように輝いていたのです。その時、神様  
がモーセに語りかけられました。何と言わ  
れましたか？ 10-12 節。

**かんが**  
**考えてみよう:** おそらく、そこには  
二百万人以上の人たちがいました。そ  
して神様は、みんなに食べ物を与えると  
約束なされたのです。いったいどうやって、  
食べ物を用意しようとしておられたのでし  
うか？

## かようび 火曜日

神様がイスラエルの人たちに与えら  
れた約束を、もういちど読んでく  
ださい。出エジプト 16:12。

イスラエルの人たちの食べ物がなくな  
りかけていたときに、もしあなたが彼ら

と一緒にキャンプをしていたとしたら、どうやって神様は、全員ののために食べ物を用意なさせて、約束を果たすおつもりだろうかと考えたことでしょうか。

夕方になって、突然、たくさんの鳥のはばたく音が聞こえてきます。上を見ると、何千、何万というウズラの大群がこちらに向かってくる。とても低いところを飛んでいたのだから、簡単につかまえることができました。神様が、約束を守られたのです。

次の日はどうでしたか？神様は、空から食べ物を降らせると言われました。しかし、夜の間、食べ物が降ってくるような音は聞こえませんでした。

朝になって、人々はテントの中から外を見ました。何が見えましたか？

お父さんやお母さんが、子供たちに、「こっちへ来て、外を見なさい」と言っている様子が想像できますか？子供たちは、目をこすりながら、「いったい何なの？」



と尋ねていました。こうして、その食べ物は、「マナ」と名づけられました。「マナ」とは、「何だろう」という意味です。出エジプト記16章の15節と31節を読んでください。詩篇78篇の25節では、天使のパンと呼ばれています。

それはとてもおいしく、お母さんたちは、それを使って、いろいろな料理を作ることができました。粉にしたり、煮たり焼いたりすることができました。それぞれの家族の一人ひとりが、どれだけマナをとるべきかは、神様が教えてくださいました。出エジプト記16章の16節から18節を読んでください。

地面に残されたマナは、どうなりましたか？21節。

**考えてみよう：**天使のパンを食べることを、想像してみてください。神様は今でも、私たちに良い食べ物を与えようとしておられますか？私たちが、良い食べ物を楽しむことを、望んでおられますか？健康で丈夫な体を作ってくれる食べ物を、私たちがおいしく食べられるように、お父さんとお母さんはいろいろ工夫し、努力してくれています。私たちも、両親に協力すべきではないでしょうか？

## すいようび 水曜日

体にいい食べ物は、食べてもおいしいと決まっていますか？どうでしょうか？



砂糖とあぶらがたくさん入っているお菓子ばかりを食べている子供たちは、神様が私たちのためにつくられた果物を、おいしくないと感じるがあります。

エジプト人たちの食事の習慣は、あまり良くありませんでした。そのために、多くの方が、死ぬほどの病気にかかっています。サタンが人々を苦しめ、滅ぼそうとしていたことを、彼らは知らなかったのです。

悪い食事の習慣を、良いものに変えることが、人にとって一番むずかしいことを、サタンはよく知っています。あなたは知っていましたか？

私たちが自分の体に良くないことを選ぶとき、神様は悲しまれますが、私たちを無理やり健康の法則〔守らなければならない決まり〕に従わせようとはなさいません。選ぶのは、私たちの自由です。

もしお父さんが、車のガソリントankにソーダを入れたら、きっと車は動かなくなるでしょう。悪い食べ物を選んで口に入ると、私たちの体も調子がおかしくなります。体に合わないものを食べたからといって、それらの良くない食べ物に合うように、神様が私たちの体の仕組みを変えられることはありません。あるいは、それらの食べ物によって引き起こされた問題を、原因を除かずに解決なさることもありません。

かつてイスラエルの人たちは奴隷であり、とても残酷に扱われていましたが、いつでも食べ物は十分にありました。ところが、いつの間にか、彼らはエジプト人のまねをするようになっていました。そしてエジプトを去るころには、多くの悪い習慣が身につについていて、それらの悪習慣を変える必要があったのです。神様は、彼らが健康で幸福になる手助けをしたい、そのために良い選びをしてほしいと望んでおられました。

コリント人への第一の手紙6章の19節と20節を読んでください。自分の体をどのように扱うかで、肉体的にも精神的〔心の面〕にも、大きな違いが生まれることを、多くの方は分かっていません。神様が私たちに語りかけるのは、私たちの考え、すなわち心をつかさどる〔支配する〕、脳を通してなのです。私たちが神様の栄光をあらわすのは、十戒に従うことによってなのです。反対に、私たちが神様の戒めに従わないことを選ぶのを、サタンは望んでいるのです。

**かんが**  
**考えてみよう:** あなたには、**か** 変えるべき  
わる **しよくじ** **しゆうかん** **なに** **おも**  
悪い**食事の習慣**がありますか？ **何か** 思い  
つくことはありますか？ **あなた**が**ただ**正しいこ  
とを**えら**ぶなら、**かみさま**、それを**じっこう**  
**て** **たす**  
手助けをしてくださいます。

## もくようび 木曜日

**イ** スラエルの人たちが、**かみさま** **しんらい**  
して従うようになるまで、かなり  
**じかん**  
時間がかかることを、**かみさま** **ぞんじ**  
神様はご存知でした。  
**かれ** **じぶん** **もんだい** **き**  
彼らがまず、自分たちの問題に気づくこと  
を、**かみさま** **のぞ**  
神様は望んでおられました。

**かみさま** **あた** **い**  
神様が、マナを与えると言われたとき、  
**おぼ** **たいせつ**  
覚えておくべき、ある大切なことについて  
**はな** **しゆつ** **き** **しやう**  
も話されました。**出エジプト記 16 章の**  
**16 せつ** **26 せつ**  
**16 節から 26 節**を読んでください。

**かれ** **あつ**  
彼らはいつ、マナを集めることになって  
いましたか？ どれくらい**あつ**集めるべきでした  
か？ 一人ひとりに**じゆうぶん**十分なだけの量がありま  
したか？

**つぎ** **ひ**  
次の日までマナをとっておいたら、どう  
なると、**かみさま** **い**  
神様は言われましたか？

**しゆう** **むいかめ** **かみさま**  
週の六日目には、どうしなさいと、神様  
は言われましたか？ その日に**あつ**集めたマナ  
も、次の日には**くさ**腐ってしまいましたか？

マナは、**あんそくにち** **ふ**  
安息日にも降りましたか？ なぜ  
**ふ**  
降らなかったのですか？

**びと** **さいぜん** **た** **もの** **あた**  
イスラエル人に**最善**の**食べ物**を与えて、  
わる **しよくじ** **しゆうかん** **か** **てだす**  
悪い**食事の習慣**を**変**える手助けをしたこと  
に加えて、**あんそくにち** **まも**  
安息日を**きよく**守ることは、  
**その** **いまし**  
エデンの園で**アダム**と**エバ**にその**戒め**が

**あた** **おな** **たいせつ**  
与えられたときと同じくらい**大切**であるこ  
とを、**かれ** **おぼ** **かみさま** **のぞ**  
彼らに**覚**えてほしいと、**かみさま** **のぞ**  
神様は望ま  
れました。

**かみさま** **まいしゆう** **じぶん** **たみ** **あんそくび**  
神様は毎週、ご自分の民に、**安息日**を  
**まも** **おぼ** **きせき**  
きよく守ることを**覚**えさせるために、**奇跡**  
をおこなわれたのでした。

**かんが**  
**考えてみよう:** **あんそくにち** **いま** **たいせつ**  
**安**息日は、**今**でも**大切**で  
**すか？** **もちろん**、**大切**ですね。**かみさま** **い**  
神様の**言**  
**わ**れるとおりに、**あんそくにち** **まも**  
**安**息日を**きよく**守らない  
**ひと** **おほ** **しゆくふく** **う**  
人は、**大きな祝福**を受けそなっています。  
**かみさま** **たいせつ** **いまし**  
**おまけ**に、**神様**の**いちばん大切**な**戒め**を  
**やぶ**  
破っているのです。

## きんようび 金曜日

**きよ** **う** **かんが**  
**今**日は、いろいろなことを**かんが**えてみ  
ましょう。

**けんこう** **ほうそく** **まも** **き**  
健康の**法則** [守らなければならない**決**  
**まり**]を**あ**ててくださったのは、**かみさま**  
神様でした。  
**ほうそく** **したが** **けんこう**  
これらの**法則**に従うならば、**健康**になり、  
**ちじよう** **こうふく** **い**  
この地上で**幸福**に生きることができるので  
す。しかし神様は、**かみさま** **わたし**  
私たちのために、**けいかく**  
もっと**すばらしい**ことを**けいかく**計画しておられます。  
**ふくいんしよ** **しやう** **せつ** **よ**  
**ヨハネ**による**福音書 6 章の 51 節**を読んで  
ください。

**さま**  
イエス様は、どのような**パン**であると  
**い**  
言っておられますか？ **い** **き**  
生きた**パン**であると、  
**い**  
言っておられますね。マナのように、  
**さま** **てん** **せかい** **こ**  
イエス様も、**天**からこの**世界**において来ら  
れました。**わたし** **すく**  
私**たち**を**サタン**から**救**うために、  
**えいえん** **つづ** **いのち** **あた**  
また**永遠**に**続**く**命**を**与**えるために、**おい**  
**で**になったのでした。**わたし**  
私**たち**は**ただ**、**イエス**様を**あい**し、**かれ** **しんらい** **したが** **えら**  
彼を**信**頼し、**従**うことを**選**

べばよいのです。

私たちはどうやって、その  
生きたパンを食べるのでしょ  
う？ イエス様について学ぶ  
ことによって、それを食べる

のです。では、どうやって、イエス様につ  
いて学ぶのでしょうか？ 神様の言葉である、  
聖書を勉強することによって学ぶのです。  
また、毎日祈ることによって、イエス様に  
助けをお願いすることができます。

**35 節**でイエス様は、ご自分が命のパン  
であると言われました。神様の律法  
〔命令、おきて〕や、生命の法則に従わ  
なくても、幸福に生きることができると  
思っている人たちは、サタンのうそにだま  
されているのです。そのような人たちは、  
決して幸せで、満たされた人生を送ること  
はできません。サタンが勧める食事をす  
ればするほど、また、幸福になれると彼  
が言っている生活を続ければつづけるほ  
ど、体はますます不健康になり、心はど  
んどん不幸になっていきます。

だから、私たちに、生きたパンが  
必要なのです。私たちは毎日、そのパン  
を食べる必要があります。朝、日が昇る  
とすぐに、マナをとらなくてははいけません  
でした。日が高くなって暑くなると、マナ  
はとけて、なくなってしまいました。その  
ように、命のパンも、朝起きて、忙しい  
一日が始まる前に、食べる必要がありま  
す。**出エジプト記 16:21**。金曜日には、  
安息日の前に、すべての仕事をすませて  
おくべきです。そうすれば、安息日の間じゅ  
う、他の日にやることをあれこれ考えるこ



となく、安息日という特別なマナを喜んで  
いただくことができるよう  
になります。

今すぐ、イエス様に  
お願いして、本当に幸せ  
な生き方を選ぶことができるように、助け  
ていただきましょう。この地上でそのよう  
な生き方ができれば、じきに天国で、イ  
エス様と永遠にくらすことができるように  
なります。

## まな もっと学ぼう！

★**出エジプト記 16章**

★**人類のあけぼの上巻 p. 336-344**

★**あがないの歴史 p. 156-162**



# ジェレミーのラバたち—パート 1

イヴォンヌ・ダースト

ジェレミーは農夫でした。今から百年以上も昔の人です。そのころは、テレビもラジオも、洗濯機も、電気の明かりもない時代でした。今あるもので、その頃なかったものは、他にもたくさんありました。自動車を持っている人は、ほとんどいませんでした。また持っていたとしても、昔の自動車は、今のものとはだいぶ違っていました。どちらかと言えば、高級な、馬なしで走る馬車のような乗り物でした。多くの人、自動車を見たこともなく、それを持っているのは、大金持ちの人たちだけでした。

ジェレミーは貧乏でしたが、決して不平は言いませんでした。彼は優しい夫であり、父親でした。彼と奥さんと子供たちは、イエス様を愛し、イエス様に信頼していました。雨が十分に降らなくても、嵐がやってきて、畑の小麦やトウモロコシがやられても、家族と家畜が生きるのに必要なだけの作物が育ち、冬場を乗り切るだけの食べ物が与えられていることを感謝しました。

ジェレミーは、いつでも動物たちをか

わいがりました。決してたたいたり、こき使ったりするようなことはありませんでした。いつでも十分にえさを与え、冬の間は、

こごえたりしないように気を配りました。特に、二頭の年をとったラバには感謝していました。長年の間、ずっと忠実に働いてくれたからです。



ラバを飼っていたので、農夫のジェレミーは、畑を耕し、そこでとれた作物を町に運んでいって売ることができました。そして、もうけたお金で、家族のためにいろいろな食べ物を買うことができました。ラバたちは、ペットとしても喜ばれていました。子供たちを背中に乗せて、大いに楽しませてくれたのです。家族の人たちは皆、安息日に教会へ行くのを、とても楽しみにしていました。けれども、教会からかなり離れたところに住んでいて、ラバたちも年をとっていたので、教会へ行くのは月に二回だけでした。

それから、とても悲しいことが起こりました。ラバが二頭とも重い病気にかかって、死んでしまったのです。大事なラバが二頭ともいなくなって、ジェレミーは途方に暮れてしまいました。ラバがいなくて



は、畑を耕すことができません。農作物を育てることができなくなったら、それを売って、お金をもうけることもできません。お金がなければ、家族を養うために必要なものを買うこともできません。さらに、荷馬車を引いてくれるラバがないので、馬車に乗って教会へ行くこともできなくなりました。歩いて行くには、町は遠すぎました。

それでも、ジェレミーと家族の人たちは、イエス様に信頼していたので、熱心にお祈りしました。「イエス様、忠実な二頭のラバが、死んでしまいました。ラバがいなくなった今、どうやって生活していけばいいのかわかりません。ラバを買うお金もありません。どうか、私たちを助けてください。また、どうすればよいか教えてください。アーメン」。

家族のみんなでお祈っている間、ジェレミーは、次の日に、町で特別な市場が開かれることを思い出しました。そのことを奥さんに話した後で、二人とも、その市場に行くべきだと感じました。でも、売るための物は何も持っていないし、何かを買うお金もありませんでした。

「行っても、むだ足になりそうだね」とジェレミーが言いました。「おまけに、柵とニワトリ小屋の修理をしなければいけないし、農場でやる仕事は、ほかにいくらでもあるから」。ところが結局、市場へ行くことにしたのです。

つづ  
(続く)

# だいしょう 第11章 いわみず 岩から水が！



## あんしょうせいく 暗唱聖句

「そのパンは与えられ、その水は絶えることがない。」

イザヤ 33章 16節

### にちようび 日曜日

先週は、神様がマナを降らせられたところを学びましたが、今週も、神様にとって、ご自分の民をやしなうのは何でもないことを教えるために行われた、もう一つの奇跡について学びましょう。神様は、おいしい「天使のパン」をくださいました。モーセはアロンに、何をするように言いましたか？ **出エジプト 16:32、**



33.

1 オメルは、だいたい 11 カップ (2.2 リットル) でした。聖所が建てられた後で、このマナは、そこに保存されることになりました。それは腐ることなく、神様の力と愛をいつでも思い出させるものとなりました。

次に、**35 節**を読んでください。イスラエル人がカナンの地に入るまで、四十年もかかったということでしょうか？ なぜでしょうか？ そのことについては、後で学びます。

イスラエルの人たちが次にキャンプをしたところは、レピデムと呼ばれていました。そこはオアシス [砂漠の中で、水がわき、木がはえているところ] で、旅人たちは、そこで水を得ることができました。ところが、来てみると、どうでしたか？ **出エジプト 17:1。**

ここに来る前、十分な水がなかったときに、何が起こったか憶えていますか？ 人々は、あれから変わったと思いますか？ **2 節**を読んでください。

何か、前にも似たようなことがありましたよね？でも、さらに悪くなっています。この時には、人々はカンカンに怒っていて、モーセを殺そうとまでしていました。4節を読んでください。

**かんが**  
**考えてみよう:**すべてがうまくいっているときに、神様に信頼〔信じて頼りにすること〕しているというのは、簡単ですよ。本当に神様に信頼しているかどうかを知ることができるのは、私たちにはどうにもならない何か起きるときだけです。これまでのところ、そのようなことが起こるたびに、つまりテストを受けるたびに、イスラエル人は、落第〔試験に落ちる〕点ばかりとってきました。神様は、あなたをテストされるとしたらどうですか？神様に、信頼し続けますか？神様は、それを望んでおられるのです。「たとえ何が起こっても、また死ぬことになっても、私はあなたに信頼することを选びます」と言ってほしいのです。

## げつようび 月曜日

**こま**  
**困**ったことが起きるたびに、モーセは神様に相談しました。イスラエルの人たちが水を必要としていたこの時、神様は、何をしようと言われましたか？**出エジプト17:5、6。**

モーセと長老たちがどこに行こうとしていたのか、人々はふしぎに思っていたことでしょう。彼らはキャンプを離れて、ホレブに向かっていたのですが、何が起ころうとしていましたか？モーセとアロンと長老た



ちの前の岩の上にあった、あざやかな雲の中には、だれがおられましたか？もういちど、6節を読んでください。

彼らが岩のところに来ると、モーセは神様に言われたとおりに、羊飼いの杖をとって、その岩を打ちました。たちまち水がほとばしり〔いきおいよく流れ出ること〕、川のように流れ落ちました。**詩篇78篇の15節と16節**を読んでください。

人々がどうしたか、想像できますか？きっと、「水だ！水が出たぞ！」と叫んだことでしょう。そして、いっせいに流れのところへ走っていき、思う存分、水を飲んだことでしょう。のどが渇いている人は、誰もいなくなりました。

神様にとって、不可能〔できないこと〕は何もないことを、イスラエルの人たちは思い知ったはず。これからは、どんなことがあろうと、神様に信頼し続けることでしょう。本当にそうでしたか？

かんが 考<sup>かんが</sup>えてみよう：しんげん しょう せつ せつ 箴言3章の5節と6節を  
よ 読んでください。いいせいこうだと思<sup>おも</sup>う人は、  
おぼ ぜひ憶<sup>おぼ</sup>えてみてください。

## かようび 火曜日

アマレクは、ヤコブの双子の兄弟であつた、エサウの孫でした。そして彼こそが、乱暴で残酷なアマレク人の祖先でありました。

アマレク人たちは、イスラエル人がエジプトで奴隷になっていたことを知っていました。彼らは、イスラエル人が紅海をわたった話や、神様が行われた、さまざまな奇跡について聞いていました。イスラエル人に逃げられたと言って、彼らは、エジプト人をばかにしました。自分たちの神々は、エジプトの神々よりも強力で、イスラエルの神よりもすばらしい奇跡をおこなうことができると、うぬぼれていました。

イスラエル人がシナイに向かって移動を始めたとき、アマレク人らは、イスラエルに戦争をしかける絶好の機会〔チャンス〕だと思<sup>おも</sup>いました。自分たちの家畜の群れに草を食べさせていた牧草地を、イスラエルの家畜の群れと分け合うのは、どうしてもいやだったのです。

イスラエル人の中には、疲れていたり、具合が悪かったりして、他の人たちよりも、ゆっくりしか進めない人たちがいました。アマレク人の兵隊が、そのような人たちを攻撃するのは、簡単なことでした。神様と指導者のモーセに対するイスラエル人の

たちの態度は、神様を喜ばせるものではなかったことが示されました。

アマレク人がおそって来たという知らせは、すぐにキャンプ中に広まりました。しかし、イスラエル人には、軍隊がありません。アマレク人と、どうやって戦えばよいのでしょうか？ 神様に文句や不平ばかり言ったために、自分たちは罰を受けているのだと思<sup>おも</sup>った人も、多くいました。

かんが 考<sup>かんが</sup>えてみよう：イスラエルの人たちは、神様が自分たちのめんどろを見てくださり、食べ物も飲み物も与えてくださることを信じて、神様を頼<sup>たの</sup>ってきましたか？ 彼らが行こうとしていた土地には、やっつけなくてはいけない敵がたくさんいました。神様に信頼していなければ、どうにもならないことを彼らに分かつてほしいと、神様は望んでおられました。

## すいようび 水曜日

モーセの忠実で勇敢な部下のひとり、ヨシュアという人がいました。何が起<sup>お</sup>こっているかを知ったモーセは、ヨシュアに何をするように言<sup>い</sup>いましたか？  
出エジプト17：9。

次の日の朝、モーセとアロン、そしてもう一人の忠実な部下であるホルは、丘の頂上に登りました。ヨシュアとその部下たちも、アマレク人の兵士らも、谷間にいました。戦いが始<sup>は</sup>まると、とてもびっくりするようなことが起こりました。11節をよんでください。



モーセは、両手をあげて祈っていました。神様が助けてくださらなければ、イスラエル人に勝ち目はないことを、彼はよく知っていました。彼らには、神様の助けがいつも必要だったのです。そこで彼は、戦いの間、ずっと祈ることにしました。

ところが、モーセは私たちと同じような人間だったので、だんだん手が疲れてきました。アロンとホルは、モーセの手が下がるように、何をしましたか？ **12 節。**

一日中、アロンとホルは、モーセのそばに立っていました。日が沈むころには、戦いはどうなっていましたか？ **13 節。**

神様はモーセに、その日に起こったことを書きしるしなさいと言われました。その日の出来事を、みんなに憶えてほしいと望まれたのです。

**考えてみよう：**ヨシュアの兵士らがアマレク人と戦ったときと同じように、今でも祈

りには力がありますか？ 私たちが、毎日、戦わなくてはいけない敵は誰ですか？ モーセのように、一日中両手をあげて祈る必要はありませんが、サタンが私たちを誘惑するとき、心の中で神様とお話することができますか？ ヨシュアの兵士らは、神様の助けがなければ、アマレク人に勝つことはできませんでした。そのように私たちも、神様に助けていただかなければ、サタンとの戦いに勝つことはできません。神様という力強い助け主がおられることを、あなたはうれしく思いますか？

## もくようび 木曜日

イスラエルの人たちは、モーセが四十年間、羊飼いをしながら住んでいた地に来ていました。彼は、エジプトを逃げ出した後、神様はもう、イスラエル人を奴隷から救い出す仕事を、自分に任せることはないだろうと思いました。けれども今、彼はイスラエルの指導者になっていました。それは、簡単な仕事ではありませんでした。

長年、羊の世話をしながら過ごすことによって、モーセはたくさんのお話を学びました。そして、忍耐〔がまん〕強く、温和〔優しくおだやか〕な人になっていました。イスラエルの人たちを率いる〔引き連れていく、指揮する〕には、特に、忍耐が大いに必要でしたね。彼はまた、神様のすばらしさについても、学ぶ必要がありました。

モーセが、長年住み慣れた、義理の父

〔奥さんのお父さん〕であるエテロの家を出発し、エジプトに向かったとき、妻のチッポラと二人の息子たちも一緒でした。しかしエジプトへ行ったら、苦労ばかりかけてしまうだろうと考えたので、家族をエテロのもとへ送り返しました。もちろん、家族が一緒にいなくて、とてもさびしかったことでしょう。

モーセとイスラエルの人たちは、エテロの家から、それほど遠くないところに来ていました。奥さんのチッポラと息子たちに、とても会いたかったことでしょう。けれども、それはできませんでした。やらなくてはならないことが、あまりにも多かったからです。ところが、ある日のこと、すばらしいことが起こります。どのようなことが、起こりましたか？モーセは、どうしましたか？ **出エジプト 18：6-9**。

ついにモーセは、いとしい家族に会うことができました。彼がどれだけうれしかったか、想像できますか？

**かんがえてみよう：**この時、モーセは何歳になっていましたか？最初にエジプトを去ったとき、彼は四十歳でした。それから四十年間、エテロのもとで暮らしました。ですから、もう若くはなかったのですね。たとえ何歳になっていても、神様は私たちをお使いになることができるのです。

### きんようび 金曜日

**エ**テロは、とても賢い人でした。モーセをたずねてすぐに、彼はあるこ

とに気づきました。ぜひとも、改革〔これまでのものを改めて、よりよいものにする〕が必要であると考えたのです。

人々は、長い行列を作ってモーセのもとに押し寄せ、自分たちの問題を彼に相談していました。そのために、モーセは朝から晩まで忙しかったのです。 **出エジプト記 18章の13節から18節**を読んでもください。

モーセは、賢くて能力のある他の人たちと、仕事を分担する〔分けて受け持つ〕必要がありました。

エテロはモーセに、もっと整理整頓をすべきであると説明しました。そうすれば、もっと少数の、本当に重要な問題をかかえている人の相談に乗るだけですむようになります。

ある指導者たちは、とてもいばっていて、他の人から指図されることをいやがりません。モーセはどうでしたか？ **24-26節**。

モーセが他の人たちと仕事を分担する



ようになってから、すべてがもっとよくなりました。彼は、義理のお父さんであるエテロに、とても感謝しました。

モーセは、エテロがずっと一緒にいてくれることを望んだはずですが、エテロは、自分の家に帰ることにしました。27節。

**かんが** **考えてみよう**：人は大きくなるにつれて、たとえ自分は指導者〔リーダー〕に向いていたとしても、「チームワーク」を学ぶ必要があります。指導者に向いている人いれば、指導者を支えるのに向いている人もいます。しかし、すべての人が、他の人たちと協力して働くことを学ぶ必要があります。それを練習するのに、もっともよい場所はどこですか？あなたが今いる場所、つまり家庭や学校こそが、もっとも適した場所なのです。

## もっと学ぼう！

★出エジプト記 17章、18章

★人類のあけぼの上巻 p. 345-351

★あがないの歴史 p. 162-168



## ジェレミーのラバたち—パート 2

イヴォンヌ・ダースト

ジェレミーは貧乏でしたが、二頭の忠実なラバを飼っていたので、家族と動物たちに十分食べさせるだけのお金をかせぐことができました。ところが、ラバが二頭とも死んでしまったのです。ある晩、ジェレミーと家族の人たちは、そのことについて祈っていました。お祈りの後で、次の日に町で開かれる、大きな市場に行くべきだと感じました。しかし、市場で何かを買うお金もないし、売る物もありません。

その日の夜は、雨がたくさん降りましたが、ジェレミーは日の出とともに起き、ぬかるんだ道を何キロも歩いて町に行きました。市場では、馬や牛、ブタやニワトリ、トウモロコシや麦、さらにはピアノまで、ありとあらゆる物が売られていました。

ジェレミーは、お金を持っていないので、何も買うことができません。たくさんの知り合いには会い、市場を見まわした後で、そろそろ家に帰ることにしました。家はかなり遠いので、暗くなる前にうちへ戻るには、早めに歩き始めなくてはなりません。どうしてイエス様は、自分をこの



市場へと導かれたのか、彼にはまだ理解できませんでした。

町を出たあたりで、一台の荷馬車が自分のところに向かってるのが見えました。二頭の大きなラバが、その馬車をひいていました。荷馬車の後ろには、さらに二頭の大きなラバがつながれていて、後ろを歩かされていました。御者〔馬をあやつり、馬車を走らせる人〕が馬車を止めて、話しかけてきました。

「やあ、ジェレミー」。その人は、サムという、昔からの友だちでした。

「やあ、サムかい。元気かね？ 家族のみんなはどうしてる？」ジェレミーとサムは、ずいぶん久しぶりに会ったのでした。しばらく話をしてから、サムが言いました。「今から市場へ行って、馬車の後ろにつないでいる、二頭のラバを売ろうとおもっているんだ。本当は売りたいくないんだ



けど、今年<sup>ことし</sup>は雨<sup>あめ</sup>が少<sup>すく</sup>なかつた<sup>な</sup>だろ？ しか  
も、夏<sup>なつ</sup>の大<sup>おお</sup>風<sup>かぜ</sup>で、畑<sup>はたけ</sup>がや<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>  
た<sup>た</sup>ので、冬<sup>ふゆ</sup>の間<sup>あいだ</sup>、四<sup>よん</sup>頭<sup>とう</sup>のラバ<sup>らば</sup>を養<sup>やしな</sup>え<sup>え</sup>そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>  
に<sup>に</sup>ない<sup>い</sup>んだ。実<sup>じつ</sup>は、い<sup>い</sup>じ<sup>じ</sup>わ<sup>わ</sup>る<sup>る</sup>で、乱<sup>らん</sup>暴<sup>ぼう</sup>な<sup>な</sup>人<sup>ひと</sup>  
がラバ<sup>らば</sup>たち<sup>ち</sup>を買<sup>か</sup>わ<sup>わ</sup>ない<sup>い</sup>か、と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>心<sup>しん</sup>配<sup>ぱい</sup>し<sup>し</sup>  
て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る。む<sup>む</sup>ち<sup>ち</sup>で<sup>で</sup>打<sup>う</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>れ</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>、ち<sup>ち</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>え<sup>え</sup>さ<sup>さ</sup>  
を<sup>を</sup>も<sup>も</sup>ら<sup>ら</sup>え<sup>え</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>たら<sup>ら</sup>、か<sup>か</sup>わ<sup>わ</sup>い<sup>い</sup>そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>  
だ<sup>だ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ね。で<sup>で</sup>も、売<sup>う</sup>る<sup>る</sup>し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>ない<sup>い</sup>ので、親<sup>しん</sup>切<sup>せつ</sup>  
な<sup>な</sup>人<sup>ひと</sup>が<sup>か</sup>買<sup>か</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>祈<sup>いの</sup>る<sup>る</sup>し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>ない<sup>い</sup>」。

サムは、さ<sup>さ</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>で<sup>で</sup>した。そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>、  
「ジェ<sup>じ</sup>レ<sup>れ</sup>ミー<sup>ー</sup>、ど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>君<sup>きみ</sup>は<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>歩<sup>ある</sup>  
い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>い<sup>い</sup>？ 君<sup>きみ</sup>の<sup>に</sup>ラ<sup>ら</sup>バ<sup>ば</sup>と<sup>と</sup>荷<sup>に</sup>馬<sup>ば</sup>車<sup>しゃ</sup>は<sup>い</sup>ど<sup>ど</sup>こ<sup>こ</sup>  
へ<sup>へ</sup>行<sup>い</sup>っ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>だ<sup>だ</sup>？」と<sup>と</sup>尋<sup>たず</sup>ね<sup>ね</sup>ま<sup>ま</sup>した。

ジェ<sup>じ</sup>レ<sup>れ</sup>ミー<sup>ー</sup>は、ラ<sup>ら</sup>バ<sup>ば</sup>たち<sup>ち</sup>が<sup>し</sup>死<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>  
つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>、市<sup>いち</sup>場<sup>ば</sup>を<sup>み</sup>見<sup>み</sup>に<sup>い</sup>っ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>帰<sup>かえ</sup>り<sup>り</sup>道<sup>みち</sup>で<sup>で</sup>あ<sup>あ</sup>  
る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>話<sup>はな</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>した。

さ<sup>さ</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>な<sup>な</sup>サ<sup>さ</sup>ム<sup>む</sup>の<sup>か</sup>顔<sup>お</sup>が、笑<sup>えが</sup>顔<sup>お</sup>に<sup>か</sup>変<sup>か</sup>  
わ<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>した。「ジェ<sup>じ</sup>レ<sup>れ</sup>ミー<sup>ー</sup>、僕<sup>ぼく</sup>は、君<sup>きみ</sup>の<sup>お</sup>父<sup>とう</sup>  
さ<sup>さ</sup>ん<sup>ん</sup>が、動<sup>どう</sup>物<sup>ぶつ</sup>を<sup>と</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>か<sup>か</sup>わ<sup>わ</sup>い<sup>い</sup>が<sup>が</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>だ<sup>だ</sup>つ<sup>つ</sup>  
た<sup>た</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>よ<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>憶<sup>おぼ</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る。君<sup>きみ</sup>も、お<sup>お</sup>父<sup>とう</sup>さ<sup>さ</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>よ</sup>  
う<sup>う</sup>な<sup>な</sup>人<sup>ひと</sup>で<sup>で</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>知<sup>し</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る。ぼ<sup>ぼ</sup>く<sup>く</sup>の<sup>ラ</sup>  
バ<sup>ば</sup>たち<sup>ち</sup>を、君<sup>きみ</sup>が<sup>か</sup>買<sup>か</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>ない<sup>い</sup>か？」

ジェ<sup>じ</sup>レ<sup>れ</sup>ミー<sup>ー</sup>は、「分<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た。ぼ<sup>ぼ</sup>く<sup>く</sup>が<sup>か</sup>買<sup>か</sup>  
う<sup>う</sup>よ」と、ど<sup>ど</sup>れ<sup>れ</sup>だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>言<sup>い</sup>いた<sup>た</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>で<sup>で</sup>し<sup>し</sup>ょう。  
で<sup>で</sup>も、「サ<sup>さ</sup>ム<sup>む</sup>、買<sup>か</sup>い<sup>い</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>だ<sup>だ</sup>が、  
払<sup>はら</sup>う<sup>う</sup>お<sup>お</sup>金<sup>かね</sup>が<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>く<sup>く</sup>ない<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>よ」と<sup>い</sup>う<sup>う</sup>し<sup>し</sup>  
か<sup>か</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>した。

「別<sup>べつ</sup>に、今<sup>いま</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>え<sup>え</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>言<sup>い</sup>わ<sup>わ</sup>ない<sup>い</sup>さ。来<sup>らい</sup>年<sup>ねん</sup>  
の<sup>な</sup>夏<sup>なつ</sup>に、払<sup>はら</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>だ。一<sup>いっ</sup>頭<sup>とう</sup>、  
五<sup>ご</sup>ド<sup>ドル</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>ど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>だ<sup>だ</sup>ね？」と、サ<sup>さ</sup>ム<sup>む</sup>が<sup>い</sup>言<sup>い</sup>っ<sup>つ</sup>  
て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>した。「く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>も、く<sup>く</sup>つ<sup>つ</sup>わ〔口<sup>くち</sup>に<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>  
る<sup>る</sup>金<sup>かな</sup>具<sup>ぐ</sup>〕も、手<sup>たづ</sup>綱<sup>な</sup>〔く<sup>く</sup>つ<sup>つ</sup>わ<sup>わ</sup>の<sup>さ</sup>左<sup>さ</sup>右<sup>ゆう</sup>に<sup>む</sup>結<sup>むす</sup>  
つ<sup>つ</sup>け、馬<sup>うま</sup>な<sup>な</sup>ど<sup>ど</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>や<sup>や</sup>つ<sup>つ</sup>る<sup>る</sup>ロ<sup>ろ</sup>ー<sup>いっ</sup>プ〕も<sup>いっ</sup>し<sup>し</sup>ょ<sup>よ</sup>  
に<sup>に</sup>つ<sup>つ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>ら」。

サ<sup>さ</sup>ム<sup>む</sup>は<sup>ば</sup>馬<sup>ば</sup>車<sup>しゃ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>び<sup>び</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>て、ラ<sup>ら</sup>バ<sup>ば</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>つな</sup>  
綱<sup>な</sup>を<sup>を</sup>ほ<sup>ほ</sup>ど<sup>ど</sup>き、そ<sup>そ</sup>の<sup>つな</sup>綱<sup>な</sup>を<sup>を</sup>ジェ<sup>じ</sup>レ<sup>れ</sup>ミー<sup>ー</sup>に<sup>て</sup>手<sup>た</sup>渡<sup>わた</sup>  
し<sup>し</sup>て、「こ<sup>こ</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>は、丈<sup>じょう</sup>夫<sup>ぶ</sup>で<sup>で</sup>お<sup>お</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>しい<sup>い</sup>ぞ」  
と<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た。「頼<sup>たの</sup>む<sup>む</sup>か<sup>か</sup>ら、連<sup>つ</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>っ<sup>つ</sup>  
て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ。君<sup>きみ</sup>が<sup>か</sup>飼<sup>ぬ</sup>い<sup>い</sup>主<sup>しゅ</sup>なら、ぼ<sup>ぼ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>安<sup>あん</sup>心<sup>しん</sup>だ<sup>だ</sup>か<sup>か</sup>  
ら」。

ジェ<sup>じ</sup>レ<sup>れ</sup>ミー<sup>ー</sup>は、イ<sup>い</sup>エ<sup>え</sup>ス<sup>す</sup>様<sup>さま</sup>が<sup>じ</sup>自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>を<sup>ま</sup>町<sup>まち</sup>に<sup>こ</sup>  
来<sup>こ</sup>さ<sup>さ</sup>せ<sup>せ</sup>た<sup>た</sup>わ<sup>わ</sup>け<sup>け</sup>が、よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>や<sup>や</sup>く<sup>く</sup>分<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た。  
彼<sup>かれ</sup>は<sup>い</sup>一<sup>いち</sup>頭<sup>とう</sup>の<sup>せ</sup>ラ<sup>ら</sup>バ<sup>ば</sup>の<sup>の</sup>背<sup>せ</sup>中<sup>な</sup>に<sup>の</sup>乗<sup>の</sup>り<sup>り</sup>、親<sup>しん</sup>切<sup>せつ</sup>  
な<sup>な</sup>友<sup>とも</sup>だ<sup>だ</sup>ち<sup>ち</sup>も、馬<sup>ば</sup>車<sup>しゃ</sup>に<sup>の</sup>乗<sup>の</sup>り<sup>り</sup>込<sup>こ</sup>み<sup>み</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た。さ<sup>さ</sup>よ<sup>よ</sup>な<sup>な</sup>  
ら<sup>ら</sup>を<sup>い</sup>言<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>二<sup>ふ</sup>人<sup>たり</sup>は、別<sup>べ</sup>々<sup>つ</sup>の<sup>み</sup>道<sup>ち</sup>を<sup>い</sup>行<sup>い</sup>き、そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>  
ぞ<sup>ぞ</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>農<sup>のう</sup>場<sup>じょう</sup>へ<sup>かえ</sup>と<sup>と</sup>帰<sup>かえ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>き<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た。

ジェ<sup>じ</sup>レ<sup>れ</sup>ミー<sup>ー</sup>は、サ<sup>さ</sup>ム<sup>む</sup>に<sup>じゅう</sup>十<sup>じゅう</sup>ド<sup>ドル</sup>の<sup>か</sup>お<sup>かね</sup>金<sup>ね</sup>を<sup>はら</sup>払<sup>はら</sup>  
わ<sup>わ</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>な<sup>な</sup>り、彼<sup>かれ</sup>は、そ<sup>そ</sup>の<sup>か</sup>こ<sup>こ</sup>  
と<sup>と</sup>を<sup>か</sup>考<sup>かんが</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た。一<sup>いっ</sup>体<sup>たい</sup>ど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>や<sup>や</sup>つ<sup>つ</sup>て、そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>  
だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>の<sup>か</sup>お<sup>かね</sup>金<sup>ね</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>め<sup>め</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>し<sup>し</sup>ょう<sup>う</sup>？

つづ  
(続<sup>つづ</sup>く)

# だいしょう 第12章

## りっぼう かた かみさま 律法をお語りになる神様



### あんしょうせいく 暗唱聖句

ちち いまし ある  
「父の戒めどおりに歩くことが、すなわち、愛であり、あなたがた  
はじ き あい ある  
が初めから聞いてきたとおりに愛のうちを歩くことが、すなわち、戒  
めなのである」。—ヨハネ第二の手紙6節



### にちようび 日曜日

ひと  
イスラエルの人たちがエジプトを  
しゅつぱつ すうしゅうかん  
出発してから、まだ数週間  
しかたっていませんでしたが、とても長い  
じかん おも  
時間がたったように思われました。ほんの  
すうしゅうかん じつ  
数週間で、実にいろんなことがありまし  
かみさま しんらい しん たよ  
た。神様への信頼〔信じて頼りにすること〕

まな びと  
を学ばせようとしたのに、イスラエル人は  
ふへい ふまん い もんだい  
不平不満ばかり言って、すべての問題を、  
モーセのせいにしてしましました。

こんしゅう ものがたり かみさま いわ みず だ  
今週の物語は、神様が、岩から水を出  
された場所に、イスラエル人がキャンプ  
をしているところから始まります。神様は、  
シナイというところの、ある特別な山へと、  
かれ みちび とくべつ やま  
彼らを導かれました。出エジプト記19章  
の2節を読んでください。かれ  
せつ よ かれ  
の2節を読んでください。彼らはそこに、  
いちねんちか  
一年近くとどまります。

ひじょう なが あいだ どれい  
非常に長い間、奴隷であったために、  
イスラエル人は、どうやって国を立ち上  
げ、その国を治めればよいのか、分かり  
ませんでした。神様の律法〔命令、おきて〕  
の意味を知り、どうやってそれらの律法に  
したが まな ひつよう  
従うかを、学ぶ必要がありました。そうす  
れば、神様が彼らの指導者となってくださ  
り、彼らを強くてよい国にすることができ  
るのです。ほか くにぐに ひと かれ み  
て、ついには世界中の人たちが、力強い  
あい かみさま し  
愛の神様を知るようになることが、神様の  
けいかく  
ご計画でした。

しかしまず、イスラエルの人たちが、

かみさま しんらい まな ひつよう  
神様にまったく信頼することを学ぶ必要が  
ありました。かれ かみさま りつぼう したが  
彼らは、神様の律法に従うこ  
とを選ぶのが、どれほど大切かを理解す  
る必要がありました。そうするとき初め  
て、かみさま かれ たす しゆくふく  
神様は、彼らを助け、祝福すること  
ができるのでした。

5節を読んでください。すばらしい約束  
ですね。しかし、「もし」という言葉に  
ちゅうい かみさま むり しんらい  
注意してください。神様は、無理やり信頼  
させたり、したが けつ  
従わせたりは、決してなさいま  
せん。いつでも、サタンのずるがしこいう  
そをしん かみさま やくそく しんらい  
そを信じるか、神様の約束に信頼するか  
は、自分で選ばなくてははいけないのです。

かんが  
**考えてみよう：**かみさま じぶん  
神様は、ご自分がサタン  
よりもずっと力があり、すべての約束を守  
ることができるということを、なんど しめ  
何度も示して  
かみさま やくそく  
こられました。神様の約束を、いくつあげ  
ることができますか？

## げつようび 月曜日

ひと ざん  
イスラエルの人たちは、シナイ山と  
い とうくべつ やま まえ  
いう特別な山の前で、キャンプを  
かみさま たみ なに  
していました。神様はモーセに、民に何  
かた い しゆつ  
を語りなさいと言われましたか？ **出エジ  
プト 19：3-7。**

ちやうろう あつ かみさま  
モーセは、長老たちを集めて、神様が  
いわれたことを、そのまま彼らに告げまし  
た。それから、たみ なん こた  
民は何と答えましたか？

8節。  
かれ おお やくそく かれ  
彼らは、大きな約束をしました。彼らは、  
ほんき おも  
本気だったと思いますか？ たぶん、ほと  
んどの人、ひと ほんき  
は、本気だったはずですよ。

かれ わ  
けれども、彼らがまだ分かっていなかっ  
たのは、じぶん やくそく まも ちから  
自分たちには約束を守る力がな  
いということでした。たどえ、ほんとう まも  
本当に守  
りたかったのだとしても、かみさま  
神様にまったく  
しんらい たす  
信頼して助けてもらわなければ、やくそく  
守ることはふかのう  
不可能〔できないこと〕だった  
のです。

かみさま じぶん ぜんのう  
神様は、ご自分の全能の〔どんなこと  
でもできる〕ちから びと しめ  
力を、イスラエル人に示す  
ために、あらゆることをしておられました  
か？ ほか くにくに  
他のすべての国々は、サタンのうそ  
をしん こ  
を信じ込んでいました。みんな、やく た  
役に立  
たない偶像を拝み、偶像が自分たちを助  
けてくれると信じていたのです。

それでも、みんながサタンに従って  
いたわけではありませんでした。せかい つみ  
世界に罪が  
はい じだい かみさま  
入ってきてから、いつの時代にも、神様  
たい しんじつ ひと  
に対して真実な人たちがいました。今  
や、イスラエルの人たちは、じぶん  
自分たちも、  
かみさま しんじつ やくそく  
神様に真実をつくすと約束していたので  
す。

まえ びと  
前に、イスラエル人が、そのようなこ  
とをしたことがありましたか？ **出エジプト  
記 14章の 31節**を読んでください。とこ  
ろが、メラに来て数日後に、何が起こりま  
したか？ またほか かみさま じぶん  
他にも、神様が、ご自分に  
しんらい あた  
信頼するチャンスを与えたことがありまし  
たか？ また、こんかい  
今回はどうなるのでしょうか？

かんが  
**考えてみよう：**なに やくそく  
何かをすると約束して、  
わす かの  
忘れてしまったことがありますか？ お母さ  
んに、お部屋をきれいにしなさいと言われ  
て、お部屋のおうじとかたづけをしたこと  
があるでしょうか？ そして、お部屋はいつ

でもきれいにしておくと、<sup>けっしん</sup>決心したことがあ  
りますか？ いちど心<sup>こころ</sup>に決めて、<sup>じぶん</sup>自分に約束  
したら、あきらめずに、イエス様が必ず助  
けてくださることをおぼえてください。

## かようび 火曜日

**イ**スラエルの人たちは、<sup>かみさま</sup>神様に従  
い、<sup>かみさま</sup>神様が望まれることは何でも  
やります、と約束しました。

彼らが従いたいと言ったので、<sup>かみさま</sup>神様は  
お喜びになりました。しかし、<sup>かみさま</sup>神様の助  
けがなければ、彼らは何もできないこと  
を、<sup>かみさま</sup>神様はご存知でした。従うことができ  
ようになる前に、まず<sup>かみさま</sup>神様に信頼するこ  
とを学ばなければなりませんでした。

<sup>かみさま</sup>神様は、イスラエル人を、シナイ山の  
ふもとに<sup>みちび</sup>導かれましたが、それは、彼らと  
の特別な会合〔集まり〕を開くためでした。  
彼らに語るべき、大切なことがたくさんあっ  
たのです。民は、どうやって会合に備える  
べきでしたか？ **出エジプト 19:10 - 13。**



みんなが急いで準備をした様子が、  
想像できますか？ 準備の時間は、二日し  
かありませんでした。人々が越えてはい  
けない場所に、しるしがつけられました。  
全員、自分たちの着物と体を洗いました。

三日目の朝、民は用意ができていまし  
た。山の頂上のほうを見ると、そこは厚く  
て黒い雲で覆われていました。下のほう  
へおりてくるにつれて、その雲は、さらに  
真っ黒になり、ついには山全体を覆った  
のでした。

突然、ぶ厚い黒雲から、まぶしい稲光  
がひらめき、すさまじい雷が鳴り響きまし  
た。火と煙が、もくもくと空まで立ち昇り  
ました。地面はふるえ、そこにいた人々も  
ゆさぶられました。彼らは怖くなってひざ  
まずき、地面に頭を伏せました。モーセ  
ですら、恐ろしくなりました。**出エジプト  
記 19章の16節とヘブル人への手紙 12  
章の21節**を読んでください。

**かんがえてみよう：**<sup>かみさま</sup>神様は、<sup>ちゆうい</sup>みんなの注意を  
向けさせようとしておられたのでしょうか？ あ  
る、とても大切なことを、彼らに語ろうとし  
ておられたのでした。それは、私たちにとっ  
ても、とても大切なことです。

## すいようび 水曜日

**神**様ご自身が、ご自分の民とお語  
りになるために、下って来ておら  
れました。みんなが注目しています。それ  
から突然、恐るべき光景と音がなくなり、  
あたりが、シーンと静まり返りました。人々

が静かに耳をすましていたとき、最初に聞こえてきた言葉は、どのようなものでしたか？ **出エジプト 20：1、2。**

神様ご自身が語っておられることを、疑う者はいませんでした。

それから、聖書の中で、もっとも大切な言葉が語られました。十戒の言葉です。

**3節から17節**まで読んでください。

サタンは、神様の十戒を憎んでいます。私たちが十戒について考え、それらの戒めに従うことを選ばないように、サタンはあらゆる手をつくしています。戒めに従うことを選ぶとき、イエス様が私たちに助けをくださり、私たちが幸せになることを、彼は知っているからです。

天において、サタンは、神の律法〔命令、おきて〕に従わないことを選びました。さらに彼は、たくさんの天使たちに、彼のうそを信じ込ませ、彼と同じまちがいを犯すように仕向けました。美しいエデンの園では、アダムとエバを誘惑し、彼らにも、うそを信じ込ませてしまいました。その後は、アダムとエバの子供たち、つまりこの世界に生まれてくるすべての人を、簡単にだますことができるはずでした。

もしも、完全な天使と人間をだまして、うそを信じ込ませることができたならば、世界中の人たちも、同じようにだますことができる自信が、サタンにはありました。この世界に生まれてくるすべての人は、自分を信じることを選び、永遠に自分の奴隷となるだろうと、彼は考えたわけです。

確かに、ひとりの人を除いては、この世界に生まれてきたすべての人が、罪を

犯しました。けれども、神様は私たちに喜んでゆるし、愛し、助けてくださるので、私たちは、神様にまったく信頼することができるのです。そのことを知っている人たちは、神様に忠実であることを選び、心をつくして神様を愛してきました。

**考えてみよう：**自分も、神様に忠実に生きることを選んだ人たちの一員であることを、あなたは喜んでいますか？ 他にも、忠実に生きた人の名前を、聖書の中からあげることができますか？

## もくようび 木曜日

神様が与えてくださった十戒について、学び始めました。できれば、一つひとつの戒めを憶えましょう。むずかしくはないはずです。もういちど、**出エジプト記 20章の3節から17節**を読んでください。

神様が十戒をお語りになった後、人々はまだ、恐れおののいていました。彼らはモーセに、どんなお願いをしましたか？ **18、19節。**

神様と話をしに行く前に、モーセは、人々に何と言いましたか？ **20節。**神様は、ご自分の民が、神様を怖がることを、望んでおられません。罪を怖がることを、望まれたのです。律法をお与えになったのは、罪がどのようなものであるかを、お教えになるためでもありました。

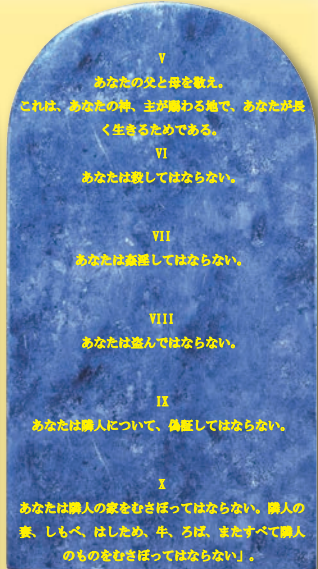
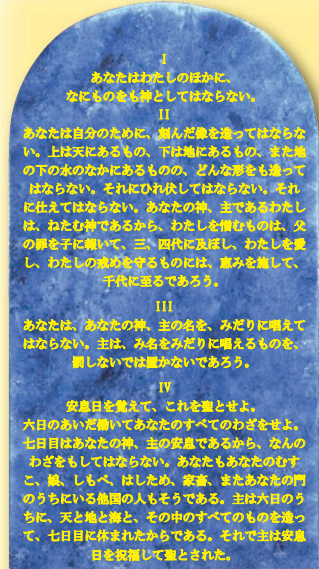
十戒に従わないことが、罪を犯すことです。 **1ヨハネ 3：4。**神様に従わないのは、

したが  
サタンに従うこ  
とと同じなので  
す。

かみさま りつぼう  
神様の律法  
ひとこと  
を一言でまとめ  
るとしたら、ど  
のことば いちばん  
の言葉が一番  
ふさわしいか  
し  
知っています  
か？ それは、  
「愛」という  
ことば  
言葉です。ヨハ  
ネ第一の手紙  
しょう せつ  
4章の8節を  
よ  
読んでくださ

い。そこに、かみさま あい か  
神様は愛です、と書かれて  
いますね。かみさま あい も  
神様は、愛を持っておられる  
だけでなく、かみさま あい  
神様が愛なのです。だから、  
かみさま  
神様はすべてのことを、あいをもつてなさる  
のです。かみさま にく ひと  
神様が憎むただ一つのものが、  
つみ わたし あい かみさま  
罪です。私たちが愛しておられる神様は、  
つみ わたし ぎず ほろ  
罪が私たちが傷つけ、滅ぼしてしまうこと  
を、ご存知なのです。

わたし みな つみ おか  
私たちは皆、罪を犯したので、みんな  
が罪人です。しかしかみさま わたし あい  
神様は、私たちが愛  
しておられます。すべての罪人を、愛して  
おられるのです。ただし、わたしのつみ  
だけ、憎んでおられます。だから何よりも、  
わたしのつみ  
私たちの罪をゆるし、わたしのうちから罪  
をとりのぞきたいと、望んでおられるので  
す。そのために、じっかい したが わたし  
十戒に従うことを、私  
たちが選ぶことを望まれています。かみさま  
神様の  
いまし したが えら かみさま わたし  
戒めに従うことを選ぶなら、神様は私たち  
を助けることができになります。



# TEN COMMANDMENTS

## 十戒

かんが  
考えてみよう：  
ときは、ほか ひと  
時には、他の人た  
まちが  
ちが間違っただ  
み  
をしているのを見  
て、「自分は、そ  
じぶん  
んなことは絶対に  
ぜったい  
やらない」と思うこ  
おも  
とがあるかもしれ  
ません。でも、私  
わたし  
たちは本当に、他  
ほんとう ほか  
の人たちよりも偉  
いのでしょうか？  
えら  
みんなが罪人であ  
ることを、忘れな

いでください。わたしは、自分が間違っ  
たことをしても、ほか ひと まちが  
他の人たちが間違っただ  
かな  
をしても、そのことを悲しむべきです。で  
も決して、自分は他の人よりも偉いと感  
じ  
るべきではありません。

### きんようび 金曜日

き  
のうは、かみさま じっかい あい  
神様の十戒が、愛の  
りつぼう  
律法であることを学びました。  
りつぼうがくしゃ たず  
律法学者に尋ねられたとき、イエス様  
おな い りつぼうがくしゃ  
も同じように言われました。律法学者の  
しつもん  
質問とは、どのようなものでしたか？ マタ  
イ 22:35、36。

イエス様は、何とお答えになりました  
か？ 37 - 40 節。戒めに従う方によって、  
わたし ところ かみさま あい ほか  
私たちは、心をつくして神様を愛し、他  
ひと じぶんじしん あい  
の人たちを自分自身のように愛することに  
なるのだと、イエス様は言われたのでし

た。

そして、神様の律法は、そのことを教  
えているのです。はじめの四つの戒めは、  
私たちが、神様を愛し、神様に従ってい  
ることを、どうやって示すかを教えていま  
す。あとの六つの戒めは、私たちが、他  
の人たちを自分自身のように愛しているこ  
とを、どうやって示すかを教えています。

それでは、あなたは、私たちが十戒を  
正しく理解することは、大切だと思いま  
すか？ とても大切です。十戒を正しく理解  
し、戒めに従えるように、イエス様に助け  
ていただくことを選ぶとき、助けは必ず与  
えられると、信じることができるようになる  
のです。

来週は、十戒が、心をつくして神様を  
愛し、他の人たちを自分自身のように愛す  
る手助けをしてくれることについての、学  
びを始めます。

**考えてみよう：**十戒に従うことによって、  
サタンのすべての誘惑を止められること  
を、知っていますか？ だからサタンは、私  
たちに、十戒を理解してほしくないのです。  
シナイ山で、モーセが神様とお話をしに  
行ったとき、人々のために、どうやって思  
いやりのある律法を作るべきかを、神様は  
ていねいに説明してくださいました。律法  
は、神様と他の人たちへの愛を、どうやっ  
て示すべきかを教えてくれるのです。

## まな もっと学ぼう！

★出エジプト記 19章、20：1-20

★人類のあけぼの上巻 p. 350-355

★あがないの歴史 p. 169-172



## ジェレミーのラバたち—パート 3

イヴォンヌ・ダースト

→ 頭の忠実なラバたちが死んだの  
→ で、ジェレミーは、家族と農場  
の動物たちをやしなうために、作物を育  
て、お金をかせぐことができなくなりました。  
町からの帰り道、彼は昔からの友だ  
ちであった、サムに会いました。サムは、  
荷馬車の後ろに二頭のラバを連れていま  
した。サムは、ラバたちを買うようジェレ  
ミーにお願いし、お金はあとで払えばい  
いから、と言いました。若くてりっぱなラ  
バが手に入ったので、ジェレミーはありが  
たく思いましたが、ラバを買ったお金を、  
どうやって払ったらよいだろうかと考えて  
いました。

一頭のラバの背中  
に乗り、もう一頭のラ  
バを引きながら、ジェ  
レミーは家に向かっ  
ていました。もう少し  
で家に着くところで、  
変わったものが道に止まっているのを見ま  
した。それらは馬車のようにも見えましたが、  
引いている馬はいません。道のまん  
中の、大きなぬかるみにはまって、動け  
なくなっていたのです。

近づいていくと、自動車という乗り物だ  
とわかりました。自動車については、何  
かで読んだことがありましたが、じっさい



に見るのは、これが初めてでした。ここで  
彼が見たのは、フォードのティー・モデル  
と呼ばれている車でした。

ラバたちも、はじめて自動車を見たから  
か、とても驚いていました。自動車の中  
にいた人たちは、みな上品な、お金持ち  
の身なりをしていました。ぬかるみに足を  
突っ込みたくなかったので、だれも外に出  
てこようとはしません。

先頭の自動車を運転していた人が、ジェ  
レミーに話しかけました。「ご主人、りっ  
ぱで丈夫そうなラバをお持ちですね。見  
てお分かりのように、私たちは困っていま  
す。自動車を、ぬかるみから抜け出させ

ることができないので  
す。ご主人のラバた  
ちに、自動車を引っ  
ぱってもらえないで  
しょうか？」

ジェレミーはにこ  
にこしながら、「いい  
ですよ」と答えました。

ジェレミーは、すぐにラバからとびおり  
て、ぬかるみに入っていました。まず、  
先頭の車にロープをくりつけると、ラバ  
たちは、かんたんに引っぱり出すことがで  
きました。それからまた、ぬかるみにも  
どって、次の車も同じようにして引っぱり  
出しました。それからまた、同じように、



さんだいまくるまひだ  
三台目の車も引っぱり出すこと  
ができました。

その時までには、ジェレミー  
もラバたちも、どろだらけ  
になっていました。でも、  
自動車に乗っている人たちを  
助けることができた喜びで、そ  
んなことはまったく気になりませ  
んでした。うちに帰れば、どろは、  
きれいに洗いおとすことができますから。

自動車に乗っていた人たちは、ジェレ  
ミーにととても感謝しました。全員、自動車  
からおりてきて、ジェレミーに「ありがとう  
ございました」と言って、一人ひとりが、  
彼に一ドルずつ手渡しました。そのころは、  
一ドルといっても、かなりのお金でした。  
自動車に乗っていた人は、全部で十人い  
ました。つまりジェレミーは、なんとその  
日に、十ドルもの大金を手に入れたので  
した。

やがて三台の自動車は、さわがしいエ  
ンジン音をあげながら、十人の人たちを  
乗せて去っていきました。

ジェレミーは、その日イエス様が、彼  
を町に行かせたわけがよく分かりました。

うちに戻ってから、その日に起こったこ  
とを、家族の人たちにひとつ残らず話しま  
した。その日の夜、ジェレミーは家族の  
人たちとともに、感謝の祈りをささげまし  
た。若くて丈夫な二頭のラバが与えられ  
たこと、道に大きなぬかるみを作った雨  
を降らせてくださったことを、イエス様に  
感謝しました。その雨のおかげで、ラバ  
たちの代金として支払うべき、十ドルとい



うお金までも与えられたのです  
から。

# だい しょう 第 13 章

## かみさま あい 神様を愛する



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「あなたは、あなたの神、主の名を、  
みだりに唱えてはならない」。  
—出エジプト記 20 章 7 節

#### にちようび 日曜日

先週、私たちは、愛の神様について学びました。愛は神様の性質そのものであり、神様の律法は愛することを教えており、それは私たちがサタンのようではなく、神様のようになることを選ぶようになるためであることも学びました。

最初の四つの戒めは、神様をどのように愛するかを教えています。残りの六つの戒めは、人と人とが互いに愛し合う方法を教えています。

心から神様を愛し、また人が互いに愛し合うならば、本当の幸せを手に入れることができます。

罪が入ってくる前、天国では、みんなが自然に神様を愛し、たがいに愛し合っていたので、天使たちはとても幸福

でした。愛することは、息をするのと同じように自然なことでした。息をするときに、いちいちその事を考える必要はありませんね。それは自然にできることです。天使たちは、そのように、自然に愛することができました。

罪が入ってくる前の、エデンの園でも、それは同じでした。アダムとエバは、自然に神様とお互いを愛していました。神様とお互いを愛さないということなどは、考えもしませんでした。もちろん彼らも、とても幸福でした。

I  
あなたはわたしのほかに、  
なにものをも神としてはいはならない。  
II  
あなたは自分のために、彫人彫像を造ってはならない。  
上は天にあるもの、下は地にあるもの、また海の下の水のなかにあるもの、どんな形も造ってはならない。  
それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。  
あなたは神、主であらわたりは、わたしを敬むもの、父の御子を敬むもの、三、四代に及ぼし、わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、喜びを感ずる、子代に至るであらう。  
III  
あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。  
主は、お名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであらう。  
IV  
安息日を愛して、これを聖とせよ。  
六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。  
七日目はあなたの神、主の安息日であるから、なんのわざもしてはならない。  
あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしめ、家畜、またあなた光の門のうちにいる他国の人もそうである。  
主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。  
それで主は安息日を祝福して聖とされた。

V  
あなたの父と母を敬え。  
これは、あなたの神、主が命づかる地、あなたが長く生きるためである。  
VI  
あなたは殺してはならない。  
VII  
あなたは姦淫してはならない。  
VIII  
あなたは盗んではいはならない。  
IX  
あなたは隣人の家をむさぼってはならない。  
隣人の妻、しもべ、はしめ、牛、ろば、またすべての隣人のものをむさぼってはならない。  
X  
あなたは隣人について、偽証してはならない。

## TEN COMMANDMENTS

### 十戒

ところが罪が入ってきてからは、すべてがかわってしまいました。神様とお互いを愛することが、自然にはできなくなってしまいました。反対に、私たちはサタンのように、自分のことしか考えないようになってしまいました。わがままな人は決して幸せになれないことを神様はご存知なので、そのような人間の状態を、とても悲しんでおられるのです。

**かんが** **かみさま** **じっかい** **わたし**  
**考えてみよう：神様の十戒を私たちが**  
**し** **りかい** **たいせつ**  
**知って、理解することは、大切なことです**  
**か？** **では、今すぐにでも覚えはじめましょ**  
**う。神様に助けを求めれば、必ず助けは**  
**あた** **かみさま** **やくそく**  
**与えられると、神様は約束してくださいま**  
**した。**

## げつようび 月曜日

**か** **み** **たみ** **ひと**  
**神**の民である、イスラエルの人たちは、シナイ山のふもとでキャンプをしていました。そしてそこでは、とても大切な集まりが持たれていました。

**ちち** **かみさま** **こ** **やま** **き**  
父なる神様とみ子キリストも、山に来ておられました。彼らの栄光は、ぶあつい、黒い雲におおわれていました。そうしないと、人々は神様の栄光に耐えることができなくて、死んでしまうのでした。

**せいれい** **かみさま** **あつ**  
聖霊の神様も、そこにおられて、集まっている人々の心に、語りかけておられました。

それは、そこにいた人々が決して忘れることのないような、とてもおごそか〔重々しいさま〕で、大切な集まりでした。



**びと** **なが** **あいだ** **ひとびと**  
イスラエル人は、長い間エジプトの人々といっしょに暮らしていたので、偶像の神々に慣れてしまっていました。これらの神々は無力で役に立たないものでしたが、エジプト人たちは、偶像の神々に力があると考えていて、イスラエル人の多くも、エジプトの神々を礼拝するようになっていたのでした。

**かみさま** **かれ** **しめ**  
そこで神様は、彼らのまちがいを示そうとしておられました。エジプトを出てから、イスラエルの人たちは本当の神様を礼拝するようになり、神様に信頼して従うことを約束していましたが、じっさいは、まだ神様のことを何も分かっていませんでした。神様は、ご自分がどのようなお方であるかを、示そうとしておられました。

**かれ** **じっかい** **ほんとう** **りかい** **したが**  
もしも彼らが、十戒を本当に理解し従っていたならば、イスラエルの人たちは神様を知って、神様に信頼し、神様を愛することができたはずでした。そして神様は、彼らとかわしたすべての約束を、果たすことがおできになったはずでした。

**かんが** **考えてみよう**：**かみさま** 神様がどのような**かた**お方を、**わたし** 私たちも知る**し** 必要**ひつよう**がありますか？ **せいしよ** 聖書を勉強**べんきよう**しているあなたは、**いま** 今**せつ** それをして**せつ** いるのです。 **しへん** 詩篇 119 篇 9 節から 11 節 **よ** を読んでください。 **じっかい** 十戒を**まな** 学び**はじ** 始めましたか？ **いまし** それらの**こころ** 戒めを、**こころ** 心にたくわえて**いま** いますか？

かようび  
火曜日

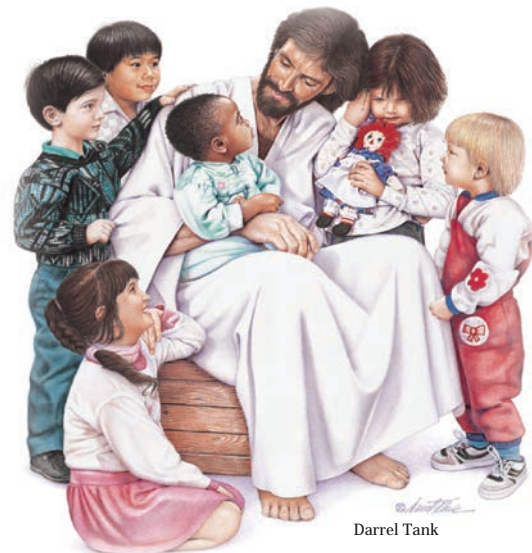
**た** とえ、**てんごく** 天国で**ひやくまんねん** 百万年くらした**あと** 後でも、**かみさま** 神様の**りつぽう** すばらしい**りつぽう** 律法について、**まな** もっと**つづ** 学び**つづ** 続けること**し** でしょう。 **その** その**いっぽう** 一方で**かみさま** 神様は、**こども** 子供たち**まな** とも**したが** 学んで**したが** 従う**したが** ことができる**したが** ように、**じぶん** ご**りつぽう** 自分の**りつぽう** 律法を**と** とも**わ** 分**わ** かり**わ** やすく**わ** してくだ**わ** さい**わ** ました。

**かみさま** 神様が**じっかい** 十戒を**かた** 語**あいだ** っている**あいだ** 間、**イスラエル** イスラエルの**ひと** 人**おそ** たちは、**おそ** 恐れ**おの** おの**の** き**ながら** ながら**き** 聞いて**き** いました。 **もう** もう**いちど** いちど、**かれ** 彼ら**なん** が**い** 何**い** と言**い** った**い** かと**よ** 読んで**よ** ください。 **しゅつ** 出エジプト 20:19。

**つぎ** 次に、**もう** もう**いちど** いちど **20** 20 節**よ** も**よ** 読んで**よ** ください。 **ひと** 人々**ごと** が**じぶん** ご**こわ** 自分を**かみさま** 怖**かみさま** がる**かみさま** ことを、**かみさま** 神様**のぞ** は**せつめい** 望**せつめい** んで**せつめい** お**せつめい** ら**せつめい** れない**せつめい** と、**モーセ** モーセは**説明** 説明**しま** しました。 **たし** 確かに、**かみさま** 神様**じぶん** は**じぶん** ご**ど** 自分が**ど** どれ**ど** ほど**ど** 清**きよ** くて**ちからづよ** 力**かた** 強い**し** 方**し** である**し** かを、**し** 知**し** っ**し** て**し** ほしい**し** と思**し** わ**し** れ**し** ました。 **でも** でも、**かみさま** 神様**いじよう** は**いじよう** それ**いじよう** 以上**いじよう** に、**ひと** 人々**ごと** が**じぶん** ご**あい** 自分を**しんらい** 愛**のぞ** し、**のぞ** 信**のぞ** 頼**のぞ** して**のぞ** ほしい**のぞ** と**のぞ** 望**のぞ** ま**のぞ** れ**のぞ** ました**のぞ** 。

**かみさま** 神様**わたし** は**わたし** 私**いまし** たちに、**い** 戒**ひと** め**ひと** の**ひと** 一つ**ひと** ひとつ**ひと** を**ひと** 約**やくそく** 束**やくそく** として**やくそく** と**やくそく** ら**やくそく** える**やくそく** ことを**やくそく** 望**やくそく** んで**やくそく** お**やくそく** ら**やくそく** れ**やくそく** ます。 **かみさま** 神様**したが** に**えら** 従**えら** う**わたし** こと**わたし** を**わたし** 選**わたし** ぶ**わたし** なら、**わたし** 私**わたし** たちは、**こうげき** サタン**まも** の**まも** 攻**まも** 撃**まも** から**まも** 守**まも** ら**まも** れ**まも** る**まも** の**まも** び**まも** ます。

**つみ** 罪**おか** を**いらい** 犯**わたし** して**じんるい** 以来**じんるい** 、**じんるい** 私**じんるい** たち**じんるい** 人類**じんるい** は、**じんるい** 自分**じんるい** の**じんるい** 力**じんるい** で**じんるい** 神**じんるい** 様**じんるい** に**じんるい** 従**じんるい** う**じんるい** こと**じんるい** が**じんるい** でき**じんるい** なくな**じんるい** っ**じんるい** て**じんるい** い



Darrel Tank

**わたし** ます。 **わた** ぜ**わた** なら**わた** 私**わた** たちは、**わた** サタン**わた** に**わた** 従**わた** い**わた** ます。 **わた** たい**わた** 性質**わた** を**わた** も**わた** っ**わた** て**わた** 生ま**わた** れ**わた** て**わた** き**わた** た**わた** から**わた** ず**わた** ます。 **わた** し**わた** かし**わた** サタン**わた** は、**わた** 私**わた** たち**わた** を**わた** 何**わた** が**わた** なん**わた** だ**わた** も**わた** じ**わた** ぶん**わた** に**わた** 従**わた** わ**わた** せる**わた** こと**わた** は**わた** でき**わた** ませ**わた** ず**わた** ます。 **わた** 私**わた** たち**わた** が**わた** イ**わた** エ**わた** ス**わた** 様**わた** を**わた** 選**わた** ぶ**わた** と**わた** き**わた** 、**わた** かな**わた** ら**わた** ず**わた** 助**わた** け**わた** を**わた** 与**わた** える**わた** と、**わた** 神**わた** 様**わた** は**わた** 約**わた** 束**わた** して**わた** くだ**わた** さい**わた** ました。 **わた** そ**わた** して**わた** 神**わた** 様**わた** は、**わた** かな**わた** ら**わた** ず**わた** 約**わた** 束**わた** を**わた** 守**わた** る**わた** お**わた** 方**わた** ず**わた** ます。 **わた** 神**わた** 様**わた** の**わた** 律**わた** 法**わた** が**わた** 強**わた** 力**わた** な**わた** 壁**わた** の**わた** よ**わた** う**わた** に**わた** な**わた** っ**わた** て**わた** 、**わた** 私**わた** たち**わた** を**わた** サ**わた** タ**わた** ン**わた** から**わた** 守**わた** っ**わた** て**わた** くれ**わた** る**わた** の**わた** の**わた** び**わた** ます。

**びと** **だいいち** **てがみ** **しやう** **せつ**  
コリント人への第一の手紙 10 章 13 節

**よ** を**よ** 読んで**よ** ください。 **それが** 、**ど** どれ**ど** ほど**ど** す**ど** ば**ど** ら**ど** しい**ど** 約**ど** 束**ど** である**ど** か、**かんが** 考**かんが** えて**かんが** みて**かんが** くださ**かんが** い**かんが** ます。 **サタン** が**ど** ん**ど** な**ど** に**ど** 激**ど** しく**ど** 誘**ど** 惑**ど** して**ど** きて**ど** ます。 **かみさま** 神**かみさま** 様**かみさま** は**かみさま** い**かみさま** つ**かみさま** づ**かみさま** も**かみさま** 私**かみさま** たち**かみさま** を**かみさま** 助**かみさま** けて**かみさま** くだ**かみさま** さい**かみさま** ます。 **サタン** に**したが** 従**したが** う**したが** 必要**したが** は**したが** ない**したが** の**したが** び**したが** ます。 **かみさま** 神**かみさま** 様**かみさま** の**かみさま** 律**かみさま** 法**かみさま** と**かみさま** い**かみさま** う**かみさま** 壁**かみさま** の**かみさま** 内**かみさま** が**かみさま** わ**かみさま** は、**つね** つ**つね** に**つね** 安全**つね** な**つね** の**つね** び**つね** び**つね** ます。 **ローマ** 人**ローマ** への**びと** 手**びと** 紙**びと** 8 章**びと** 37 節**びと** を**びと** 読んで**びと** ください。

**かんが** **考えてみよう**：**てんごく** 天国で、**かみさま** サタン**かみさま** は**かみさま** 神**かみさま** 様に**かみさま** 従**かみさま** う**かみさま** こと**かみさま** が**かみさま** でき**かみさま** なくな**かみさま** っ**かみさま** て**かみさま** い

にも、また神様の規則にも従う必要はない  
と言いはりました。彼は今でも、同じうそ  
を言いふらしています。私たちは、サタン  
のうそを信じることを選ぶか、神様に信頼  
することを選ぶかのどちらかしかないこと  
を、聖書は教えています。

## すいようび 水曜日

今日は、十戒についてさらに深く学  
んでみましょう。まず、最初の戒  
めを読んでください。出エジプト 20:3。  
次に、それを覚えて言ってみましょう。

他の何かを神とすることは、一体どうい  
うことでしょうか？ 実は、何であっても、神  
となり得るのです。何であっても、または  
[自分をふくむ] 誰であっても、私たちに  
とって神様よりも大切になるなら、それは  
別の神となるのです。

つまり第一の戒めは、「神様をもっとも  
大切なものとしなさい」と言っています。  
なぜでしょうか？ 考えてみましょう。

私たちの心臓をたえず動かし、体を  
生かしているのは誰ですか？ 日光と雨  
と空気を与えて、私たちの食べ物となる  
植物を育てておられるのは誰ですか？  
昼も夜も、私たちを見守っておられるのは  
誰ですか？ 私たちの心に語りかけて、サ  
タンの言うことを聞かないように注意して  
くださるのは誰ですか？ 人間となることを  
選んで天からやって来られ、私たちがサ  
タンの奴隷となったまま滅びないために、  
死んでくださったのは誰ですか？ 天国で、  
私たちのためにすばらしい住まいを用意

し、間もなく迎えに来られるのは誰です  
か？ 父なる神様と、み子イエス・キリスト、  
そして聖霊の神様です。神様が、すべての  
の疑問に対する答えです。そして私たち  
は、それぞれの神様を、たえず必要とし  
ているのです。

神様が他の何ものよりも、また他の誰  
よりも大切であるという理由は、数えあげ  
たらきりがありません。使徒行伝 17 章の  
28 節を読んでください。

**考えてみよう:** どうかすると、どんなもの  
でも神になってしまいます。例えば、私た  
ちは、毎日あるていどの時間をとって神様  
に話しかけ、み声を聞き、聖書を読んで  
神様について学ぶよりも、他の何かをもっ  
と大切にしてしまうことはないでしょうか？  
ただ友だちに会うために、教会へ行くこと  
はないでしょうか？ 他にも、神となり得る  
ものはないでしょうか？ テレビやビデオ、  
音楽やスポーツ、衣服などはどうでしょう  
か？ **ピリピ人への手紙 3 章の 19 節**を読  
んでください。まちがった食べ方が、神に  
なってしまうことがあると、考えたことはあ  
りますか？ 神様を喜ばせることよりも、他  
の何かを大切にすることがないように、今  
すぐ神様に助けを求めましょう。神様はあ  
なたをとて愛しておられ、あなたが本当  
に幸せでいられるように、いつでも神様  
を第一にしてほしいと望んでおられるので  
す。

第二の戒めを<sup>だいに いまし よ</sup>読んでください。<sup>しゅつ</sup>出エ  
ジプト20:4-6。この戒めは、多くの<sup>いしやうと</sup>異教徒たちのように、偶像<sup>ぐうぞう</sup>を作<sup>つく</sup>って拝<sup>おが</sup>むことを特に禁<sup>とく きん</sup>じています。

偶像<sup>ぐうぞうれいはい</sup>礼拝<sup>れいはい</sup>がもたらす一つの大きな問題<sup>ひと おお もんだい</sup>は、偶像<sup>ぐうぞう</sup>は決して、ほんとうの神様<sup>かみさま</sup>がどのようなお方<sup>かた</sup>であるかを正<sup>ただ</sup>しく教<sup>おし</sup>えることができない、という点<sup>てん</sup>です。ですから、偶像<sup>ぐうぞう</sup>を拝<sup>おが</sup>む人<sup>ひと</sup>たちは、かならずと<sup>い</sup>っていいほど、神様<sup>かみさま</sup>についてまちがった考<sup>かんが</sup>えを持<sup>も</sup>っています。

異教徒<sup>いしやうと</sup>たちは、自分<sup>じぶん</sup>たちの偶像<sup>ぐうぞう</sup>を恐<sup>おそ</sup>れています。そこで、ささげものによって、偶像<sup>ぐうぞう</sup>の神<sup>かみ</sup>を怒<sup>おこ</sup>らせないようにできると考<sup>かんが</sup>えます。彼ら<sup>かれ</sup>を愛<sup>あい</sup>しておられるほんとうの神様<sup>かみさま</sup>のことを、彼ら<sup>かれ</sup>は知<sup>し</sup>らないのです。

第二の戒め<sup>だいに いまし</sup>は、神様<sup>かみさま</sup>のことを、「ねたむ神<sup>かみ</sup>」であるとも<sup>い</sup>言<sup>い</sup>っています。どうして、ねたむ神<sup>かみ</sup>なのでしょう? 「ねたむ」という言葉<sup>ことば</sup>には、よい意味<sup>い み</sup>と悪い意味<sup>わる い み</sup>があります。神様<sup>かみさま</sup>のねたみとい<sup>い</sup>うのは、私<sup>わたし</sup>たちを傷<sup>きず</sup>つけるものが何<sup>なん</sup>であれ、それから私<sup>わたし</sup>たちを守<sup>まも</sup>りたいという、神様<sup>かみさま</sup>の強<sup>つよ</sup>い願<sup>がん</sup>望<sup>ぼう</sup>〔願<sup>ねが</sup>い望<sup>のぞ</sup>むこと〕のことなのです。

たいてい、偶像<sup>ぐうぞう</sup>を拝<sup>おが</sup>む人<sup>ひと</sup>は、親<sup>おや</sup>たちからその悪<sup>わる</sup>いならわしを受<sup>う</sup>けつぎます。サタンのう



そを信<sup>しん</sup>じることにしたために、神<sup>かみ</sup>の家族<sup>かぞく</sup>から離<sup>はな</sup>れていったノアの子供<sup>こども</sup>たちがいたことを、覚<sup>おぼ</sup>えていますか? 彼ら<sup>かれ</sup>は偶像<sup>ぐうぞう</sup>を拝<sup>おが</sup>むようになり、神様<sup>かみさま</sup>を忘<sup>わす</sup>れてしまいました。そして、彼ら<sup>かれ</sup>の子供<sup>こども</sup>たちも、偶像<sup>ぐうぞう</sup>を拝<sup>おが</sup>む者<sup>もの</sup>となりました。

神様<sup>かみさま</sup>を愛<sup>あい</sup>し、神様<sup>かみさま</sup>に信<sup>しん</sup>頼<sup>らい</sup>して従<sup>したが</sup>う親<sup>おや</sup>の子供<sup>こども</sup>たちは、たいてい、同じように神様<sup>かみさま</sup>に従<sup>したが</sup>うようになります。彼ら<sup>かれ</sup>が親<sup>おや</sup>になるとき、自分<sup>じぶん</sup>の子供<sup>こども</sup>たちにも神様<sup>かみさま</sup>を愛<sup>あい</sup>するよう<sup>おし</sup>に教<sup>かみさま</sup>えるのです。神様<sup>かみさま</sup>は、そのような家<sup>かぞく</sup>族<sup>よろこ</sup>をお喜<sup>おお</sup>びになり、大<sup>しゆくふく</sup>いに祝<sup>しゆくふく</sup>福<sup>ふく</sup>してくださいます。

セムの子供<sup>こども</sup>たちは、神様<sup>かみさま</sup>を信<sup>しん</sup>じ礼<sup>れいはい</sup>拝<sup>はい</sup>することを選<sup>えら</sup>びました。アブラハム、イサク、ヤコブは、セムの家<sup>かぞく</sup>族<sup>かぞく</sup>でした。彼ら<sup>かれ</sup>は、自分<sup>じぶん</sup>の子供<sup>こども</sup>たちにも、唯一<sup>ゆいいつ</sup>〔ただひとつ〕のまこと〔本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>〕の神様<sup>かみさま</sup>を愛<sup>あい</sup>し、礼<sup>れいはい</sup>拝<sup>はい</sup>するよう<sup>おし</sup>に教<sup>かみさま</sup>えたのでした。

しかし、ヤコブの家<sup>かぞく</sup>族<sup>な</sup>は、長<sup>なが</sup>い間<sup>あいだ</sup>エジプト<sup>す</sup>に住<sup>す</sup>んでいるうちに、多<sup>おお</sup>くの者<sup>もの</sup>たちが神様<sup>かみさま</sup>を忘<sup>わす</sup>れていきました。そこで神様<sup>かみさま</sup>は、彼ら<sup>かれ</sup>にふたたびご自<sup>じ</sup>身<sup>しん</sup>をあらわし、ご自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>を信<sup>しん</sup>頼<sup>らい</sup>するよう<sup>か</sup>に彼ら<sup>かれ</sup>を導<sup>みちび</sup>こうと、でき<sup>しん</sup>るだけのこと<sup>しん</sup>を<sup>ら</sup>して<sup>ら</sup>れたのでした。

**かんが** **考えてみよう:** 偶像<sup>ぐうぞう</sup>は、神様<sup>かみさま</sup>がどのようなお方<sup>かた</sup>であるかについて、人々<sup>ひとびと</sup>にまちがった考<sup>かんが</sup>えを<sup>あた</sup>与<sup>あ</sup>えます。しかし、手<sup>て</sup>で作<sup>つく</sup>られた偶像<sup>ぐうぞう</sup>を拝<sup>おが</sup>まない人<sup>ひと</sup>でも、神様<sup>かみさま</sup>についてまちがった考<sup>かんが</sup>えを<sup>いだ</sup>抱<sup>いだ</sup>くことによ<sup>だ</sup>って、第二<sup>だいに</sup>の戒<sup>いまし</sup>めを破<sup>やぶ</sup>るということがある<sup>かみさま</sup>でしょうか? 神様<sup>かみさま</sup>について、多<sup>おお</sup>くのまちがった考<sup>かんが</sup>えを持<sup>も</sup>っている人<sup>ひと</sup>は、少<sup>すく</sup>なくあ

りません。神様なんかいない、と言う人もいます。神様は無慈悲な〔思いやり、あわれみの心がない〕方だと考えている人もいます。神様は決して罪を罰しないと知っている人もいます。聖書を読むことによって、神様がどういうお方であるかを、もっともよく知ることができます。

## きんようび 金曜日

第三の戒めを読んでください。出エジプト 20:7。次に、それを覚えて言ってみましょう。

「みだりに」とは、どういう意味でしょうか？ それは、「無意味に」とか「むだに」ということです。砂浜で、苦心してりっぱな砂のお城を作ったとします。すると突然、大きな波がやってきてお城をこわしてしまったら、あなたは何と言いますか？「すべての苦勞がむだになってしまった」と言うかもしれませんね。

神様は私たちに、み名〔主の名〕を注意深く、うやうやしく唱える〔声に出して言う、呼ぶ〕ように求めておられます。決して軽々しく、意味もなく、むだに唱えてはいけません。

クリスチャンという言葉は、キリストから来ています。神のみ子であり、ご自身も神であられるキリストを信じて拝む人のことです。真のクリスチャンは聖書を信じ、神様を愛して信頼し、神様に従います。けれども、もしも神様を愛して信頼す



Darrel Tank

ることなく、神様に従わないクリスチャンがいたとしたら、その人は、キリストのみ名をみだりに唱えていることにならないでしょうか？ ルカによる福音書 6 章の 46 節から 49 節を読んでください。クリスチャンと名乗っているながら、キリストに従わない人たちについて、イエス様は何と言われましたか？ 彼らは、砂のお城を建てている人たちであると言えないでしょうか？

かんがえてみよう：悪い愚かなことば言葉でも、いつも聞いていたら慣れてしまって、いつの間にか自分もそれを使っていた、ということはないでしょうか？ この戒め

は、ほとんどの人が思っているよりも、もっと重要なものではないでしょうか？ この戒めは、私たちの優しい愛の神様、聖なる神様を、もっと愛して敬う手助けをしてくれるものではないでしょうか？

## まな もっと学ぼう！

★出エジプト記 20 章 1-7 節

★人類のあけぼの上巻 p. 355-357

★あがないの歴史 p. 174



## なか いの あらしの中で祈るフレディー

エイミー・シェラード

フレディーの両親は、南アメリカで、宣教師〔外国に送られる伝道者〕として働いていました。彼らはしばしば、伝道用のボートに乗って、アマゾン川流域をたずねまわりました。ボートには、寝泊まりのできる船室がありました。

時にはフレディーも、両親の伝道旅行について行くことがありました。彼にとっ

て、ボートに乗って行ける伝道旅行は、とても楽しいものでした。川沿いの村にボートをとめると、お母さんがまず、近くにワニや大きなヘビがい

ないか調べます。危険な動物がいなければ、フレディーは、川で泳ぐ練習をすることができました。

フレディーは、アマゾンの村々で出会った、肌の色が黒い子供たちと遊ぶのが大好きでした。いつも強い太陽の光を浴びながら遊んでいたのです。フレディーの皮膚も、アマゾンのお友だちと同じくらい黒くなっていきました。

フレディーはいつも、これらのお友だちを、夕方、彼のお父さんが開いている

集会に招待しました。「みんなで歌をうたったり、スライドショーを見たり、楽しいお話もあるよ。ぜひ来てね」と言って誘うのでした。すると、誘われたお友だちは、両親と親戚の人たちを引きつれてやってきます。

ある村で、おひるねの後、はじめはおだやかに吹いていた風が、急に強くなり、

どんだんひどくなっていきました。お父さんは、川岸にとめてあるボートがひっくり返ってこわれない

か、心配していました。彼はボートに飛び乗り、エンジンをかけると、「あそこ古い大きな木にロープを結びつけよう」と言いました。「これは、大変なあらしになるぞ」。

お父さんは何とか、ボートの前の部分を木にくくりつけました。間もなく、小さなボートは、川岸にたたきつける大波に、木の葉のようにもまれていました。あんまり激しく揺れるので、お母さんは気分が悪くなり、寝こんでしまいました。お父さ





んは、ボートの後ろのほうに行き、長い  
ぼうを使って、船が岸にたたきつけられな  
いようにしていました。風のものすごい  
なり声を聞き、また波がますます高くなる  
のを見て、フレディーはとても怖くなりま  
した。三人は、ボートもろとも波にのまれ  
てしまいそうでした。

お父さんが、ボートと自分たちの命を守  
ろうと、けんめいがんばっているときに、  
何かこれまでとは違う音が聞こえてきまし  
た。風や波の音ではありません。それは、  
フレディーが祈っている声でした。「イエ  
ス様、どうか、風がやむようにしてください。  
お母さんが、元気になれるように、助け  
てください。ボートを守っているお父さん  
を助けてください。また、ぼくが泣かない  
ように助けてください。みんなが守られて、  
今日も、友だちと約束したように、夕方の  
集会ができるように導いてください。イエ  
ス様のみ名によって、お祈りします。アー  
メン」。

それから、「もう大丈夫だよ」と、彼は  
お母さんに言いました。「イエス様は、す  
べてご存じだから」。

間もなくして、イエス様は、フレディー  
のお祈りに答えてくださいました。風と波  
が静まったのです。あらしは、二時間で  
やみました。川は、もどおり静かになり  
ました。お母さんも元気になりました。ポー  
トも無事でした。お父さんはロープをほど  
いて、ボートをもとの場所に戻しました。

その日の夕方、フレディーは、数人  
の肌の色が黒い友だちといっしょに、  
一番前の席にすわっていました。集まっ

た人たちみんなで、お母さんのひくオル  
ガンに合わせて歌いました。お父さんは、  
スライドを見せてから、おもしろい聖書の  
お話をしてくれました。フレディーは、お  
友だちとの約束を、守ることができたので  
す。